仙台市文化財調査報告書第271集

仙台城跡4

－平成15年度　調査報告書－

2004年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第271集

仙台城跡4

－平成15年度　調査報告書－

2004年3月

仙台市教育委員会

序　　文

17世紀初頭に初代仙台藩主伊達政宗が仙台城を築き、城下町仙台を育んで以来、仙台は急速な発展を遂げ、人口100万人を超える日本有数の大都市となりました。都市化が進み、かつての城下町の町並みが失われつつある中、仙台城跡は青葉城や天守台という愛称で親しまれ、市民の歴史的シンボル、心のふるさととして生き続けてきました。

仙台城跡は、戦前から第一級の近世城郭遺跡であるとの評価を受けており、昭和20年の空襲で焼失した大手門は国宝に指定されておりました。平成9年度から始まった石垣修復工事に伴う本丸跡の発掘調査や平成13年度から始まった本丸大広間跡の発掘調査成果などを通して、その歴史的評価が高まり、平成15年8月27日付けの官報告示により、仙台市民の念願であった国史跡に指定されました。

築城より400年余り、伊達政宗が築いた仙台城跡は、仙台市民のみならず日本国民の宝となり、未来永劫守られ、皆様に愛されていくことになりました。今回の国史跡指定に際し、ご指導ご協力いただきました文化庁をはじめとする関係諸機関の皆様、そして市民の皆様に深く御礼申し上げます。

さて、今年度は、仙台城跡全域に及ぶ遺構現況調査や大広間跡・御成門跡の発掘調査、本丸にいたる登城路跡の発掘調査、広瀬川護岸石垣の測量調査などが行われました。本丸御殿の主要な建築物であった大広間跡の発掘調査は今年度で3年目を迎え、これまでの調査成果から、その規模や構造などを解明する多くの資料を得ることができました。大広間跡から出土した金銅金具からは、江戸時代初期の金工職人の優れた技術や豪華絢爛な装飾が施された仙台城大広間の姿が想像されます。

今回の調査事業及び調査報告書の刊行にあたり、ご指導、ご協力を賜りました多くの方々に深く感謝申し上げますとともに、本報告書が研究者のみならず市民の皆様に広く活用され、文化財保護の一助となれば幸いです。

平成16年3月

仙台市教育委員会
教育長　阿　部　芳　吉

例　　言

1．本書は、仙台城跡の平成15年度遺構現況調査の報告書である。

2．本調査は、国庫補助事業である。

3．本報告書の作成にあたっては以下のとおり分担し、編集は渡部が行った。

本文執筆　　渡部　紀

遺構台帳作成　　渡部　紀・中山　純・伊藤　隆

4．全体平面図は平面直角座標系Xを用いており、方位角は真北線を基準としている。

目　　次

Ⅰ　はじめに ……1

Ⅱ　地区区分と台帳記入の仕方 ……2

Ⅲ　遺構の現況

1　本丸地区 ……5

本丸地区の全体図 ……5

北壁石垣　石垣1001 ……6

懸造跡石垣　石垣1002 ……19

御守殿跡石垣　石垣1003 ……20

大番士土手　土塁1001 ……21

2　二の丸地区 ……22

二の丸地区の全体図 ……22

二の丸西縁石垣　石垣2001 ……23

二の丸詰門付近石垣　石垣2002 ……24

千貫橋石垣　石垣2003 ……25

筋違橋石垣　石垣2004 ……27

千貫橋西方石垣　石垣2005 ……29

大手門北脇池　池2001 ……30

3　三の丸地区 ……33

三の丸地区の全体図 ……33

巽門西側石垣　石垣3001 ……34

巽門東側石垣　石垣3002 ……36

子門西側石垣　石垣3003 ……38

子門東側石垣　石垣3004 ……40

大手門脇櫓下石垣　石垣3005 ……42

大手門脇櫓下平場　平場3001 ……44

三の丸西側土手石垣　石垣3006 ……45

巽門礎石　門3001 ……46

土塁　3001 ……47
土塁　3002 ……52
長沼水堀　堀3001 ……54
五色沼水堀　堀3002 ……55
4　登城路地区 ……56
登城路地区の全体図 ……56
大手門北側石垣　石垣4001 ……57
大手門脇櫓石垣　石垣4002 ……64
中門北側石垣　石垣4003 ……66
中門南側石垣　石垣4004 ……70
下馬脇石垣　石垣4005 ……75
下馬平場石垣　石垣4006 ……76
沢門下石垣　石垣4007 ……77
沢曲輪石垣　石垣4008 ……78
清水門北側石垣　石垣4009 ……79
清水門南側石垣　石垣4010 ……84
清水門井戸石垣　石垣4011 ……86
時太鼓石垣　石垣4012 ……89
沢門東側土塁　土塁4001 ……90
沢門南側土塁　土塁4002 ……91
中門北側土塁　土塁4003 ……94
下馬平場　平場4001 ……96
沢曲輪平場１　平場4002 ……97
沢曲輪平場２　平場4003 ……98
沢曲輪平場３　平場4004 ……99
沢曲輪平場４　平場4005 ……100
清水門北側平場　平場4006 ……101
造酒屋敷平場　平場4007 ……102
清水門井戸　井戸4001 ……103
見付塀脇石組側溝　石組4001 ……104
5　御裏林地区 ……105
御裏林地区の全体図 ……105
貯水槽石垣　石垣１ ……106
本丸北西壁下石垣　石垣２ ……111
御清水 ……115
御清水石垣　石垣３ ……116
切通堀切　堀切１ ……119

堀切２……120
堀切３……124
堀切４……130
堀切５……132
堀切６……133
土塁１……134
土塁２……135
土塁３……136
土塁４……139
土塁５……140
土塁６……141
貯水槽平場　平場１……142
平場２……143
平場３……144
平場４……145
平場５……146
平場６……147
平場７……148
残月亭推定地平場　平場８……149
平場９……151
平場１０……152
平場１１……153
切岸１……154
６　その他の地区……155
その他の地区の遺構……155
広瀬川護岸石垣１　石垣5001……156
広瀬側護岸石垣２　石垣5002……161
広瀬川護岸石垣３　石垣5003……162
筋違橋東方石垣　石垣5004……164
石垣5005……165
石垣5006……166
石垣5007……168
Ⅳ　まとめ……169
報告書抄録

Ⅰ　はじめに

（1）調査体制

平成15年度は、仙台城跡遺構確認調査の５カ年計画の３年次にあたり、下記の体制で臨んだ。（敬称略･順不同）

調査主体　仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課仙台城史跡調査室）

発掘調査、整理を適正に実施するために調査指導委員会を設置し、指導、助言を受けた。

委 員 長　齋藤　鋭雄（宮城県農業短期大学名誉教授　近世史）

副委員長　岡田　清一（東北福祉大学教授　中世史）

委　　員　鈴木　　啓（福島県考古学会会長　考古学）

西　　和夫（神奈川大学教授　建築史）

北垣聰一郎（奈良県立橿原考古学研究所共同研究員　石垣・城郭研究）

千田　嘉博（国立歴史民俗博物館考古研究部助教授　城郭考古学）

仙台城跡調査指導委員会は以下のとおり開催した。

第７回：平成15年8月29日第6次・第7次調査中間報告、現地視察

第８回：平成15年12月3日第7次・第8次・第9次調査中間報告、現地視察

第９回：平成16年3月17日第6次・第7次・第8次・第9次調査結果報告、現地視察、平成16年度調査計画

分布調査の実施にあたり、東北大学大学院理学研究科附属植物園のご協力をいただいた。

（2）調査担当

文化財課　　課長　青柳　良文

主幹　田中　則和

仙台城史跡調査室長　金森　安孝

主査　大村　　仁

主任　渡部　　紀

教諭　豊村　幸宏

文化財教諭　中山　　純

文化財教諭　伊藤　　隆

（3）調査の目的

仙台城跡を総合的に把握するために、城跡全体に存在する遺構の分布状況を記録化することを目的として遺構現況調査を実施した。

（4）調査の概要

分布調査を行い、目視により確認された遺構の位置、規模などを略計測し、写真撮影を行った。調査結果は遺構台帳に記録した。分布調査は5月7日より開始し8月8日まで継続的に実施し、その後も断続的に調査した。今回対象とした地域は、主に仙台市有地、国有地であることから、それ以外の所有者土地についても分布調査を今後とも継続していく必要がある。

Ⅱ　地区区分と台帳記入の仕方

（1）地区区分（第1図）

基本となる地形図は、昭和63年作成の1/500仙台城跡地形図を用いた。平面直角座標系Xをもとに100m単位のグリッドを設定し、アルファベットと数字によるグリッド記号を付し地点把握の基準とした。また、対象地が広域であるため、本丸跡を中心とした「本丸地区」、二の丸跡から勘定所跡・扇坂跡にかけての「二の丸地区」、水堀を含んだ「三の丸地区」、大手門、巽門から本丸へいたる「登城路地区」、現在東北大学植物園となっている「御裏林地区」、それ以外全てを対象とした「その他の地区」の6地区に区分した。この区分は便宜的なもので曲輪の範囲を正しく反映したものではない。

（2）遺構番号

発見された遺構は、石垣、平場、堀切といった種類毎にそれぞれ1から番号を付したが、地区が分かるように、本丸地区は1001から、二の丸地区は2001から、三の丸地区は3001から、登城路地区は4001から、御裏林地区は1から、その他の地区は5001からとした。また、仮称であるが遺構の名称をつけた。たとえば、本丸地区で解体修復が行われた石垣は、「北壁石垣　石垣1001」と呼称することとした。

（3）計　測

高さ(深さ)：遺構の高さ、深さ。堀切脇の土塁のように下端の高さが両側で異なる場合は、高い方の下端からの計測値を高さとした。これらは任意の数か所で計測した。

幅　　：土塁の場合は基底幅と上端幅、堀切の場合は上端幅を計測した。任意の数か所で計測した。

石垣の勾配：任意の数mおきに石垣表面にスタッフを当て角度を計測した。

石　　材：全く加工のない石を「自然石」、割面のある石を「割石」、規格品として加工された石を「切石」と分類した。

積　み　方：石材の大きさや目地などに規格性がなく不規則な積み方を「乱積み」、横目地が通り整然とした積み方を「整層積み」と分類した。

数　　量：表面で見える限りの石材数を数えた。

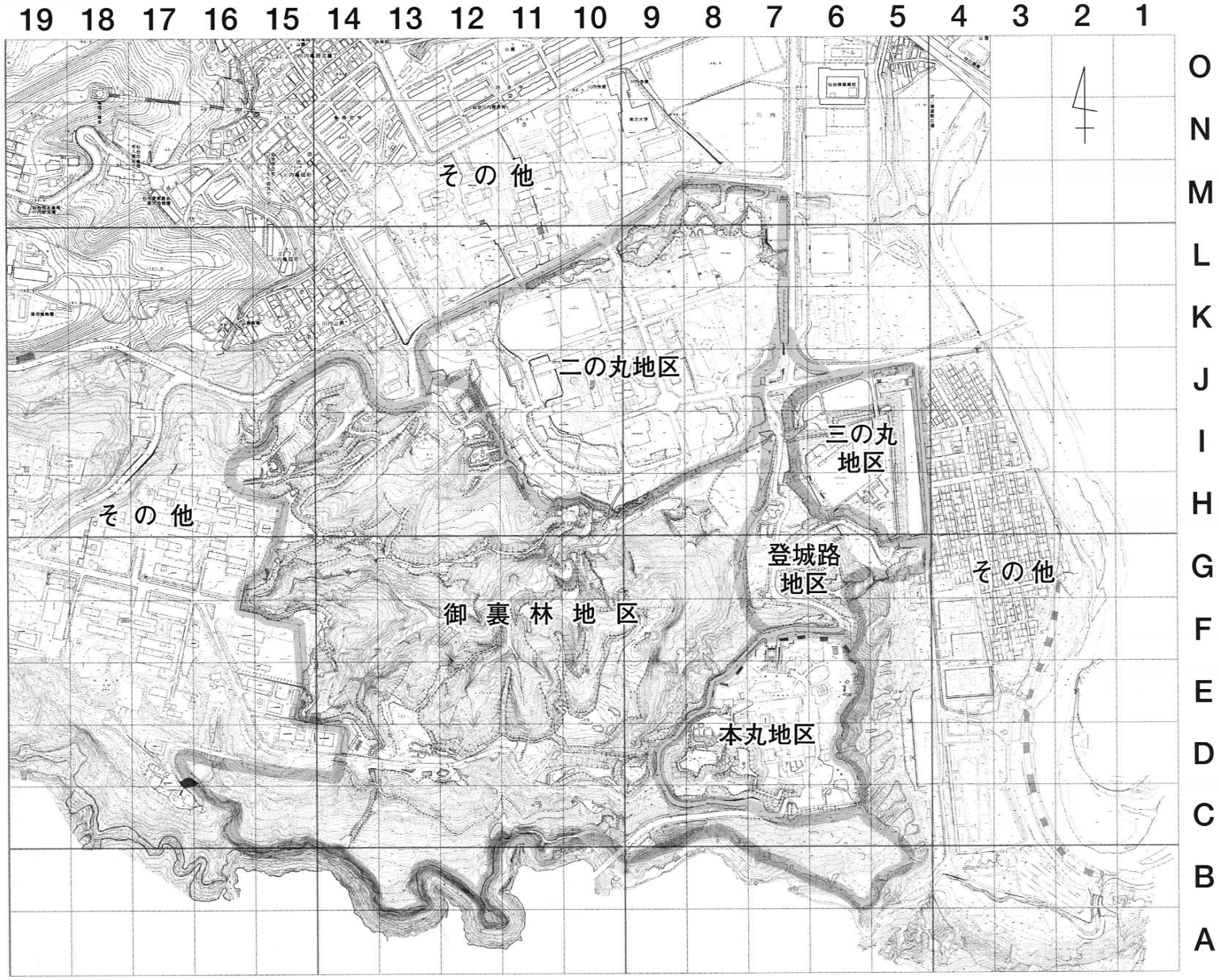
現　　伏：石垣の場合は特に形状の変位を観察した。

（4）写真撮影

写真記録は、35㎜カラーリバーサルフィルムとデジタルカメラ（500万画素）で行った。撮影後のカラーリバーサルフィルムはスライドファイルに収納し、デジタルデータは調査事務所内ハードディスクに記録している。

（5）台帳の作成

分布調査の記録はカード形式の台帳に手書きで記載した（第2図）。この台帳はデータベースソフト（マイクロソフトアクセス）で管理する作業を進めており、将来的には発掘調査データなどとともに（仮称）仙台城跡GISに移管し一括管理していく予定である。



第１図　グリッド配置と地区区分図

遺構位置図

遺構番号

地 区 名

地区番号

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

略　　図

特記事項

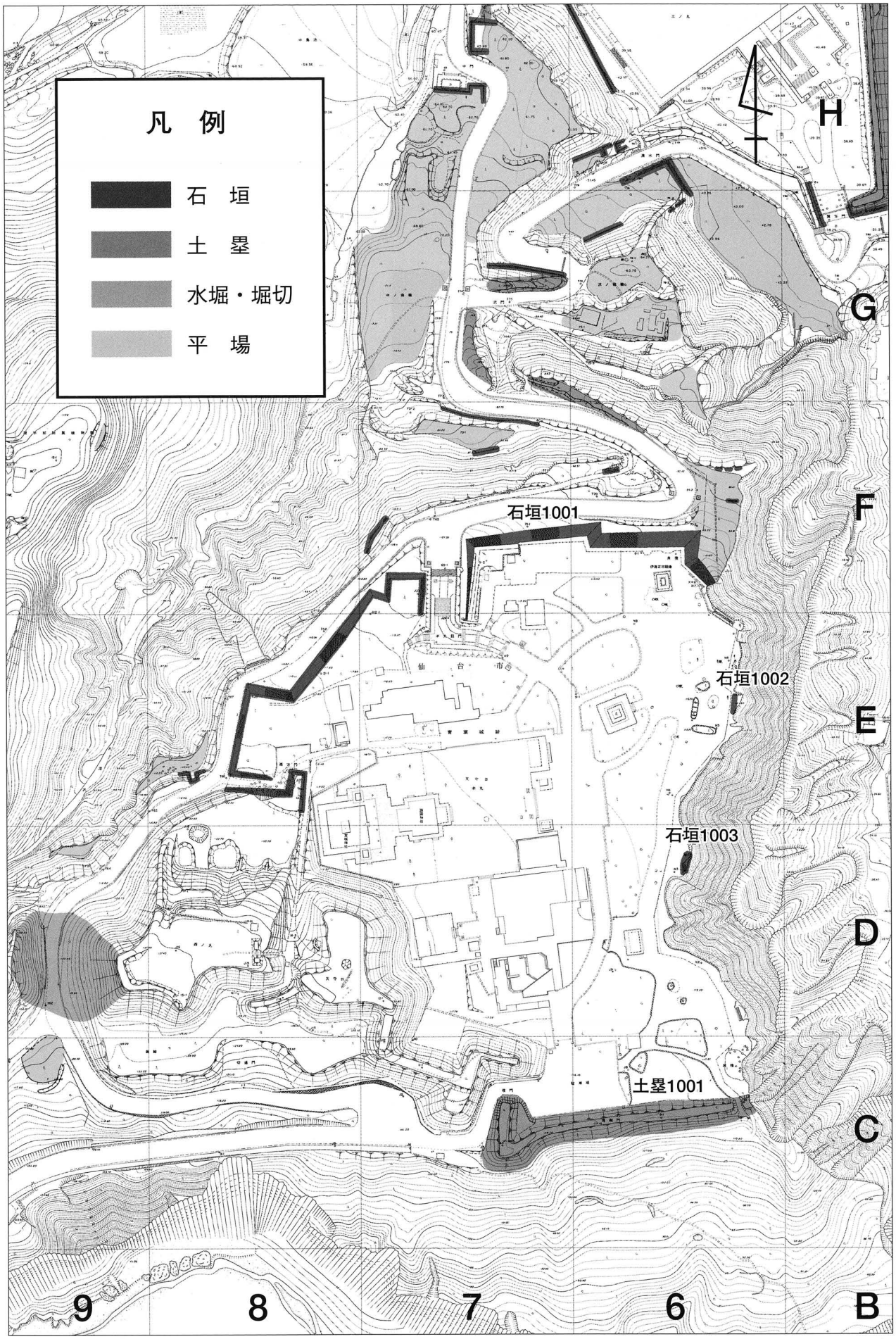
調査年月

/　/

調 査 者

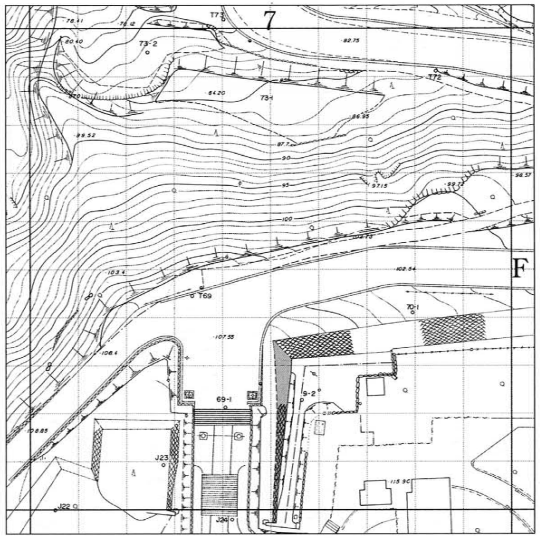
第２図　台帳の様式

Ⅲ　遺構の現況　1　本丸地区

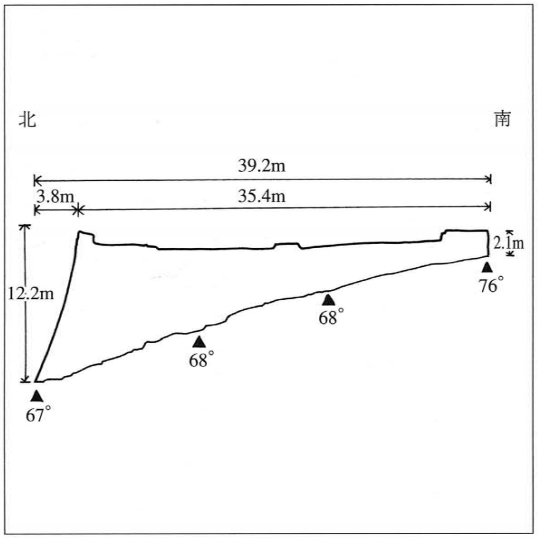


第３図　本丸地区の全体図

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
北壁石垣 A面　石垣1001A

地 区 名
本丸

地区番号
E7、F7

延　　長
39.2m（天端35.4m）

高　さ(深さ)
2.1～12.2m

幅

勾　　配
67～76°

石　　材
切石

積 み 方
整層積み

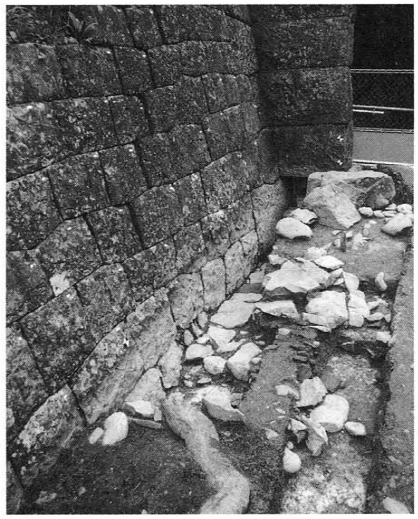
数　　量
897　AB角：19段、AH角：4段、築石6～19段

現　　状
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

特記事項
・天端石の大部分欠損
・南端で、1石分西へ張り出す（本丸詰門接続部）
・本丸詰門礎石あり

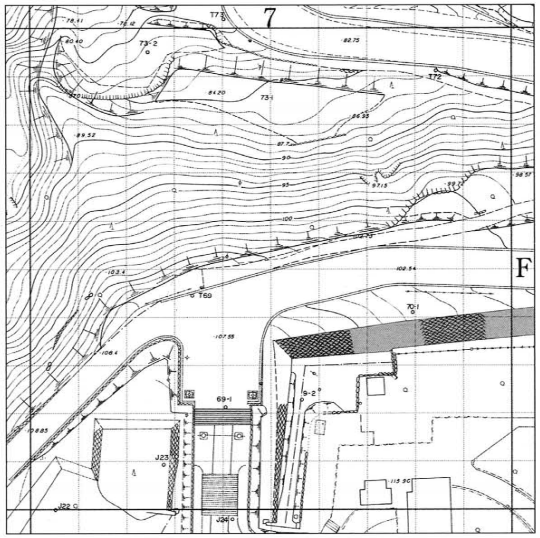
全景（西より）

AB角部（北西より）

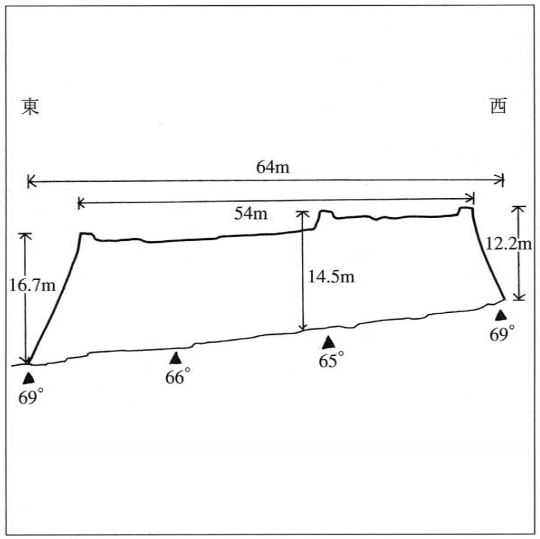


AH角部（北より）

遺構位置図

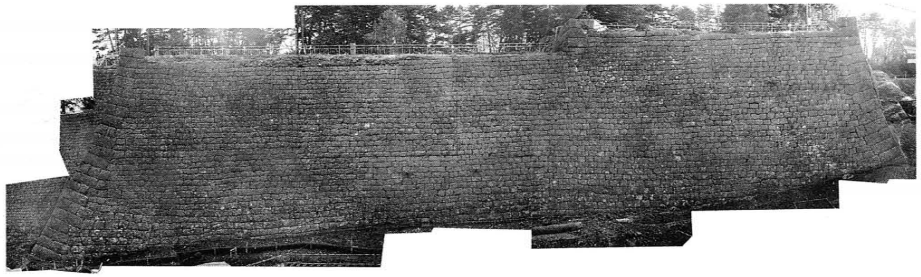


略　図

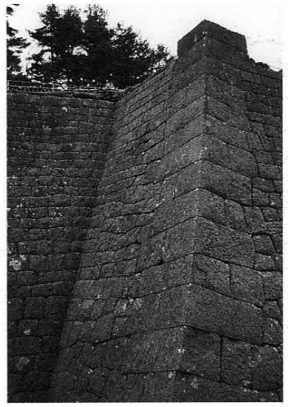


調査年月	調 査 者

遺構番号	北壁石垣B面　石垣1001B
地 区 名	本丸
地区番号	F6、F7
延　長	64m（天端54m）
高　さ(深さ)	12.2～16.7m
幅	
勾　配	65°～69°
石　材	切石
積 み 方	整層積み
数　量	3400 BC角：26段、BA角19段、築石：30～32段
現　状	・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復
特記事項	・西側に東脇櫓台が設けられる。 ・天端石の大部分欠損

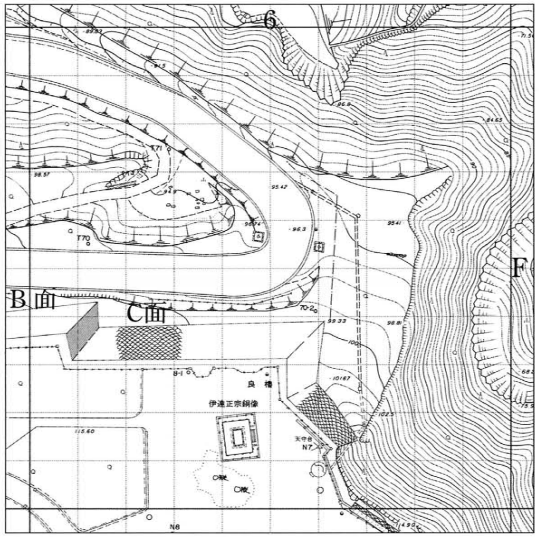


全景（北より）

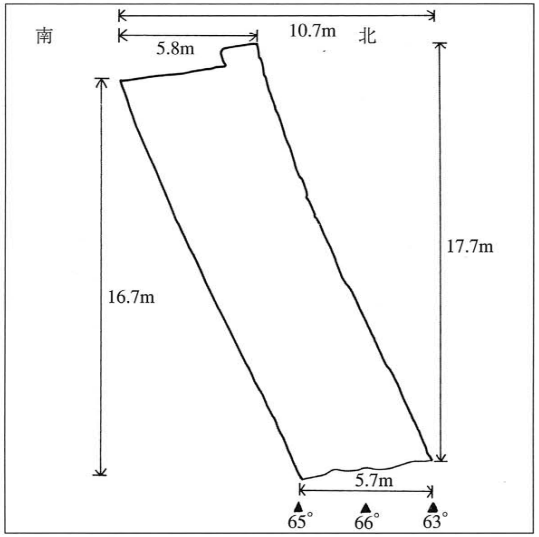


BC角部（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
北壁石垣C面　石垣1001C

地 区 名
本丸

地区番号
F6

延　　長
10.7m（天端5.8m）

高　さ(深さ)
16.7～17.7m

幅

勾　　配
63°～66°

石　　材
切石

積 み 方
整層積み

数　　量
258　BC角：26段、築石36～29段

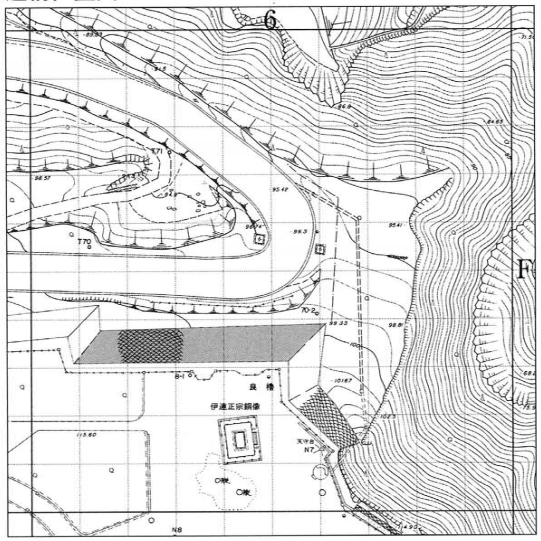
現　　状
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

特記事項
・BC角部のみ天端石残存

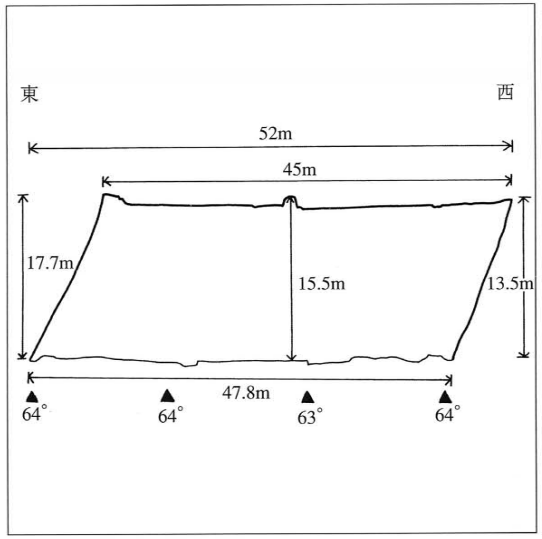
全景（東より）

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
北壁石垣 D面　石垣1001D

地 区 名
本丸

地区番号
F6

延　長
52m（天端45m）

高　さ(深さ)
17.7m

幅

勾　配
63°～64°

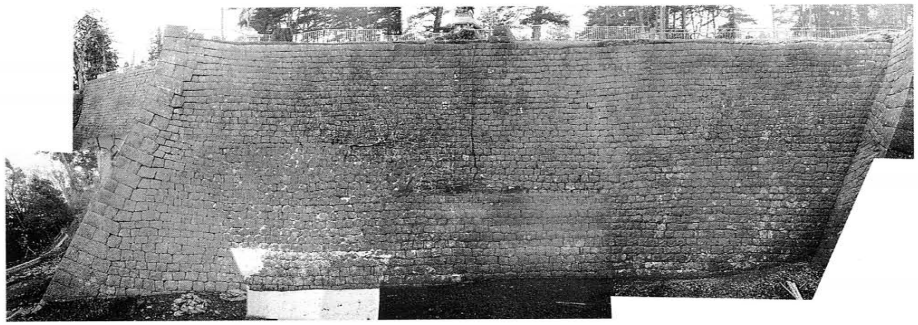
石　材
切石

積 み 方
整層積み

数　量
3027　DE角：27段、築石：32～36段

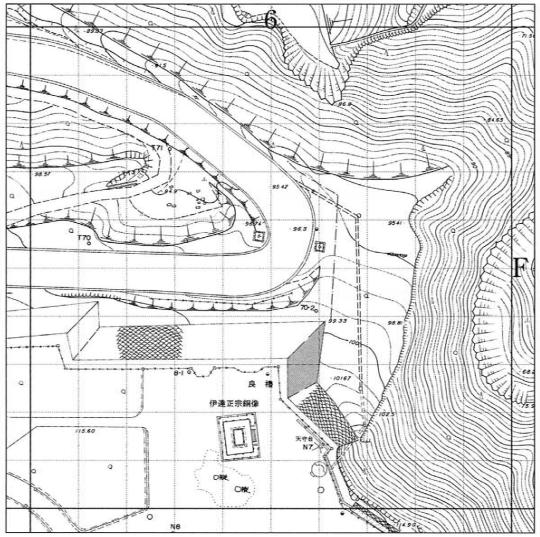
現　状
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

特記事項
・東側に櫓台が設けられる
・天端石の大部分欠損

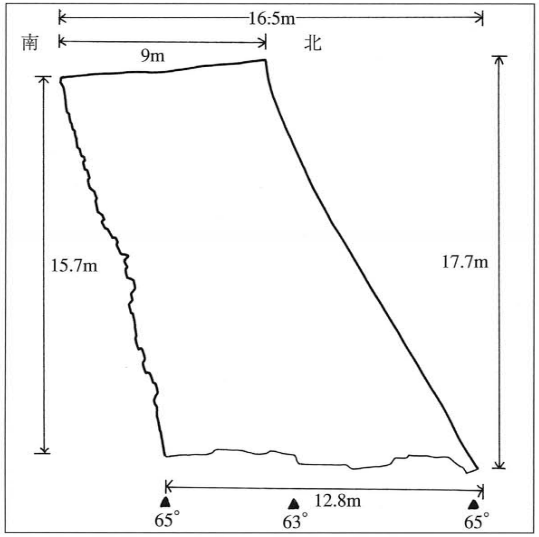

全景（北より）

DE角部（北東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号

北壁石垣E面　石垣1001E

地 区 名

本丸

地区番号

F6

延　　長

16.5m（天端9m）

高　さ(深さ)

17.7～15.7m

幅

勾　　配

63°～65°

石　　材

切石

積 み 方

整層積み

数　　量

561　DE角：26段、築石：32～35段

現　　状

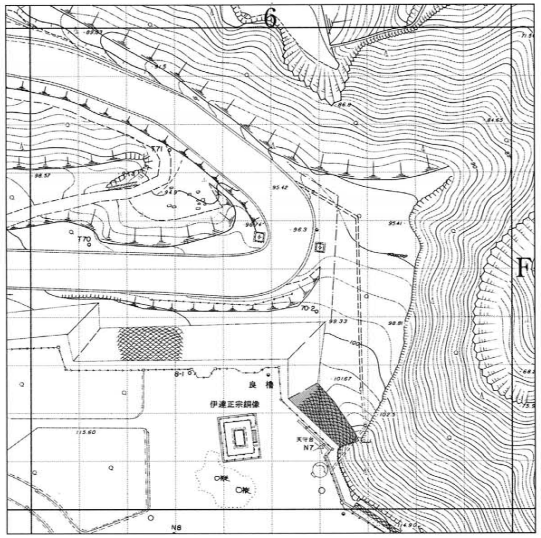
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

特記事項

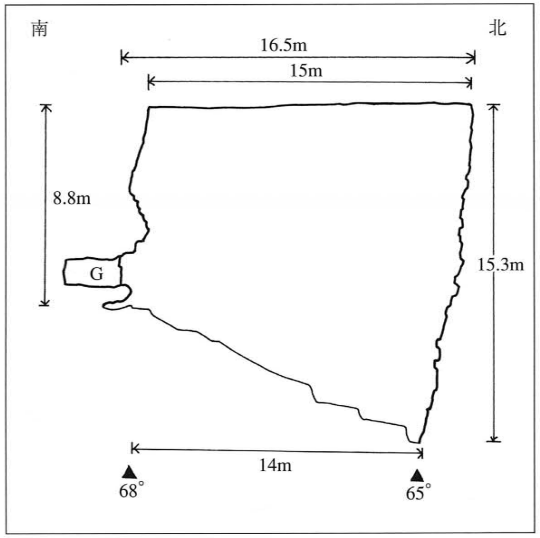
・天端石は残存している

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
北壁石垣F面　石垣1001F

地 区 名
本丸

地区番号
F6

延　長
16.5m（天端15m）

高　さ(深さ)
15.3～8.8m

幅

勾　配
65°～68°

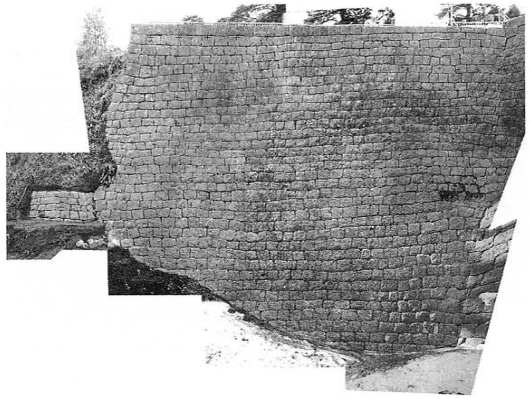
石　材
切石

積 み 方
整層積み

数　量
1045　築石：25～39段

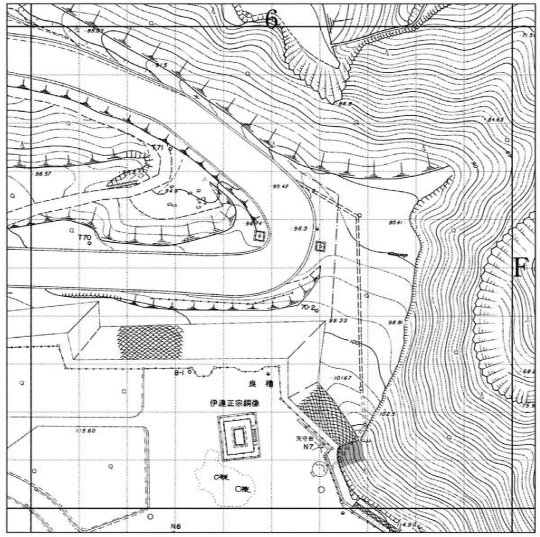
現　状
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

特記事項
・天端石は残存している

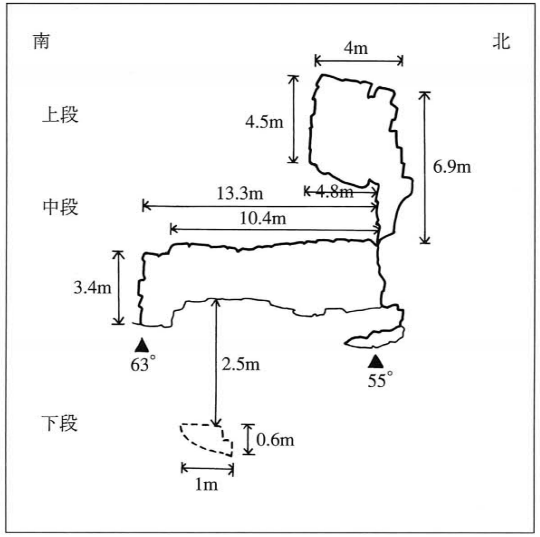


全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号

北壁石垣G面　石垣1001G

地 区 名

本丸

地区番号

F6

延　長

上段：4.8m　中段：3.4m　下段：1m

高　さ(深さ)

上段：6.9m　中段：3.4m　下段：0.6m

幅

勾　配

中段南端：63°　北端：55°

石　材

切石

積 み 方

整層積み

数　量

113　上段：6段、中段4～5段

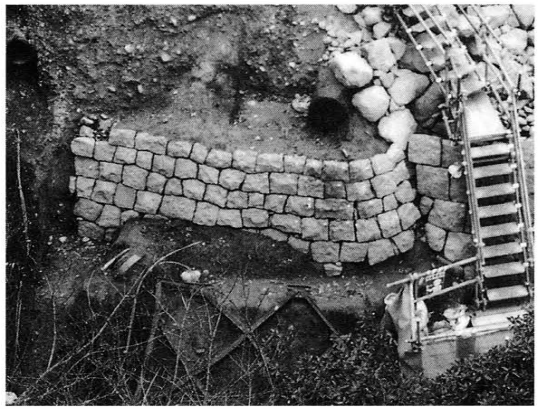
現　状

・上段は解体修復
・中段、下段は現状のまま

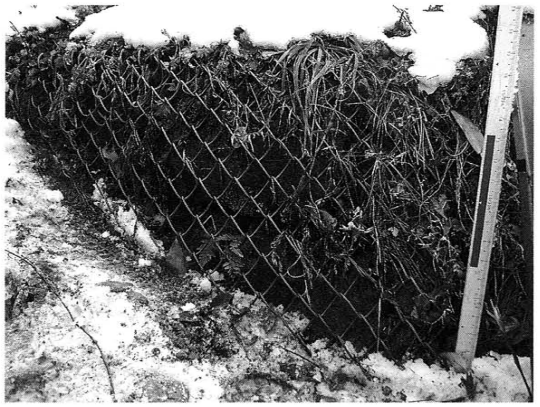
特記事項

・上中の2段は、F面から弧状に曲がる
・下段は土砂に覆われているが切石を4石確認した

上段（南東より）

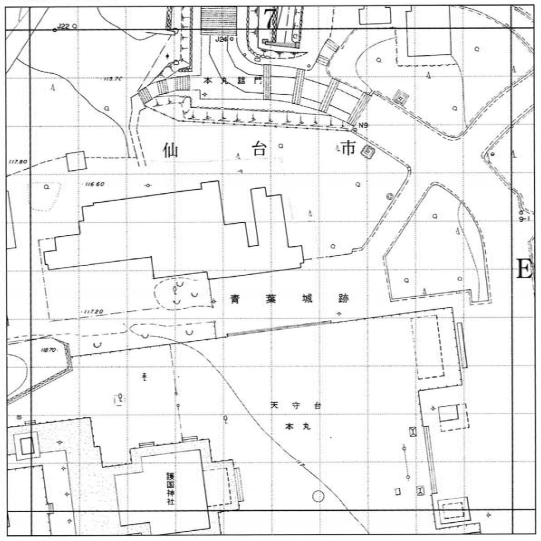


中段（東より）

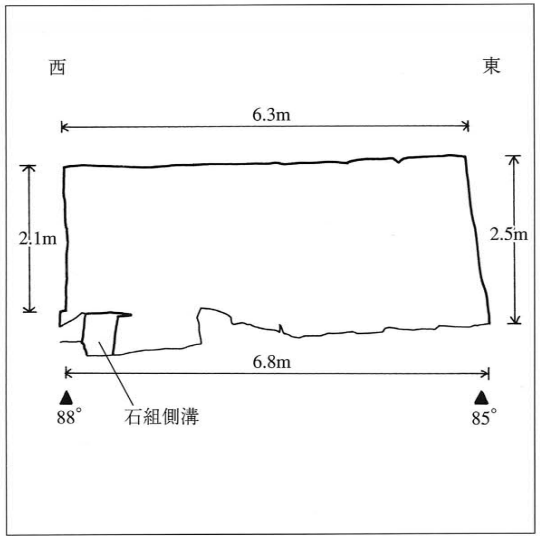


下段（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
北壁石垣H面　石垣1001H

地 区 名
本丸

地区番号
E7

延　長
6.8m（天端6.3m）

高　さ(深さ)
2.1～2.5m

幅

勾　配
85°～88°

石　材
切石

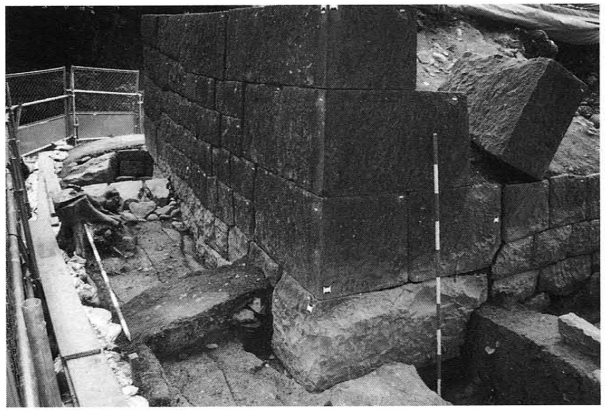
積 み 方
整層積み

数　量
45　HA角：4段、HI角：4段、築石7段

現　状
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

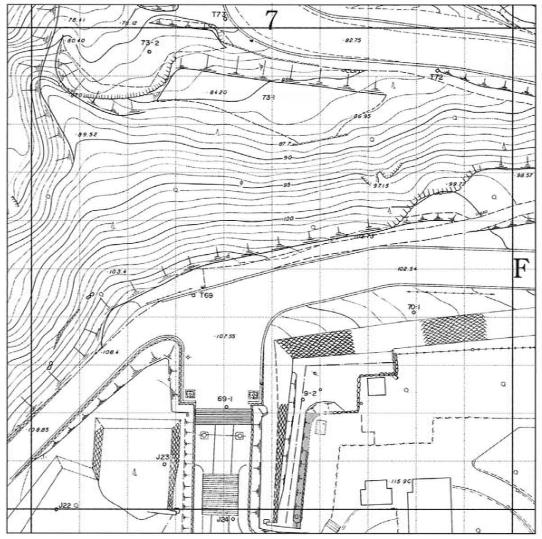
特記事項

全景（南より）

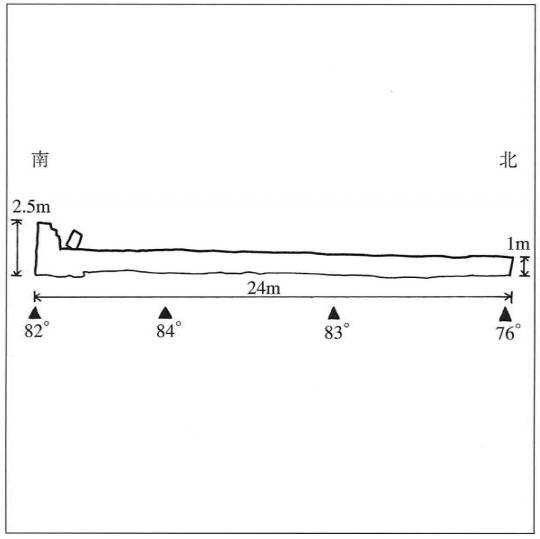


HI角部（南東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

調 査 者

遺構番号

北壁石垣I面　石垣1001I

地 区 名

本丸

地区番号

E7、F7

延　　長

24m

高　さ(深さ)

2.5～1m

幅

勾　　配

76～84°

石　　材

切石

積 み 方

整層積み

数　　量

163　IH角：4段、築石：4～3段

現　　状

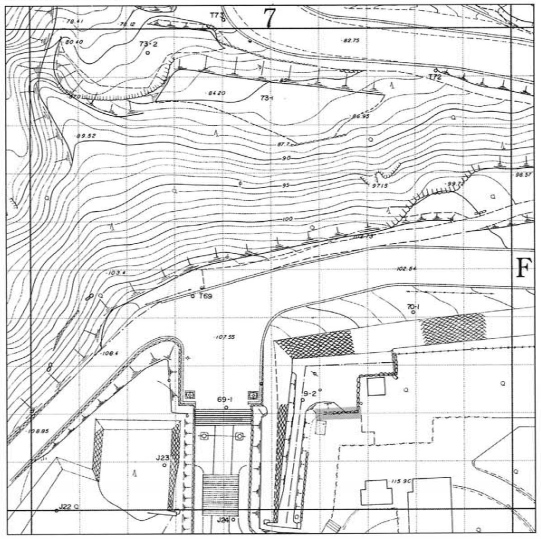
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

特記事項

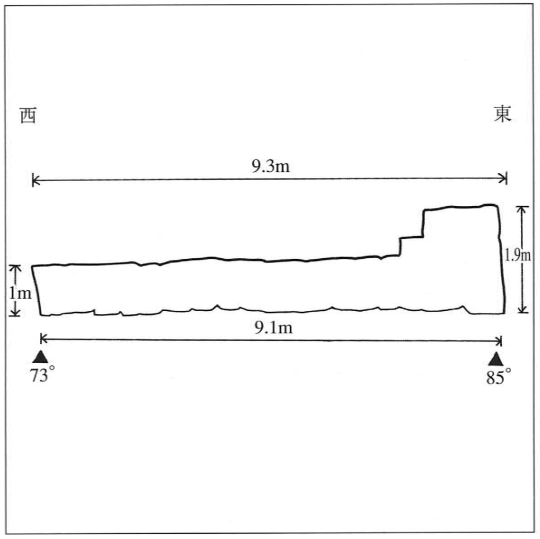
・天端石の大部分が欠損している

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
北壁石垣J面　石垣1001J

地 区 名
本丸

地区番号
F7

延　長
9.1m

高　さ(深さ)
1～1.9m

幅

勾　配
73°～85°

石　材
切石

積 み 方
整層積み

数　量
56　JK角：3段、築石：3段

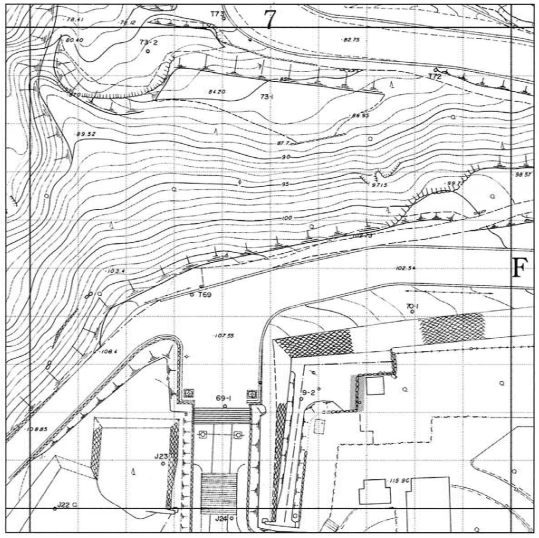
現　状

特記事項
・天端石の大部分が欠損している

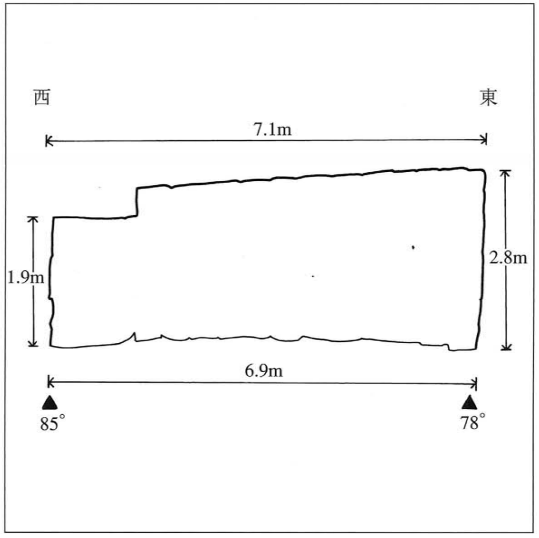
全景（南より）

JK角部（南より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
北壁石垣K面　石垣1001K

地 区 名
本丸

地区番号
F7

延　　長
7.1m

高　さ(深さ)
1.9～2.8m

幅

勾　　配
78°～85°

石　　材
切石

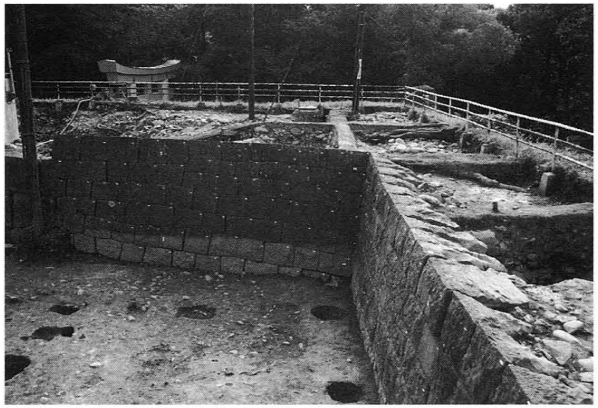
積 み 方
整層積み

数　　量
94　JK角：3段、築石7～8段

現　　状
・ハラミ、ズレなど見られるため解体修復

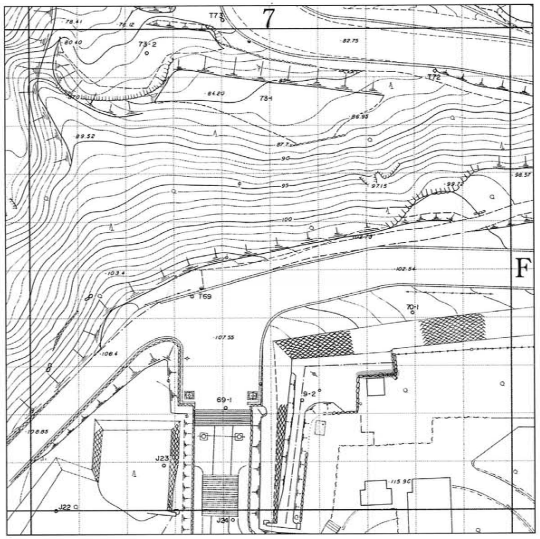
特記事項

全景（東より）

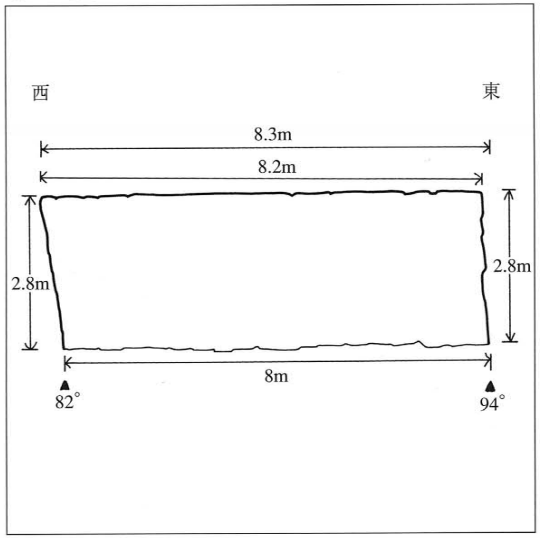


全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
北壁石垣L面　石垣1001L

地 区 名
本丸

地区番号
F7

延　長
8.3m

高　さ(深さ)
2.8m

幅

勾　配
82°～94°

石　材
切石

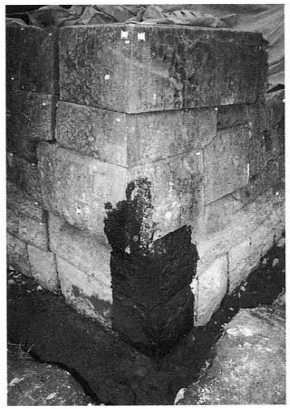
積 み 方
整層積み

数　量
121　LM角：5段、築石7～8段

現　状
・LM角部のズレが著しい

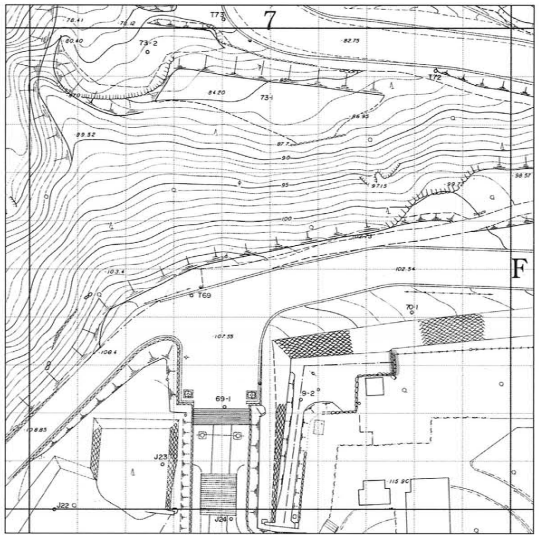
特記事項

全景（南より）

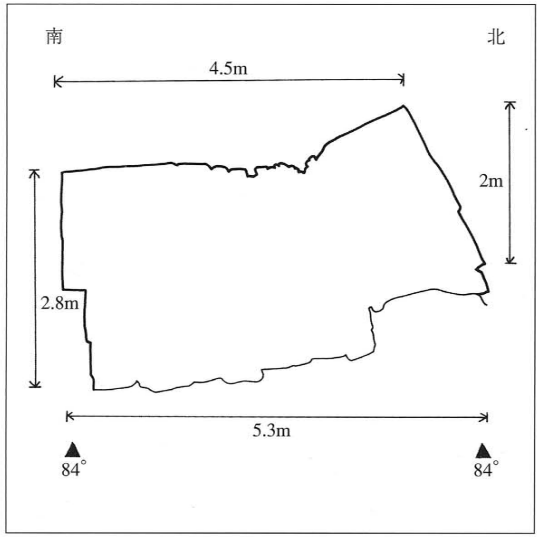


LM角部（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号

北壁石垣M面　石垣1001M

地 区 名

本丸

地区番号

F7

延　長

5.3m（天端4.5m）

高　さ(深さ)

2.8～2m

幅

勾　配

82°～84°

石　材

切石

積 み 方

整層積み

数　量

38　ML角：5段、HB角：3段、築石：6~7段

現　状

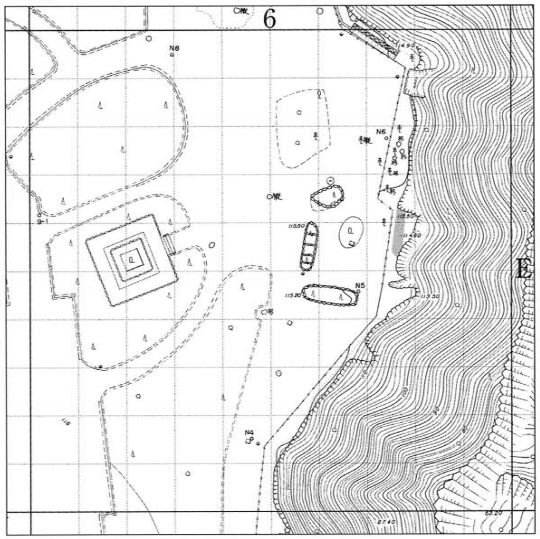
・ML角部のズレが著しい

特記事項

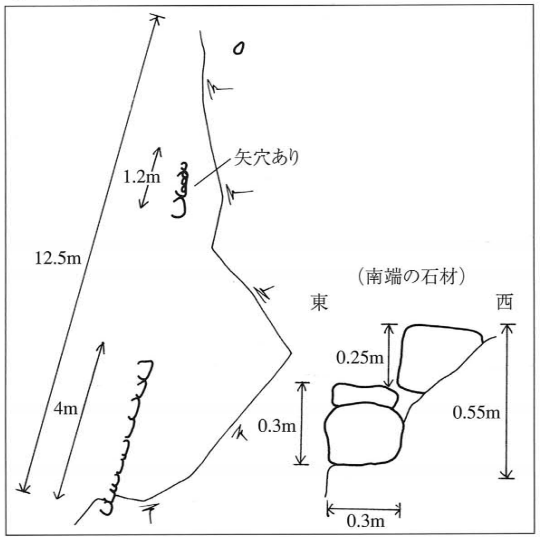
・中央部の天端石が欠損している

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/29	伊藤

遺構番号
懸造跡石垣　石垣1002

地 区 名
本丸

地区番号
E6

延　長
12.5m

高　さ(深さ)
0.55m

幅

勾　配

石　材
自然石、割石

積 み 方
1段～2段

数　量
14

現　状
・崖際であり南端は崩壊していると考えられる

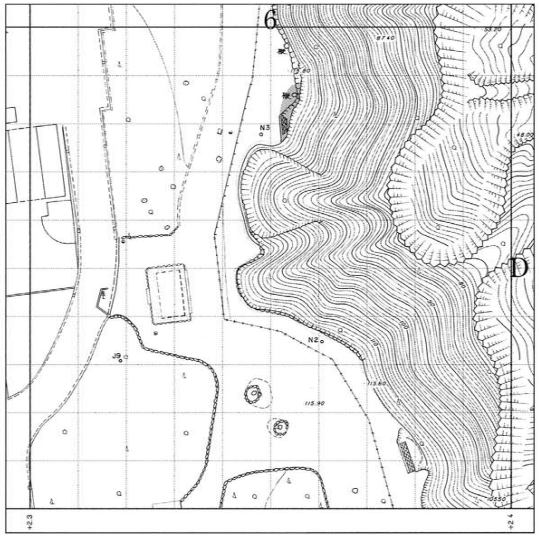
特記事項
・北側の石列と南側の石列で方向が若干ズレるようである

全景（南より）

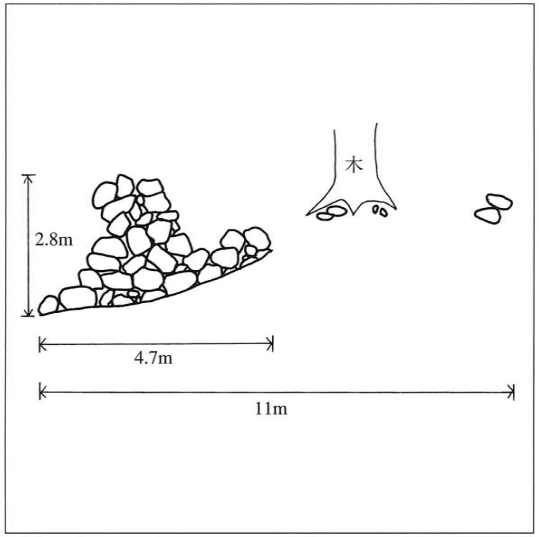
近景（北東より）

矢穴

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/07/29	伊藤

遺構番号
御守殿跡石垣　石垣1003

地 区 名
本丸

地区番号
D6

延　　長
11m

高　さ(深さ)
2.8m

幅

勾　　配
80°

石　　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　　量
約40　7～8段

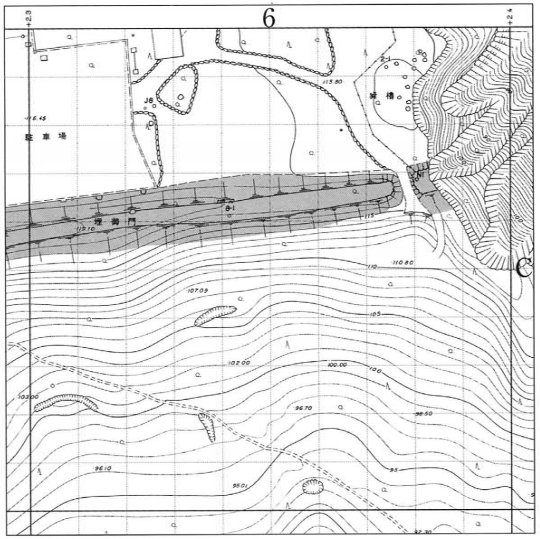
現　　状
・崖際であり、また木の根がからんでおり崩壊の危険性高い

特記事項
・近くに寄れないが今のところ加工痕は認められない

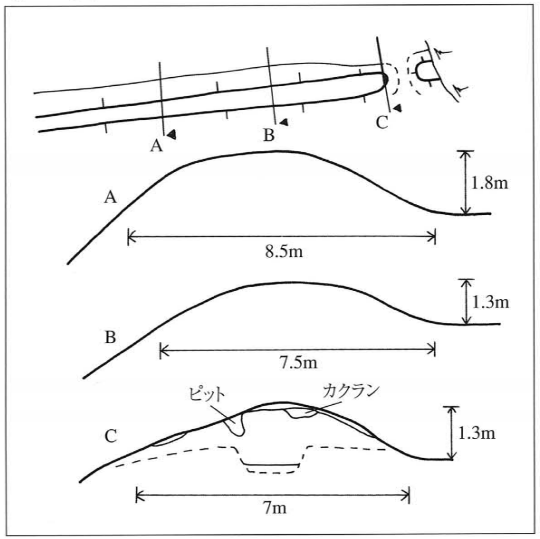
全景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
大番士土手　土塁1001

地 区 名
本丸

地区番号
C6、C7

延　長
160m

高　さ(深さ)
1.3～1.8m

幅
7～8.5m

勾　配

石　材

積 み 方

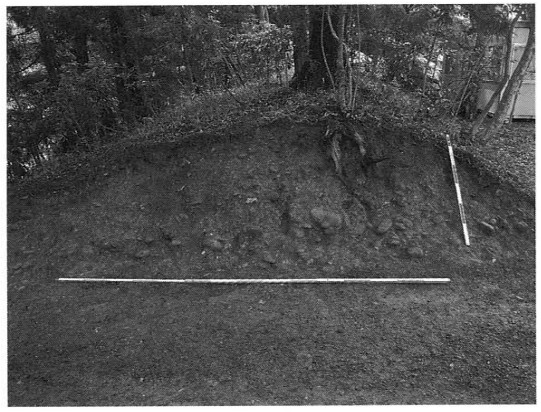
数　量

現　状
・東端部が幅4m程切られている

特記事項
・断面観察により、盛土はされておらず削り出した土塁である。また、ピット状の落ち込みが1基確認された。

近景（北より）

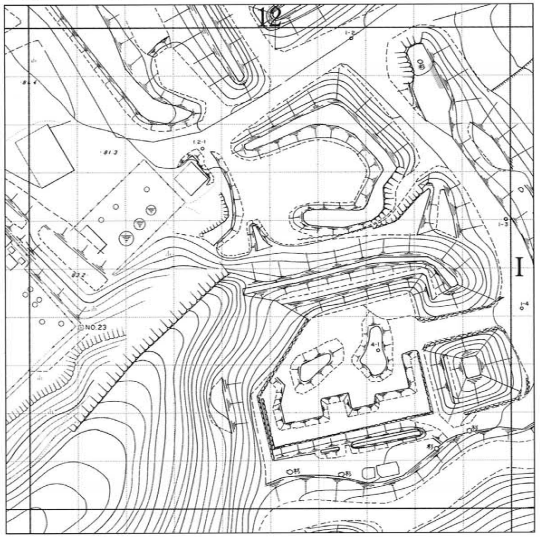
近景（北東より）


断面（東より）

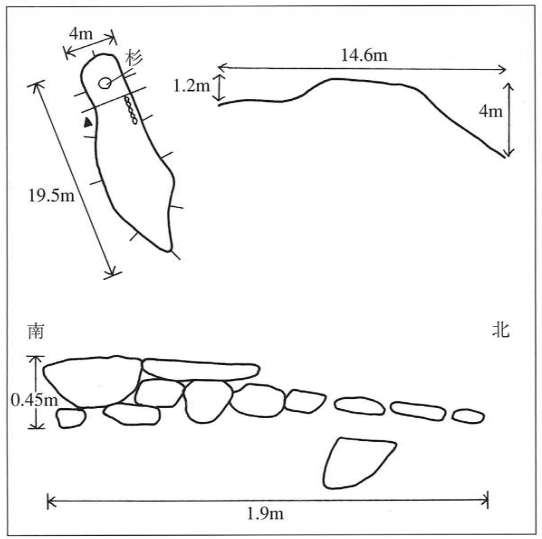
2　二の丸地区

第４図　二の丸地区の全体図

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/19	中山・伊藤

遺構番号
二の丸西縁石垣　石垣2001

地 区 名
二の丸

地区番号
I12

延　長
1.9m

高　さ(深さ)
0.45m

幅

勾　配

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
12　1～3段

現　状
・斜面の上部にあり、崩壊のおそれがある

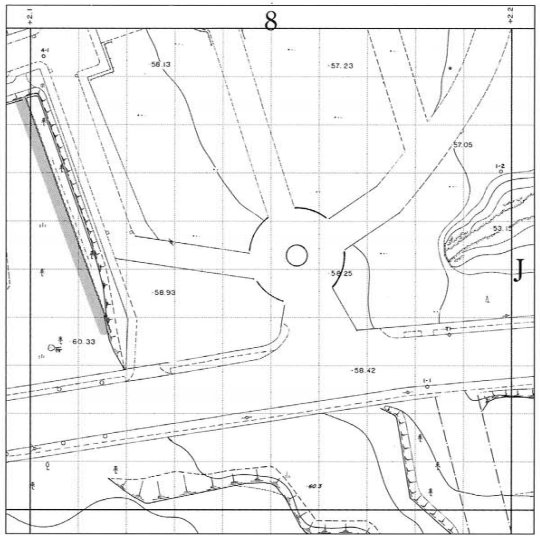
特記事項
・二の丸西縁の塀の基礎の可能性が考えられる

全景（北東より）

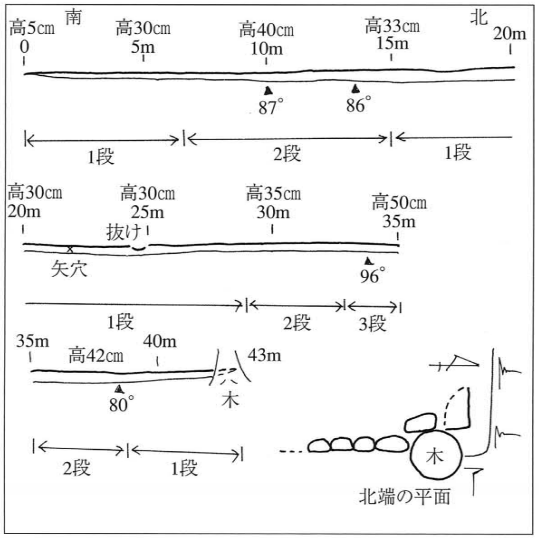
全景（東より）

遠景（北東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号

二の丸詰門付近石垣　石垣2002

地 区 名

二の丸

地区番号

J8

延　長

43m

高　さ(深さ)

0.05～0.5m

幅

勾　配

80°～96°

石　材

自然石と割石

積 み 方

乱積み

数　量

1～3段

現　状

・北端部で木根がからんでいる
・一部で石材が抜けている

特記事項

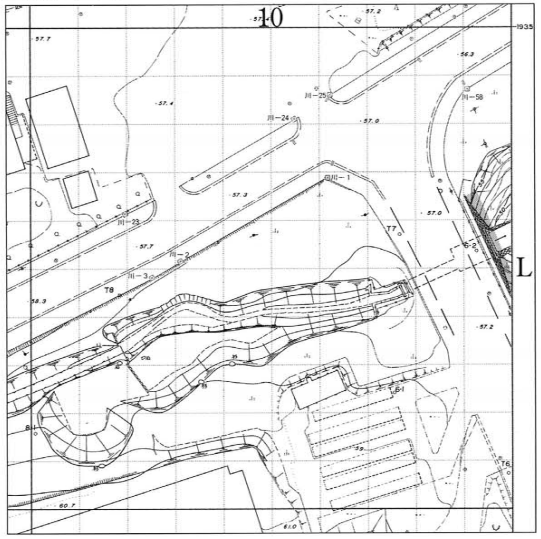
・割石は、河原石の割面を正面にしたもの
・土管が入っていたり、ドリルで割った石材があるため、積み直されていると考えられる
・矢穴あり、間口8cm、深4cm
・北端部の石材は上面平坦であり北面が直線的

全景（北東より）

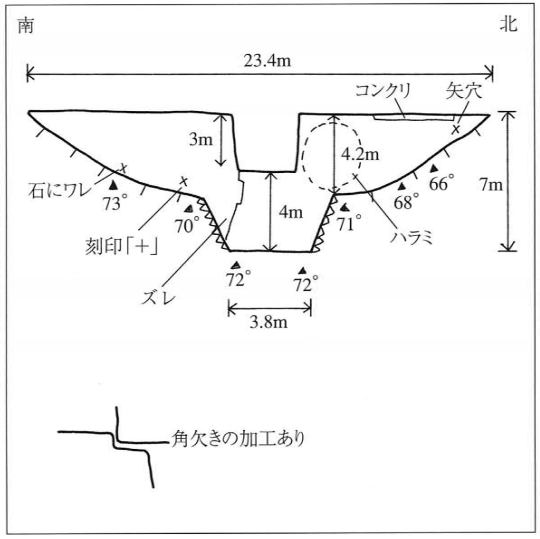
近景（東より）
割面を正面にしている

近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/08/05	渡部・中山

遺構番号
千貫橋石垣A面　石垣2003A

地 区 名
二の丸

地区番号
L10

延　長
23.4m

高　さ(深さ)
7m

幅

勾　配
66°～73°

石　材
切石主体で自然石がまじる

積 み 方
整層積み。石の角を切り欠く加工がある

数　量
最大18段

現　状
・一部ハラミ、石のズレ、ヒビがある
・土橋であり、上を車、人が通行している

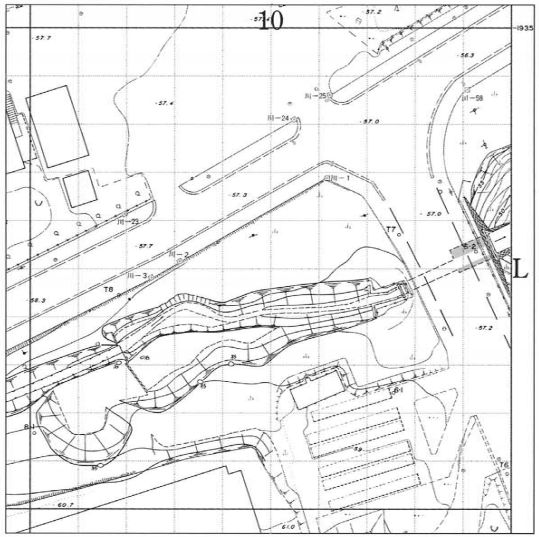
特記事項
・切石表面は、粗い加工で凸状のものと、細かい加工で平坦なものがある。これらに自然石がまじる
・裏込めはよく見えず不明
・水路の両角は、算木積み、稜の加工はない
・石の間に、縦長の石を入れることがある
・矢穴：間口7×深4、間口7×深3cm

全景（東より）

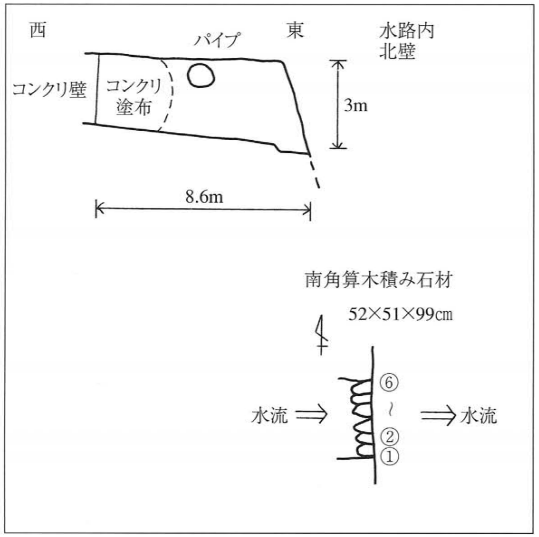
近景（東より）

近景（東より）
一部に自然石が見られる

遺構位置図



略　図



調査年月

03/08/05

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

千貫橋石垣B面　石垣2003B

地 区 名

二の丸

地区番号

L10

延　長

8.6m

高　さ(深さ)

3m

幅

勾　配

石　材

切石主体で自然石がまじる

積 み 方

整層積み

数　量

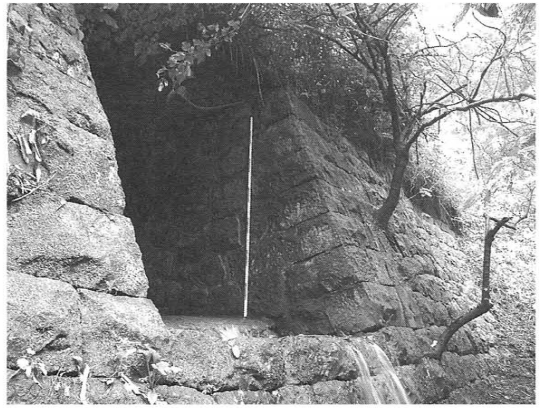
現　状

・パイプが入ったりコンクリが塗りつけられたり、改変されている

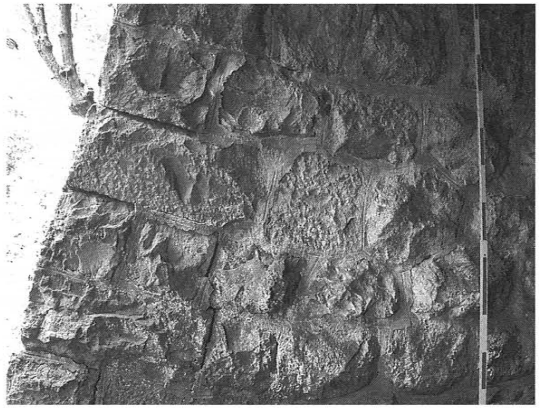
特記事項

・南壁C面も同様である
・水路出口の石材法量（南から順に）

	幅		高		控え	
①	46	×	36	×	55	㎝
②	50	×	34	×	65	
③	50	×	34	×	81	
④	45	×	35	×	60	
⑤	45	×	36	×	70	
⑥	40	×	37	×	78	



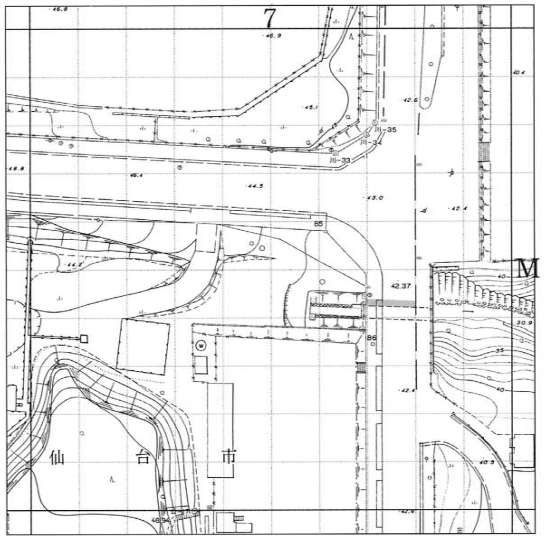
角部（南東より）



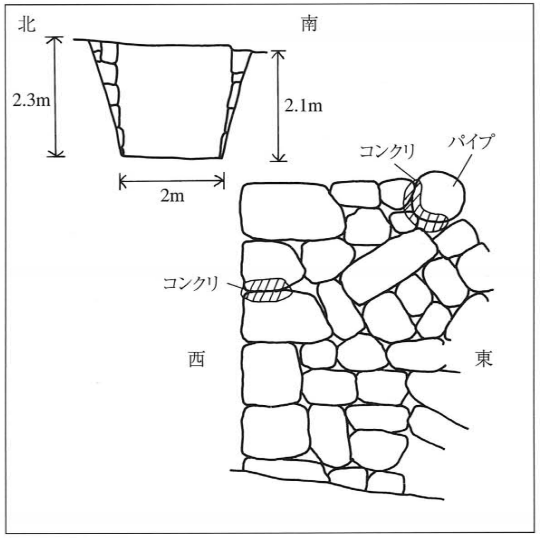
C面角部（北より）
目地にコンクリが塗られている

B面角部（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/08/06	渡部

遺構番号
筋違橋石垣A面　石垣2004A

地 区 名
二の丸

地区番号
M7

延　長
11.4m

高　さ(深さ)
2.3m

幅

勾　配
86°（角より1m東側）

石　材
切石主体で割石が混じる

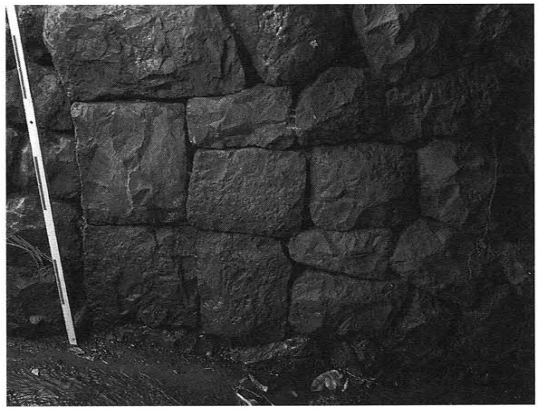
積 み 方
角は算木積み、大部分が落とし積みで、部分的に整層積み

数　量
（暗いため不明）角部6段

現　状
・パイプが数本あり、かなり改変されている

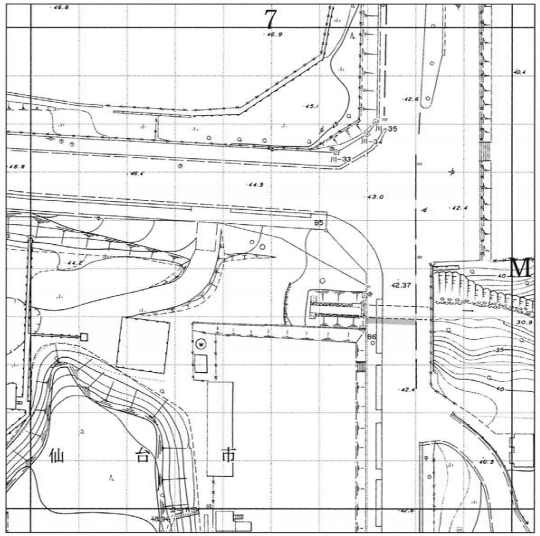
特記事項
・一部の目地にコンクリを塗りつけている
・西側は間知積み石垣、上部はコンクリの橋に接する
・東流する水路の南北壁

角部（南西より）

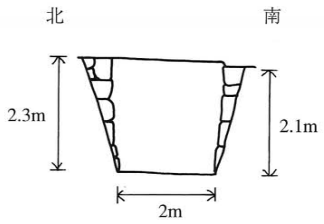

近景（南より）

近景（南より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
筋違橋石垣　B面　石垣2004B

地 区 名
二の丸

地区番号
M7

延　　長
11.4m

高　さ(深さ)
2.1m

幅

勾　　配
90°（角より1m東側）

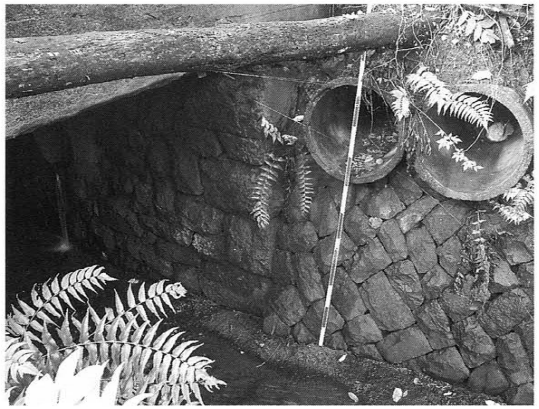
石　　材
切石主体で、割石が混じる

積 み 方
角は算木積み、大部分落とし積みで、部分的に整層積み

数　　量
（暗いため不明）角部5段

現　　状
・パイプが数本あり、かなり改変されている

特記事項
・東流する水路の南北壁
・西側は間知石垣、上部はコンクリ橋に接する

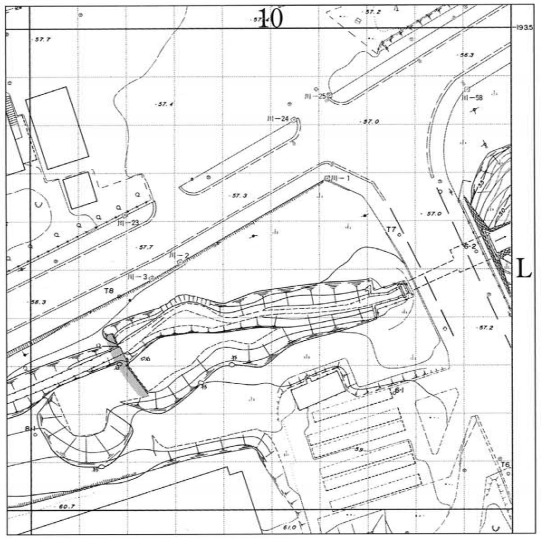


角部（北西より）

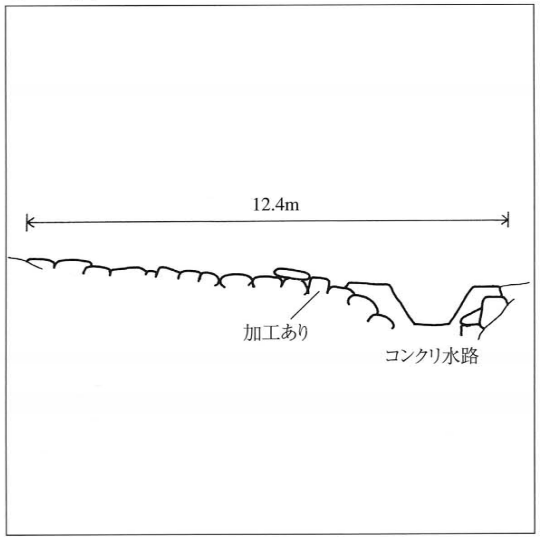
近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/09/09	渡部

遺構番号
千貫橋西方石垣　石垣2005

地 区 名
二の丸

地区番号
L10

延　長
12.4m

高　さ(深さ)
0.3～1m

幅

勾　配

石　材
自然石主体、1石のみ加工が見られる

積 み 方
不明

数　量
19

現　状
・石との間に隙間が空き、石が手前に動いたりしている

特記事項
・裏込め不明
・水路部分は、石材がコンクリで塗り込められている
・下半が埋まっており、どの位積まれているか分らないが、コンクリ水路部分では3段積まれているように見える

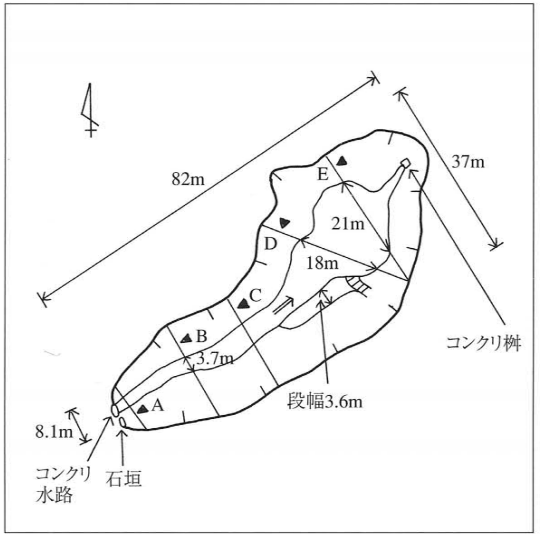
近景（北より）

水路部近景（東より）

全景（北より）

遺構位置図

略　　図



調査年月	調 査 者
03/07/08	渡部

遺構番号
大手門北脇池　池2001（1）

地 区 名
二の丸

地区番号
J7、J8、K7

延　　長
最大82m

高　さ(深さ)
最大3m

幅
最大37m

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状
・良好な保存状況である
・草がかなり繁っている

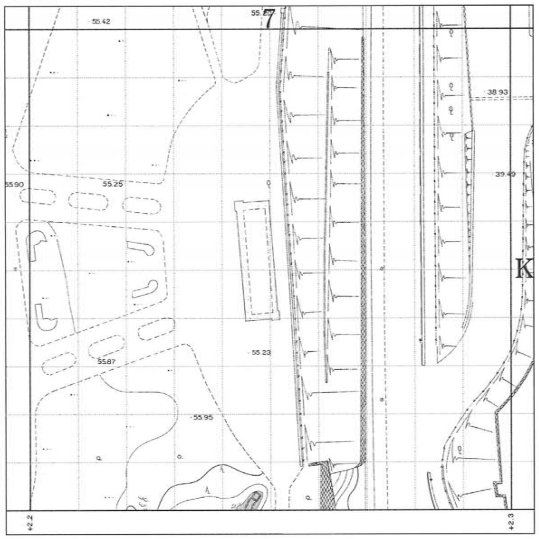
特記事項
・北東方向へ向かう水流の途中が池となっている
・池の北岸には、大き目の自然石が点々と並べられている
・南岸には小さめの自然石が2～3段積まれている
・中央部南側に、幅3.6mの段
・幅2.5m、長さ5.4mの石段（4段）あり

全景（南より）

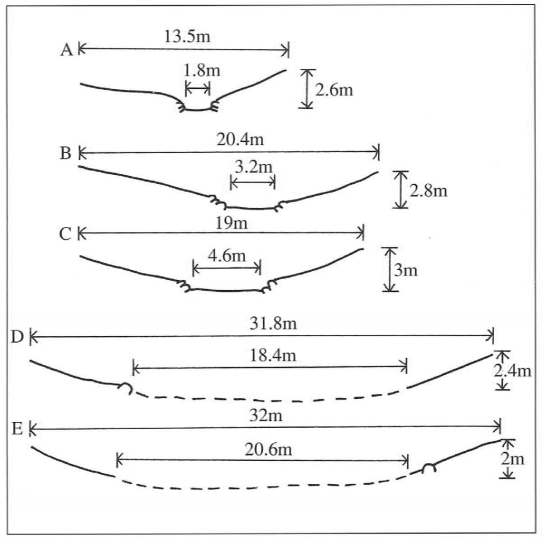
全景（南西より）

全景（南西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/08	渡部

遺構番号
大手門北脇池　池2001（2）

地 区 名
二の丸

地区番号
J7、J8、K7

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

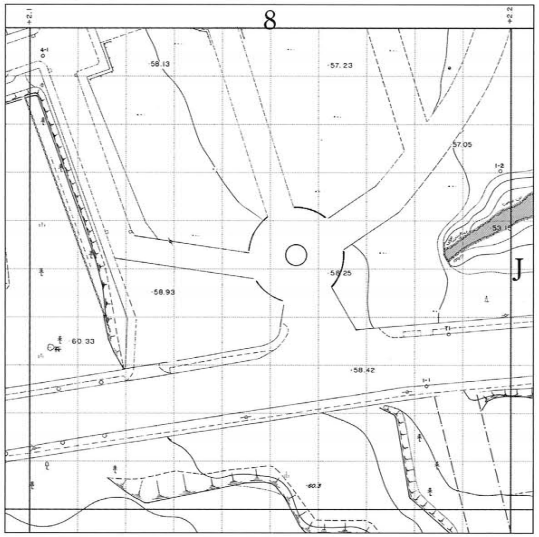
特記事項
・おおむね、北西側が高い

南岸の石段（南西より）

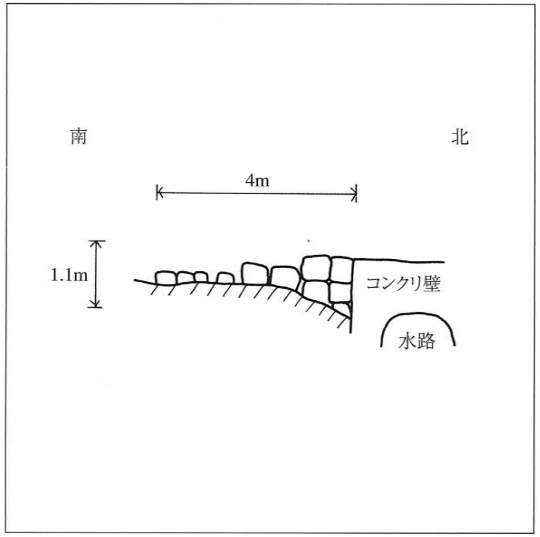
南岸の段（北東より）

南岸の石積み（北東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/08/08

調 査 者

渡部

遺構番号

大手門北脇池　池2001（3）

地 区 名

二の丸

地区番号

J7、J8、K7

延　長

4m

高　さ(深さ)

1.1m

幅

勾　配

石　材

切石

積 み 方

整層積み

数　量

11　1～3段

現　状

・良好

特記事項

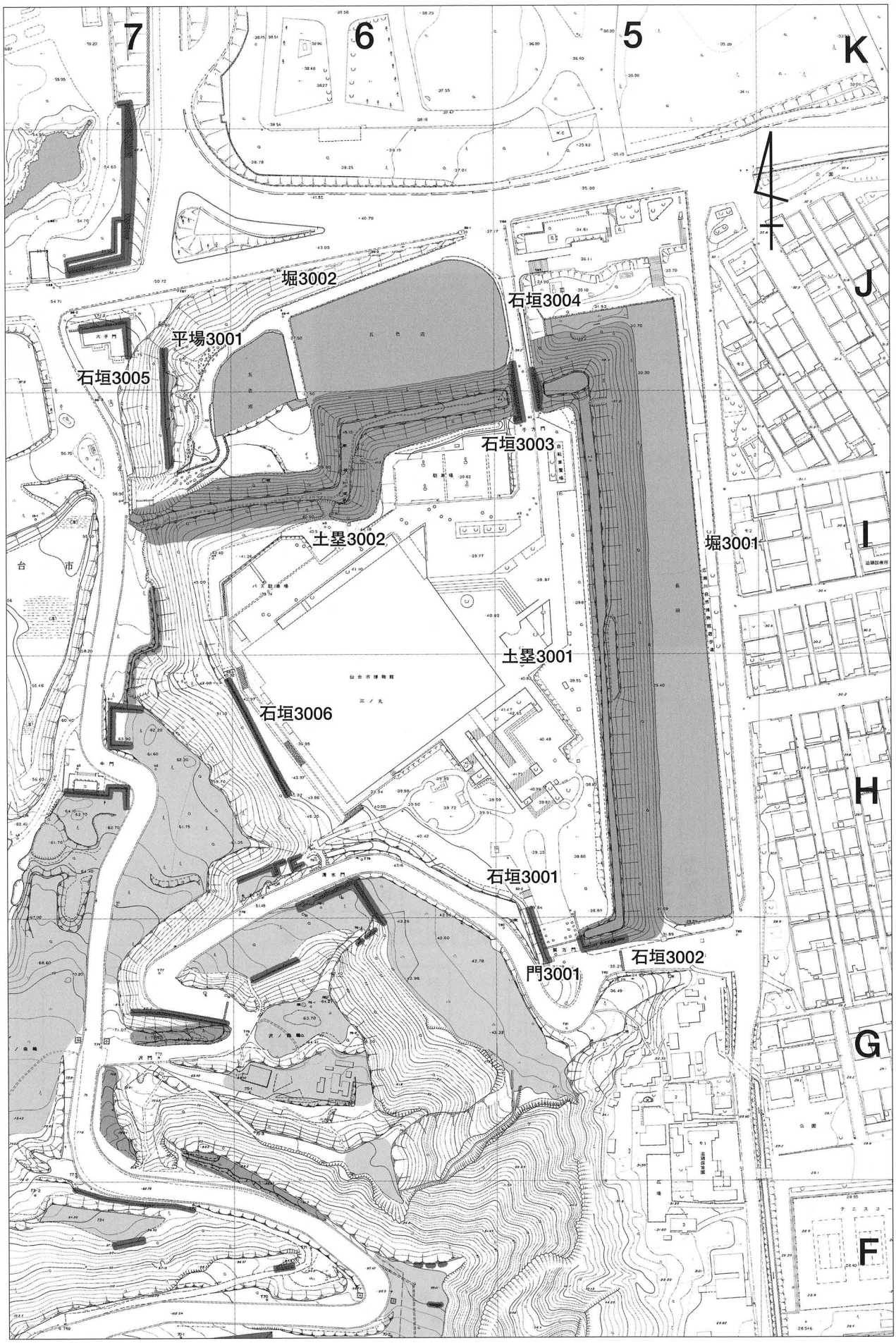
・コンクリ製水路に接しており、近世の石積みかどうかは不明。石材は近世期の可能性がある。
・空積み
・コンクリ水路の出口は大きな石でふさがれている

西端のコンクリ水路（北より）

石垣近景（北より）

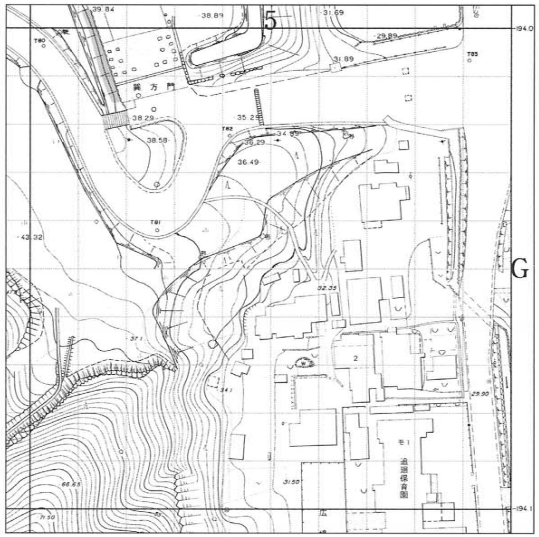
石垣近景（南東より）

3　三の丸地区

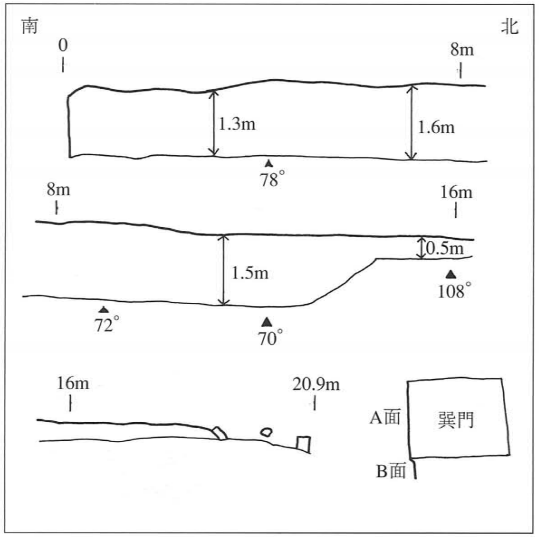


第５図　三の丸地区の全体図

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/17	中山

遺構番号
巽門西側石垣A面　石垣3001A

地 区 名
三の丸

地区番号
G5、H5

延　長
20.9m

高　さ(深さ)
0.2～1.6m

幅

勾　配
70°～108°

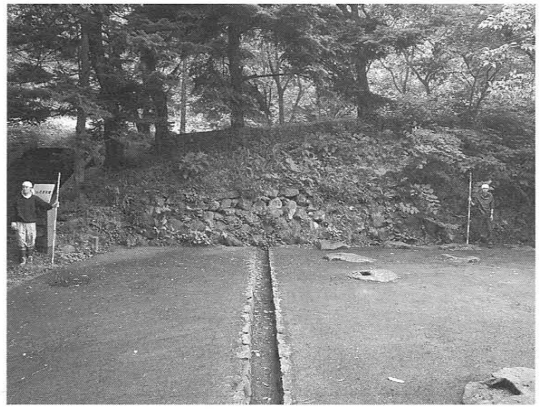
石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
215　大193石、小22石

現　状
・南半部は地面部分コンクリートで固められている
・北端部崩れている

特記事項

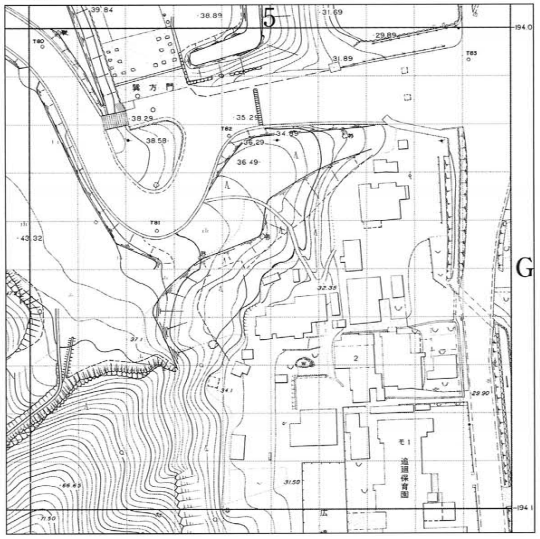


全景（東より）

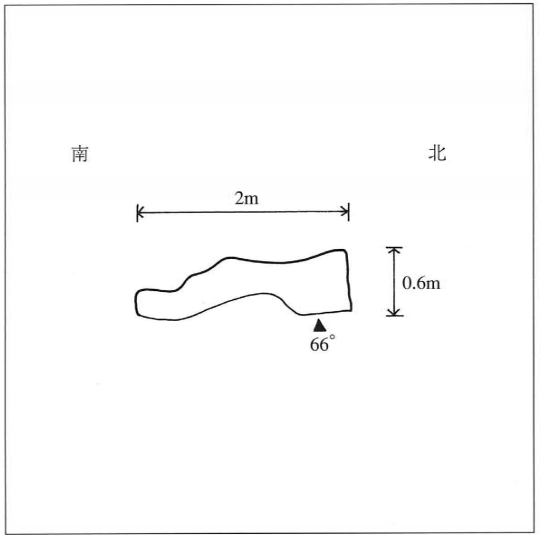
近景（東より）

近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/17	中山

遺構番号
巽門西側石垣B面　石垣3001B

地 区 名
三の丸

地区番号
G5、H5

延　長
2.0m

高　さ(深さ)
0.2～0.6m

幅

勾　配
66°

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
13（大12・小1）

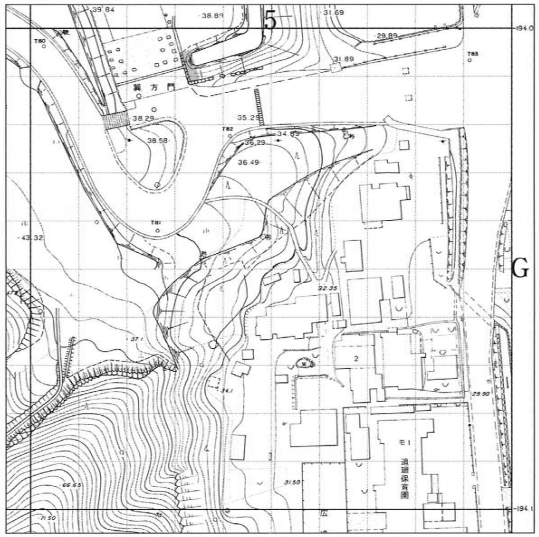
現　状
・部分的にコンクリートが入れられている

特記事項
・階段を作る際に石材が動いている可能性がある

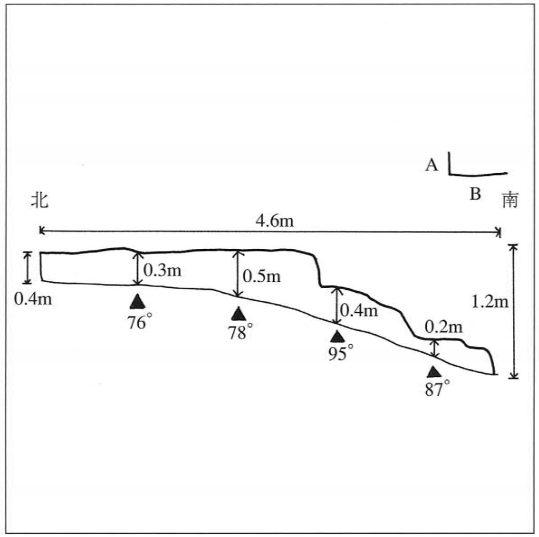
全景（東より）

近景（東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/06/17	中山

遺構番号
巽門東側石垣A面　石垣3002A

地 区 名
三の丸

地区番号
G5

延　　長
4.6m

高　さ(深さ)
0.2～0.5m

幅

勾　　配
76°～95°

石　　材
切石

積 み 方
整層積み

数　　量
12

現　　状
・底部は、コンクリートで固められている

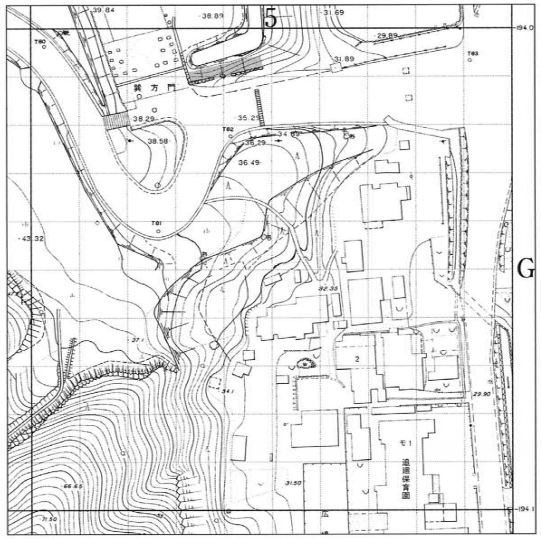
特記事項
・石垣と、巽門の間は側溝となっている

全景（北西より）

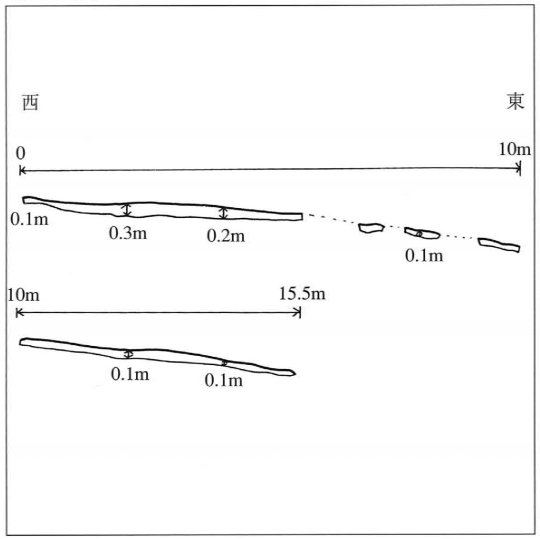
近景（西より）

近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/17	中山

遺構番号
巽門東側石垣B面　石垣3002B

地 区 名
三の丸

地区番号
G5

延　長
15.5m

高　さ(深さ)
0.1～0.3m

幅

勾　配

石　材
切石

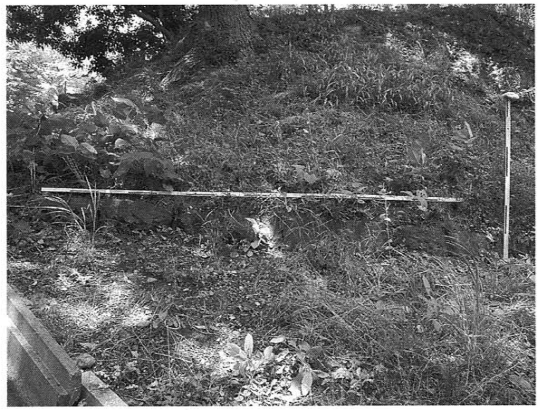
積 み 方
1段

数　量
36

現　状
・部分的に土砂で埋まっている

特記事項

全景（南西より）

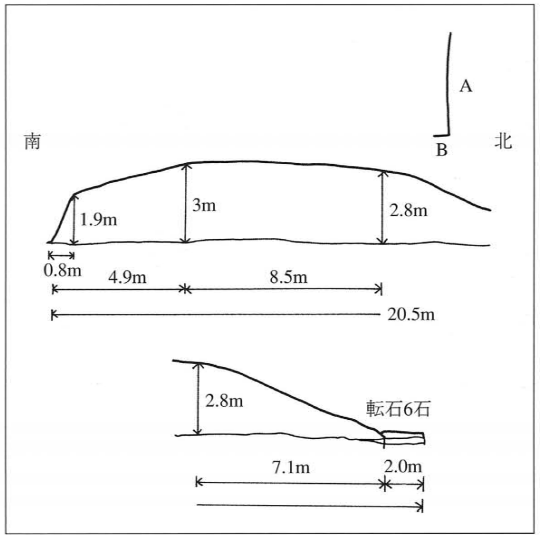


近景（南より）

近景（南より）

遺構位置図

略　　図



調査年月	調 査 者
03/07/14	伊藤

遺構番号
子門西側石垣A面　石垣3003A

地 区 名
三の丸

地区番号
I5、J5

延　　長
20.5m

高　さ(深さ)
3.0m

幅

勾　　配
75°

石　　材
自然石

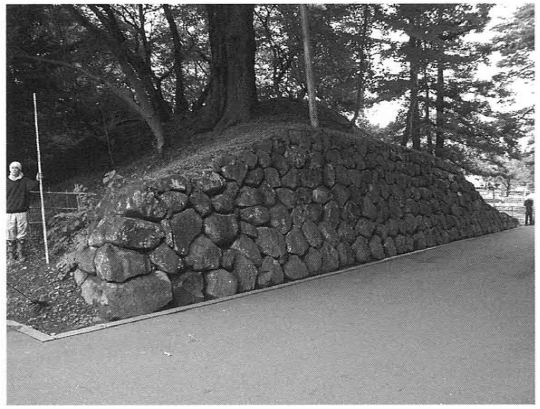
積 み 方
乱積み（一部練り積み）（落とし積みの部分あり）

数　　量
210　7段

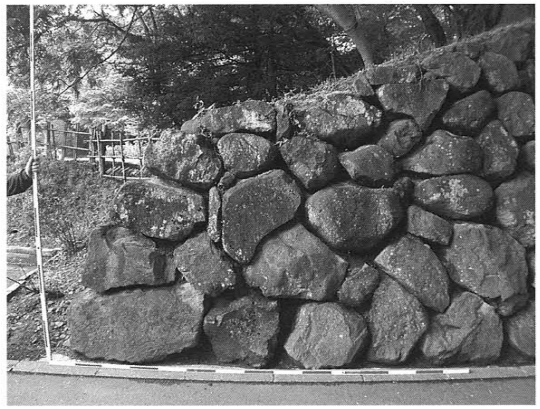
現　　状

特記事項

- 石垣基部がコンクリート歩道部分にのっている。コンクリートが目地に練り込まれている部分があり、一部塩ビ管が入れられている。
- 北端に石垣石材と考えられる転石あり
- 昭和36年（1961）修理
- 昭和53年（1983）宮城県沖地震で被災



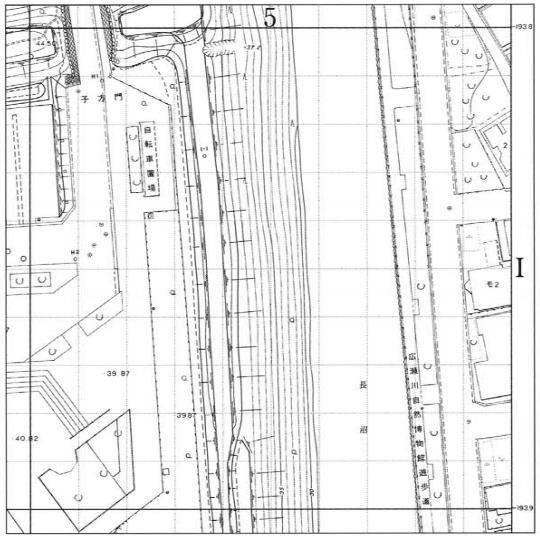
全景（南東より）



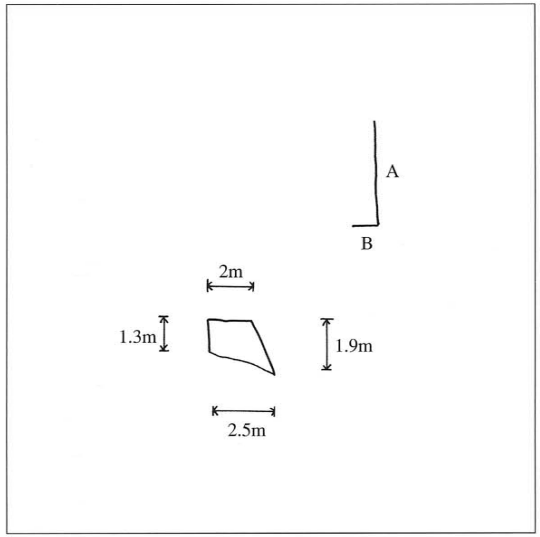
近景（東より）

近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/14	伊藤

遺構番号
子門西側石垣B面　石垣3003B

地 区 名
三の丸

地区番号
I5

延　長
2.5m

高　さ(深さ)

幅

勾　配

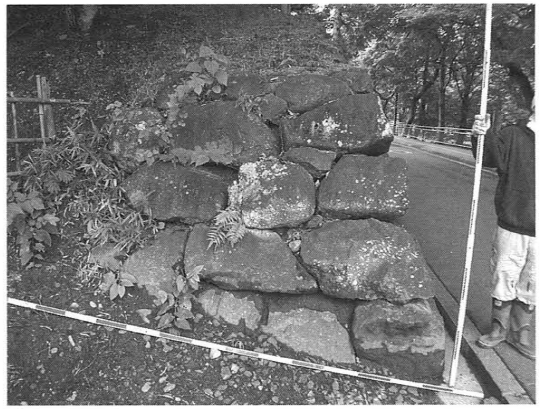
石　材
自然石

積 み 方
乱積み（一部練り積み）（落し積みの部分あり）4段

数　量
20　4段

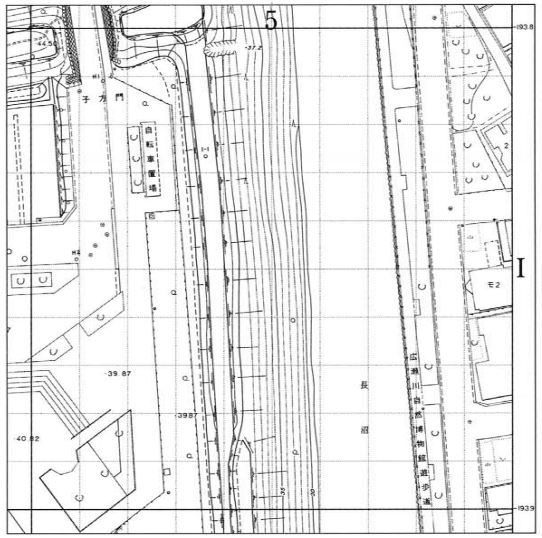
現　状

特記事項

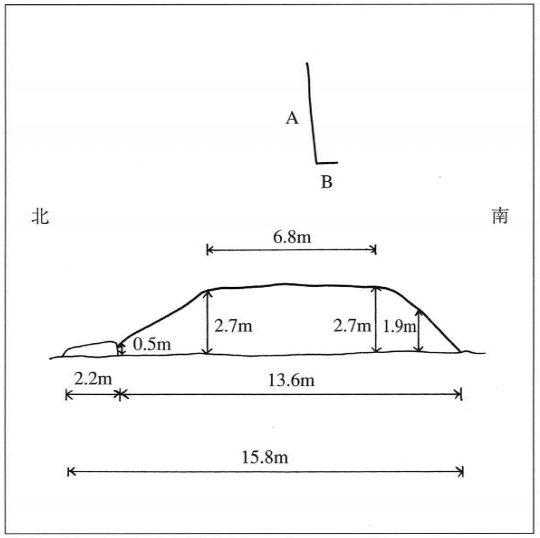


全景（南より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/07/14	伊藤

遺構番号
子門東側石垣A面　石垣3004A

地 区 名
三の丸

地区番号
I5、J5

延　　長
13.6m

高　さ(深さ)
2.7m

幅

勾　　配
75°

石　　材
自然石

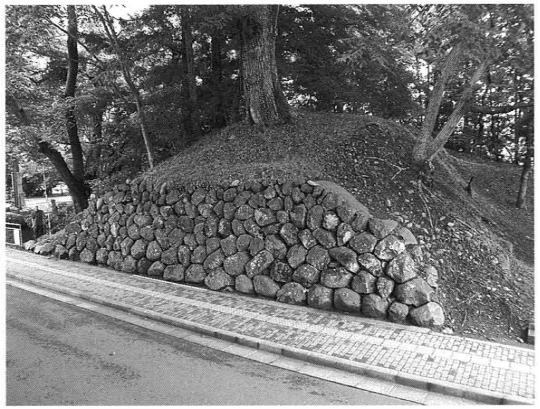
積 み 方
乱積み（一部練り積み）（落とし積みの部分あり）

数　　量
159　7段

現　　状

特記事項

・石垣基部が、コンクリート歩道部分にのっている。コンクリートが目地に練り込まれている部分があり、一部塩ビ管が入れられている。
・北側に石垣石材と考えられる転石6石あり。また、北側の堀底にも転石が見られる

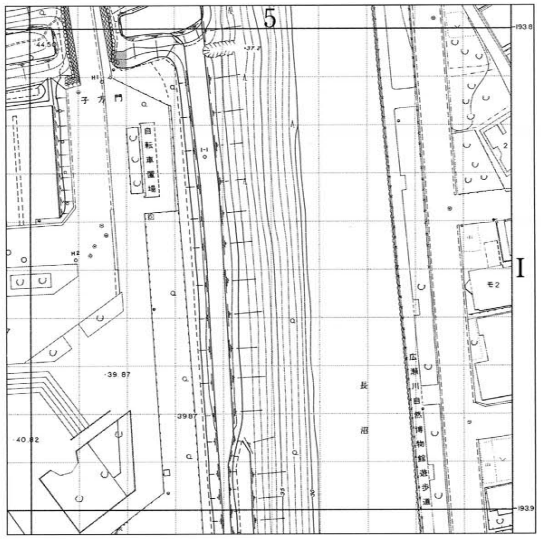


全景（南西より）

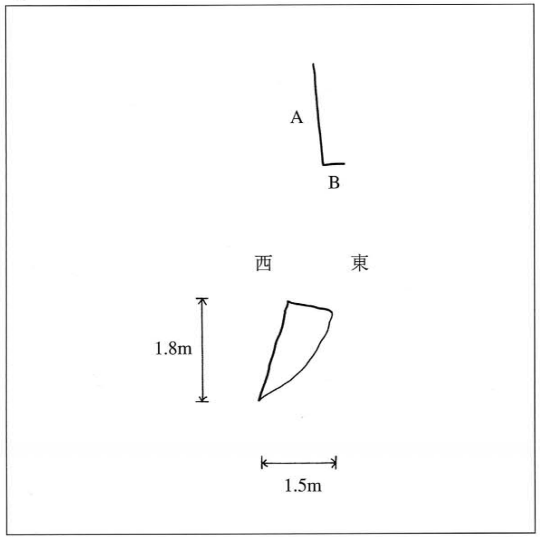
近景（西より）

近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/14	伊藤

遺構番号
子門東側石垣B面　石垣3004B

地 区 名
三の丸

地区番号
I5

延　長
1.5m

高　さ(深さ)
1.8m

幅

勾　配

石　材
自然石

積 み 方
乱積み（一部練り積み）（落し積みの部分あり）

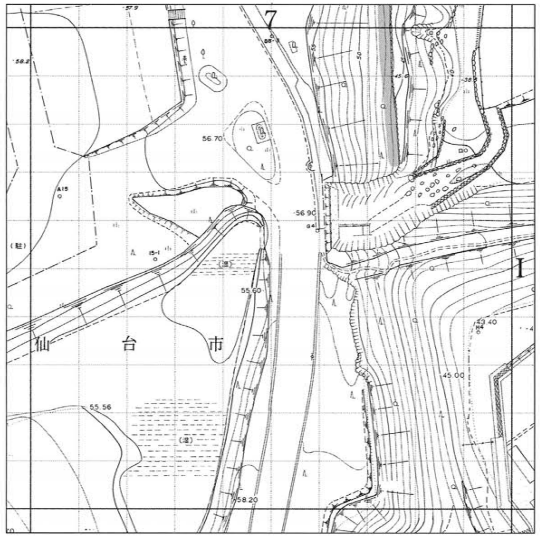
数　量
8

現　状

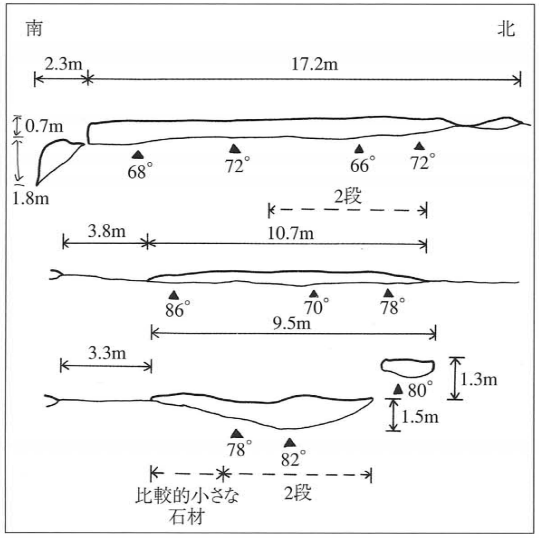
特記事項
・石垣基部がコンクリート歩道部分にのっている、コンクリートが目地に練り込まれている部分があり、一部塩ビ管が入れられている

全景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/16	中山

遺構番号
大手門脇櫓下石垣　石垣3005

地 区 名
三の丸

地区番号
I7、J7

延　長
52.3m

高　さ(深さ)
0.2～1.3m

幅

勾　配
66°～86°

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
大94石・小52石　1～2段

現　状
・土砂により埋まっている部分がある

特記事項
・北側と南側は比較的大きな石材が、中間は比較的小さな石材が用いられる
・南端の沢部、東側斜面下には崩落したと考えられる石材が見られる

遠景（南東より）

南部近景（東より）

南部近景（東より）

遺構位置図

略　図

調査年月

03/07/16

調 査 者

中山

遺構番号

大手門脇櫓下石垣　石垣3005

地 区 名

三の丸

地区番号

I7、J7

延　長

52.3m

高　さ(深さ)

0.2～1.3m

幅

勾　配

66°～86°

石　材

自然石

積 み 方

乱積み

数　量

大94　小52　1～2段

現　状

(P42参照)

特記事項

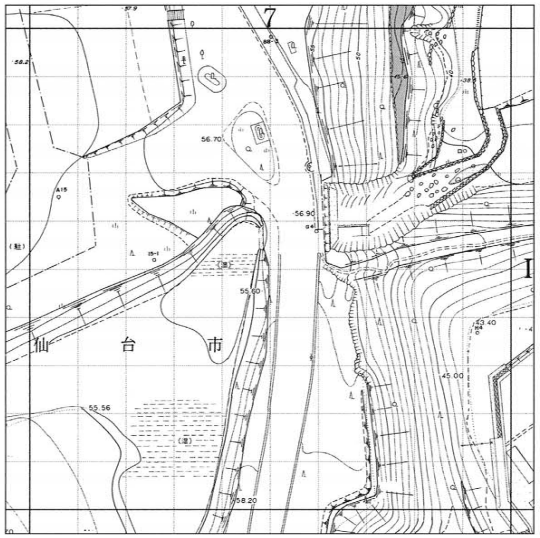
(P42参照)

中部近景（東より）

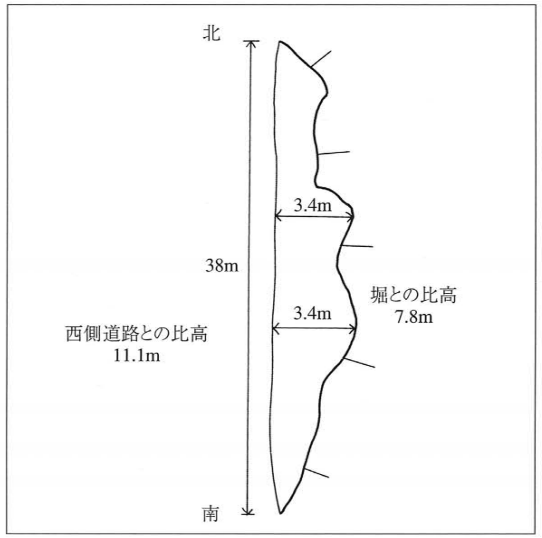
北部近景（東より）

北部近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/07/16	中山

遺構番号
大手門脇櫓下平場　平場3001

地区名
三の丸

地区番号
I7

延　長
38m

高　さ(深さ)
3.4m

幅

勾　配

石　材

積み方

数　量

現　状
・東側一部崩れている

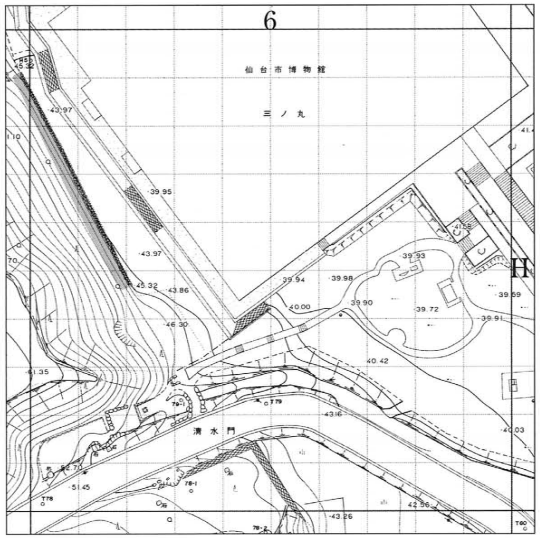
特記事項
・石垣3005前面の細長い平場
・一部に土管が設置されている

近景（北より）

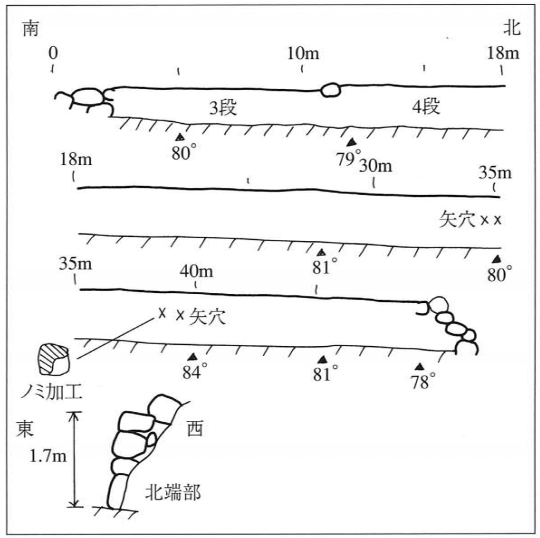
全景（北より）

全景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/23	渡部

遺構番号
三の丸西側土手石垣　石垣3006

地 区 名
三の丸

地区番号
H6

延　長
51.3m

高　さ(深さ)
0.3～2m

幅

勾　配
78°～84°

石　材
自然石が主体で、割石が混じる

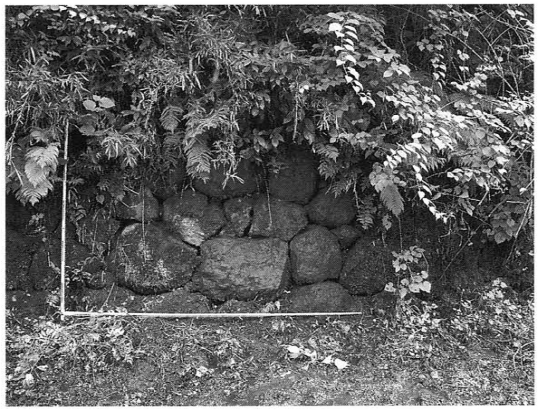
積 み 方
乱積み

数　量
約320石　3～4段

現　状
・大きな変形はないが、湧水が著しく、石の隙間より土砂が前面に流れ出している。また木根がからんでいる

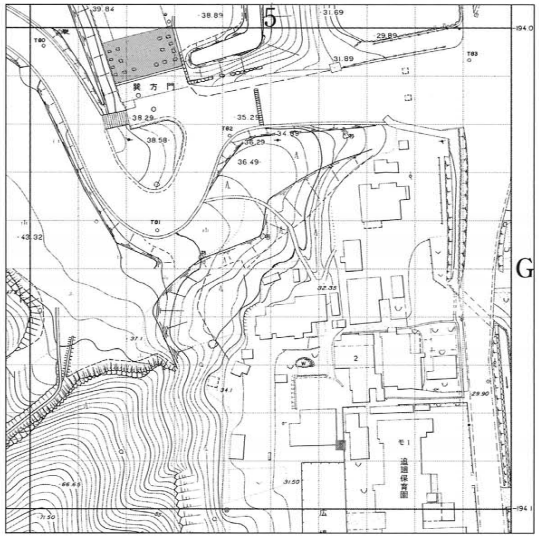
特記事項
・裏込めは、玉石
・矢穴ある石材3石
・石材の表面にノミ加工あるもの1石
・草がかなり表面をおおっており、観察は困難である
・昭和59年発掘調査時に一部の根石を確認している
・現在の仙台市博物館との間に、高約4mの擁壁がある
・両端土に接する

全景（北より）

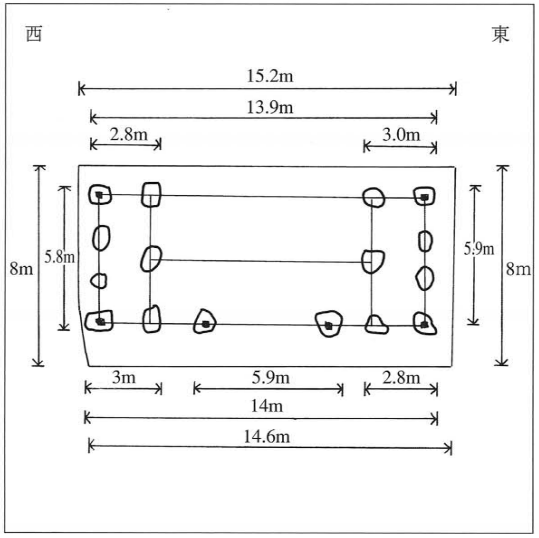

近景（東より）

近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/18	中山

遺構番号
巽門礎石　門3001

地 区 名
三の丸

地区番号
G5

延　長
13.9m

高　さ(深さ)

幅
5.9m

勾　配

石　材
6石にほぞ穴が作られている

積 み 方

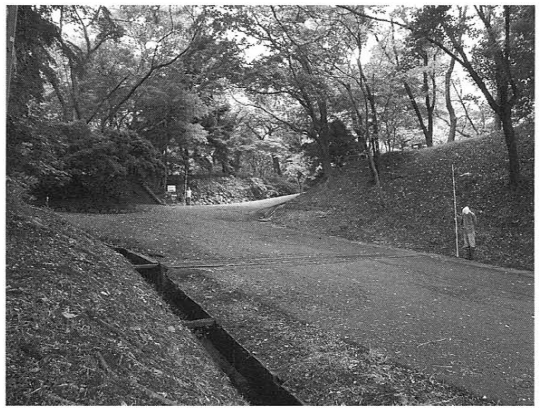
数　量
16

現　状
・礎石の周りはコンクリートで固められている

特記事項
・昭和59年（1984）発掘調査礎石の原位置や、南北の雨落ち溝跡などが発見された。発掘調査で確認された礎石は14石であり、うち6石は原位置を保っていた

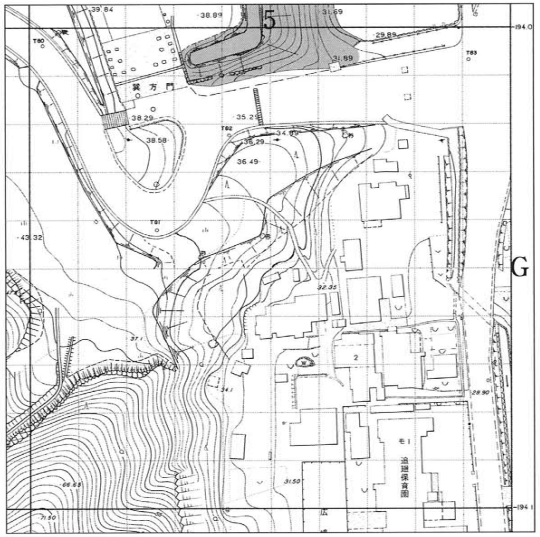
全景（北東より）

全景（南より）

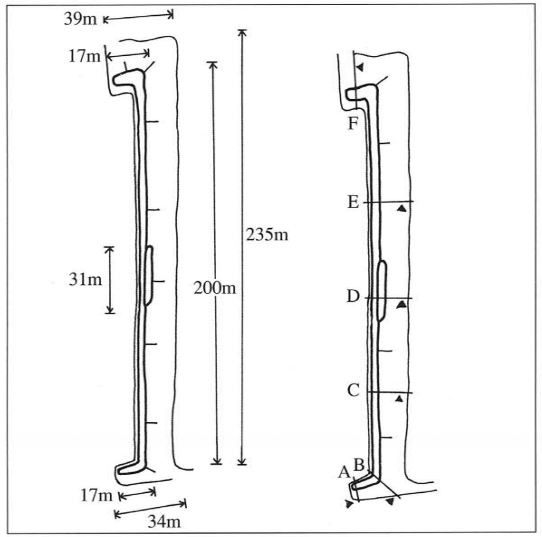


遠景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/16	中山

遺構番号
土塁3001（1）

地 区 名
三の丸

地区番号
G5、H5、I5、J5

延　長
全長279m

高　さ(深さ)
平場より：0.6～5m水堀より：5.1m～12.7m

幅
上端：1.6～4.0m下端4.2～16.7m

勾　配

石　材

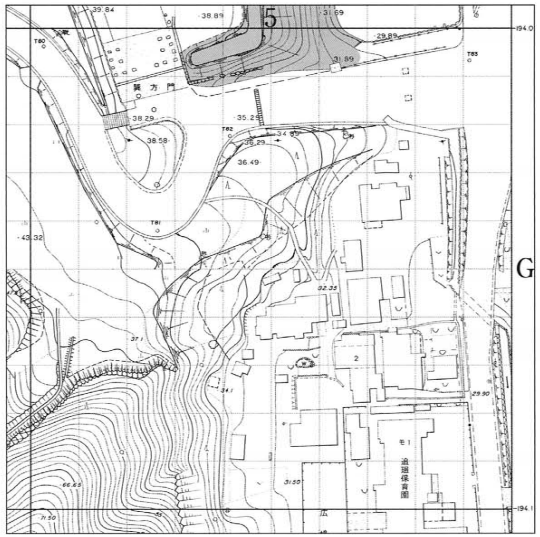
積 み 方

数　量

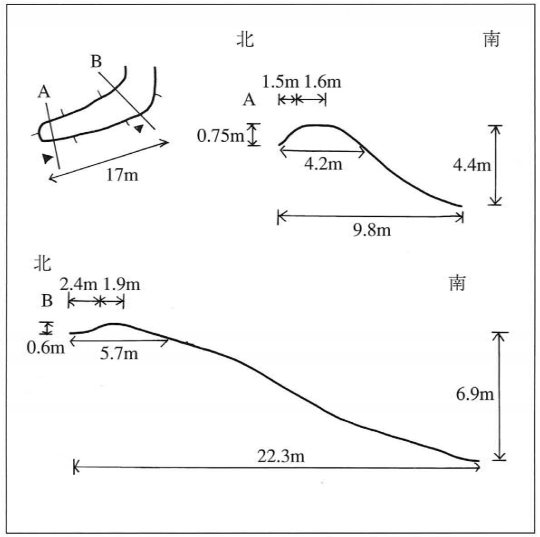
現　状
・西斜面芝張り、東斜面笹薮

特記事項
・中央部長沼側に、南北31mにわたって小段がある

遺構位置図



略　図



調査年月

03/06/18

調 査 者

伊藤

遺構番号

土塁3001（2）

地 区 名

三の丸

地区番号

G5、H5、I5、J5

延　長

南端の東西全長34m

高　さ(深さ)

平場より：0.6～0.75m通路より：4.4～6.9m

幅

上端：1.6～1.9m下端：4.2m～5.7m
（低い側9.8～22.3m）

勾　配

石　材

積 み 方

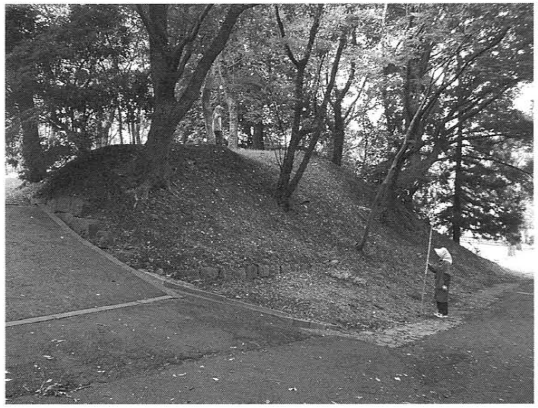
数　量

現　状

・良好

特記事項

・土塁上に多くの樹木が生い繁っている
・土塁の西面、南面下端に切石を用いた腰巻石垣（石垣3002）

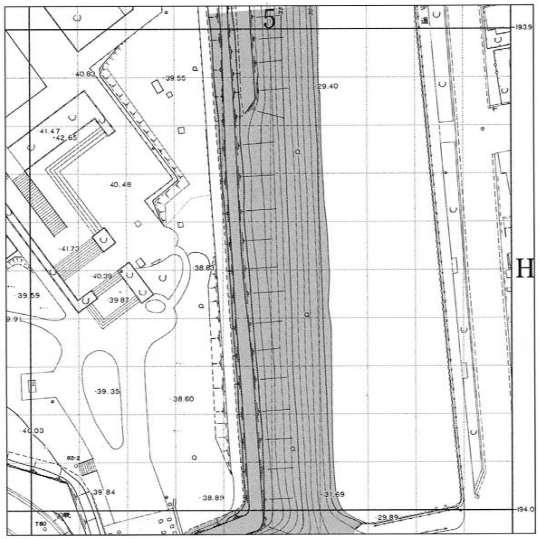


全景（南西より）

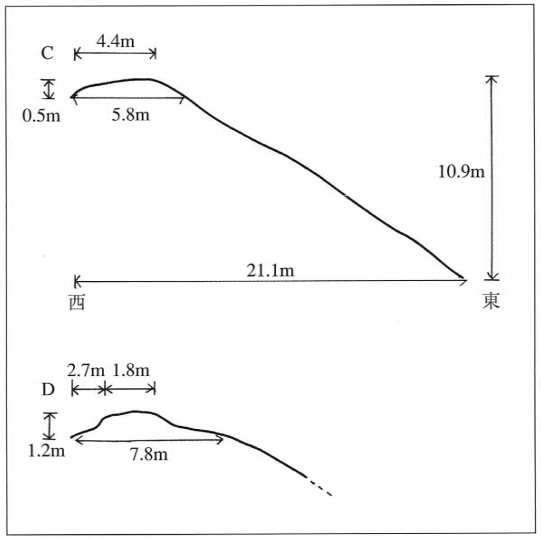
全景（北西より）

近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/06/18	伊藤

遺構番号
土塁3001（3）

地区名
三の丸

地区番号
G5、H5、I5、J5

延　長
南北全長上端：206m下端：235m

高　さ(深さ)
曲輪より：0.8～1.9m水堀より：10.9～11.4m

幅
上端：1.8～4.0m下端：5.8～10.1m(7.8～21.1m)

勾　配

石　材

積み方

数　量

現　状

特記事項

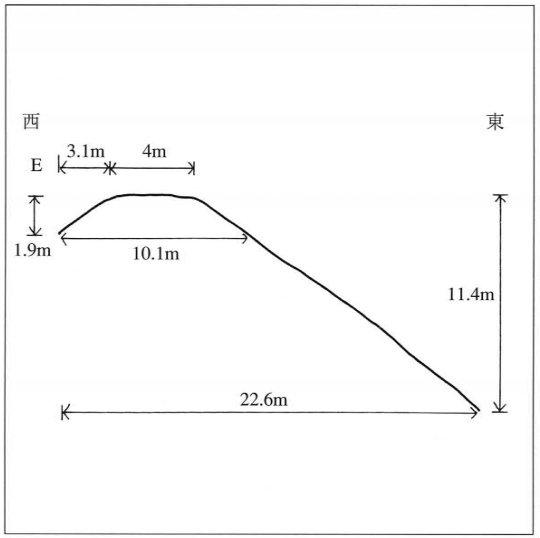
遠景（北西より）

遠景（南西より）

全景（南より）

遺構位置図

略　図



調査年月

03/06/18

調 査 者

伊藤

遺構番号

土塁3001（4）

地 区 名

三の丸

地区番号

G5、H5、I5、J5

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

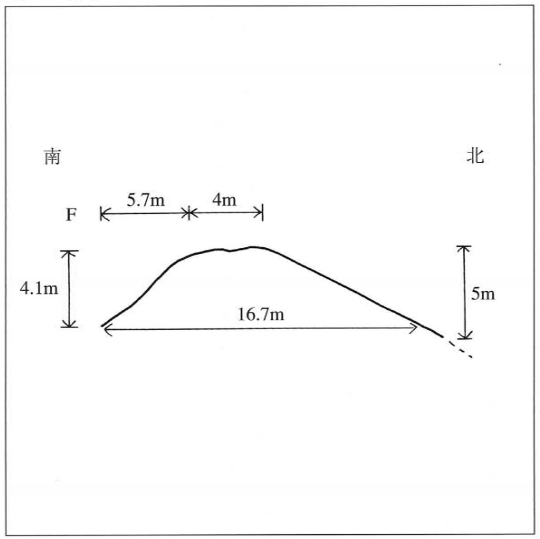
特記事項

近景（北より）

遠景（北西より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調査者
03/06/18	伊藤

遺構番号
土塁3001（5）

地区名
三の丸

地区番号
G5、H5、I5、J5

延　長
北端の東西全長上端：17.0m下端：39m

高　さ(深さ)
5.0m

幅
上端：4.0m下端：16.7m

勾　配

石　材

積み方

数　量

現　状
・良好

特記事項
・水堀水面からの比高12.7m

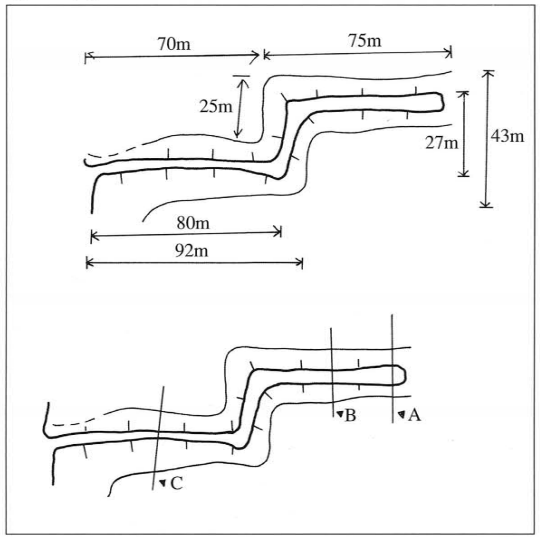
遠景（南西より）

全景（南西より）

全景（北西より）

遺構位置図

略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
土塁3002（1）

地 区 名
三の丸

地区番号
I6、I7、J5、J6

延　長
170m

高　さ(深さ)
曲輪側より：4.2～8.3m堀側より：5.1～7.7m

幅
上端：2.6～4.0m下端：17.3～25.8

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・良好

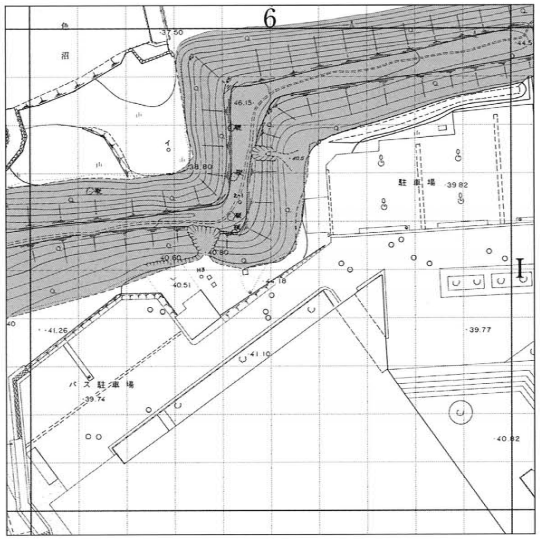
特記事項

遠景（北東より）

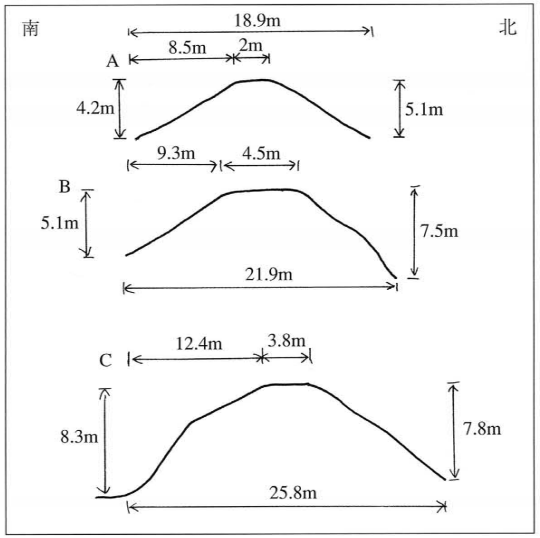
近景（南東より）

近景（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
土塁3002（2）

地 区 名
三の丸

地区番号
I5、I6、I7、J5、J6

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

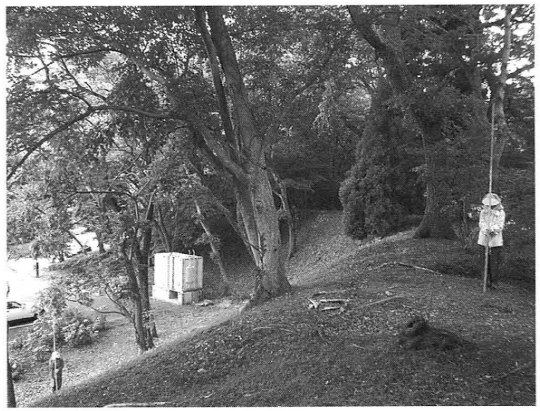
石　材

積 み 方

数　量

現　状

特記事項



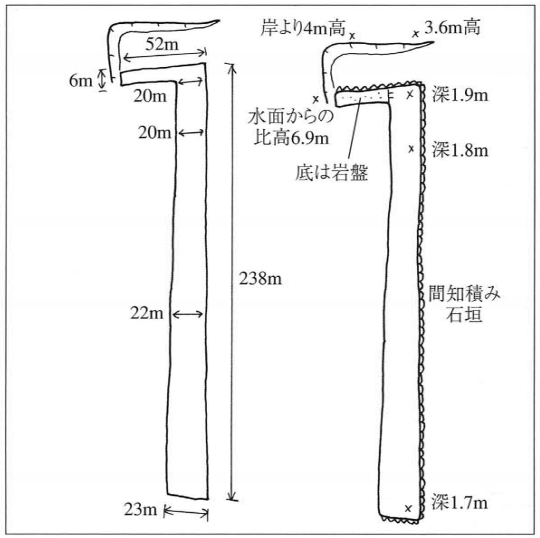
近景（東より）

近景（南より）

遠景（南より）

遺構位置図

略　　図



調査年月	調 査 者
03/06/18	伊藤

遺構番号
長沼水堀　堀3001

地 区 名
三の丸

地区番号
G5、H5、I5、J5

延　　長
290m

高　さ(深さ)
1.7～1.9m（岸近く）

幅
6～23m

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

特記事項

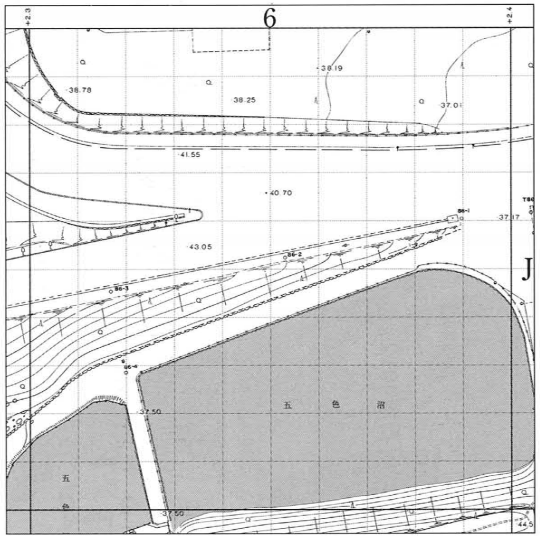
・北西部で五色沼より水が流れ込んでいる
・北西部は底が岩盤であり，南北に長い堀はそこから一段下がっている
・堀の北，東，南壁は間知石の練積み石垣である

全景（北東より）

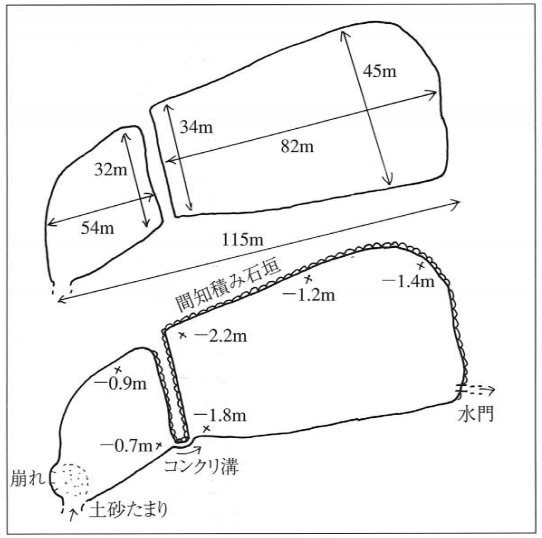
五色沼水堀からの排水口（東より）

近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/18	伊藤

遺構番号
五色沼水堀　堀3002

地 区 名
三の丸

地区番号
I6、I7、J6、J7

延　長
115m

高　さ(深さ)
0.7～2.2m（岸近く）

幅
45m

勾　配

石　材

積 み 方

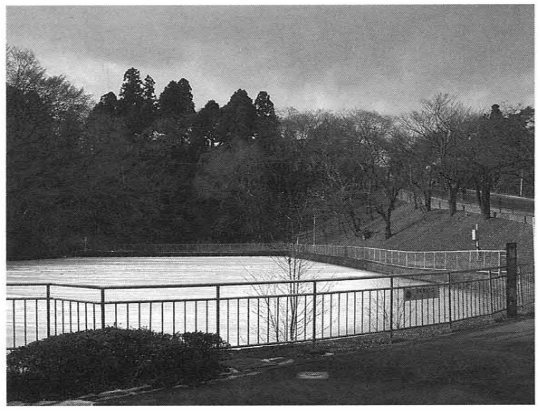
数　量

現　状
・西端で岸の一部が崩れている
西端の沢水流入口付近に土砂堆積

特記事項
・中間の土手及び北、東岸は間知積み練積み石垣がめぐり、水中で一部崩れている
・西半浅く、東半深い

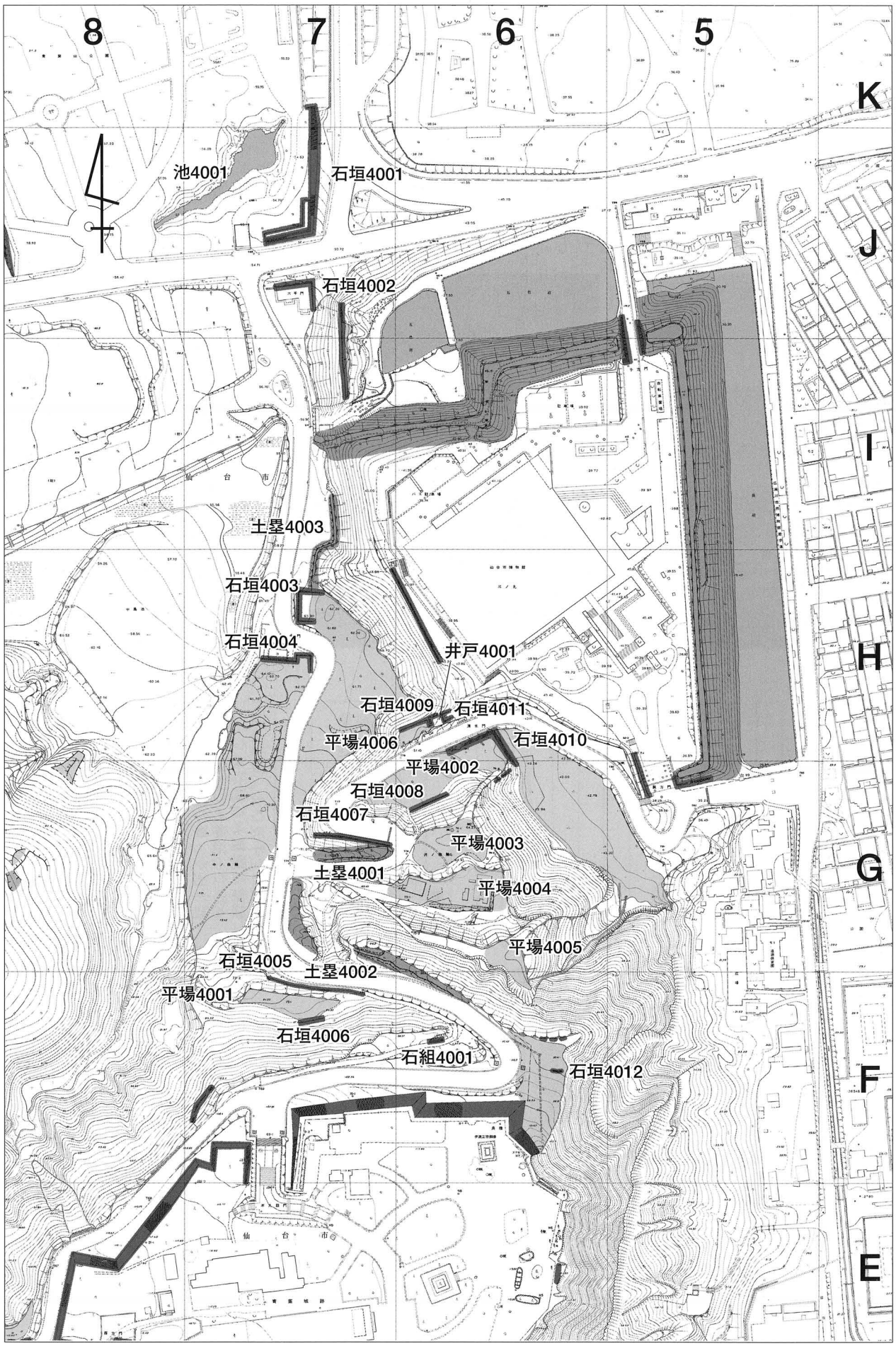
近景（北西より）

西端部の崩壊状況（南より）



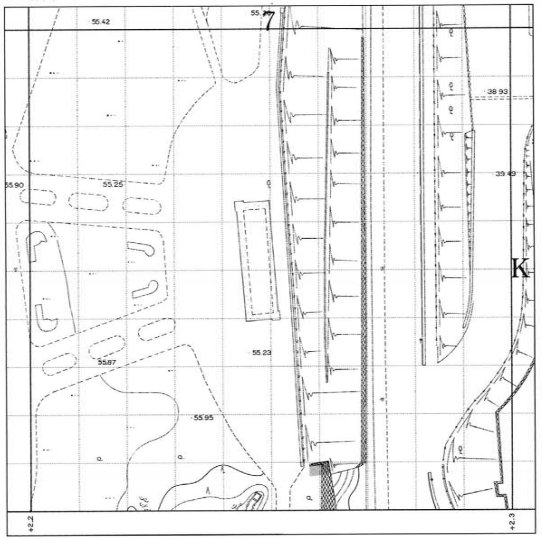
全景（東より）

4　登城路地区

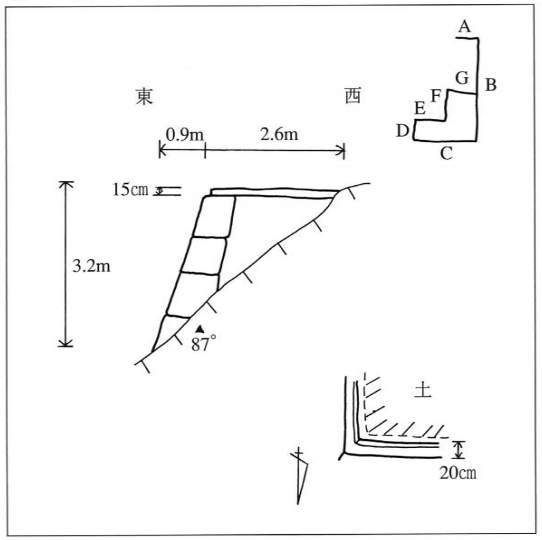


第６図　登城路地区の全体図

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣A面　石垣4001A

地区名
登城路

地区番号
K7

延　長
3.5m

高　さ(深さ)
3.2m

幅

勾　配
87°

石　材
切石

積み方
整層積み

数　量
4段

現　状
・良好

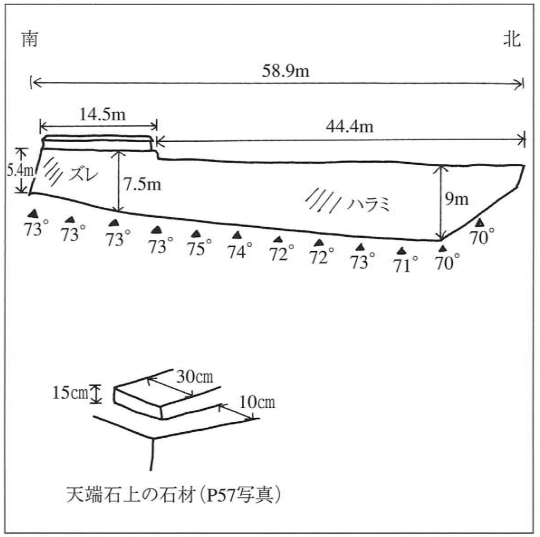
特記事項
・塀の土台石がある
・角は算木積み

全景（北より）

B面の天端石材（南より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣B面　石垣4001B

地 区 名
登城路

地区番号
J7、K7

延　　長
58.9m

高　さ(深さ)
BC角：5.4m　最高9m

幅

勾　　配
70°～75°

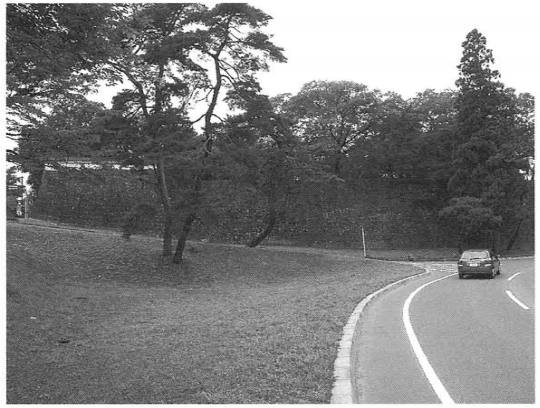
石　　材
切石

積 み 方
整層積み

数　　量
最大20段、BC角7段

現　　状
・BC角付近に、石のズレあり
・中間部ハラミ

特記事項
・天端上には、土塀の土台石がある
・南部に、土塀が乗る
・角石1段に対し、築石2段
・BC角は、算木積み

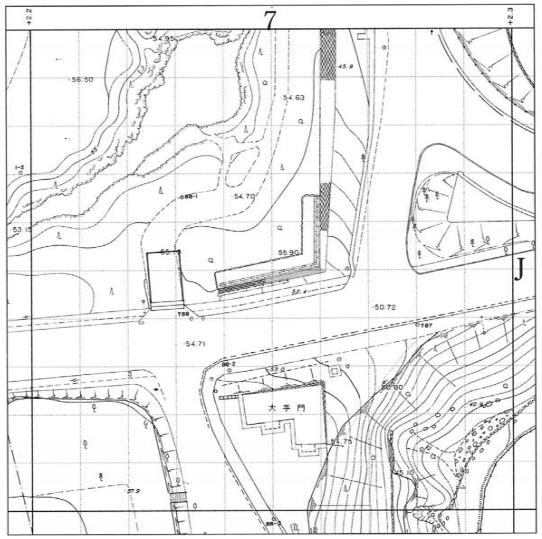


遠景（東より）

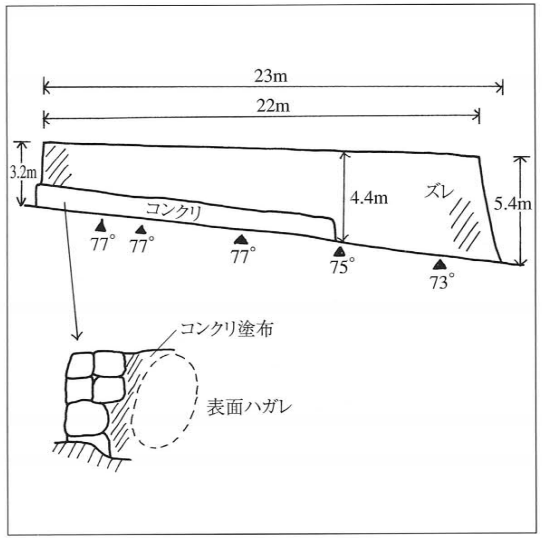
近景（南東より）

土塀土台石（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣C面　石垣4001C

地 区 名
登城路

地区番号
J7

延　長
23m

高　さ(深さ)
BC角：5.4m　CD角：3.2m

幅

勾　配
73°～77°

石　材
切石

積 み 方
整層積み

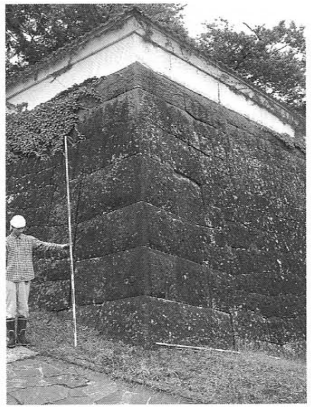
数　量
最大11段、CD角4段

現　状
・BC角部石のズレ
・CD角部の石劣化

特記事項
・天端上には、塀の土台石あり
・CD角は、角柱状の石を積む
・CD角付近の石材は被熱で劣化しており、一部、コンクリを塗り付けている

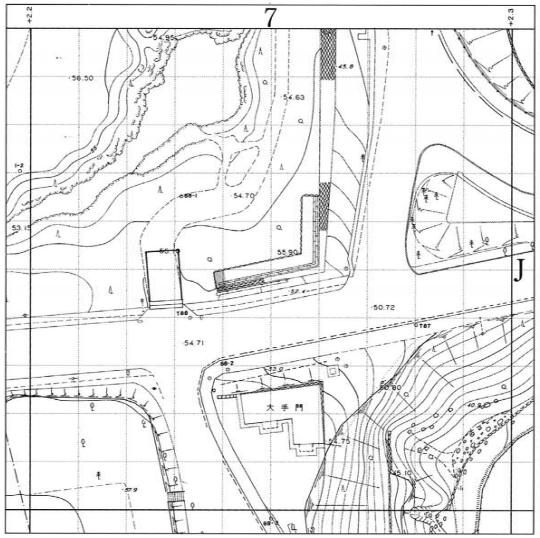
全景（南より）

西端部（南より）

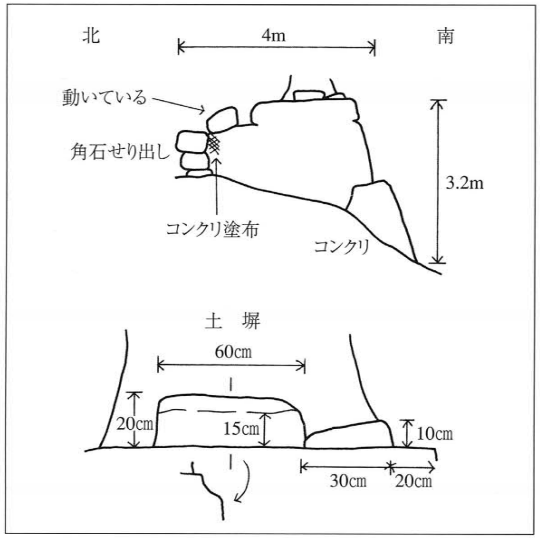


BC角部（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣D面　石垣4001D

地 区 名
登城路

地区番号
J7

延　長
4m

高　さ(深さ)
CD角：3.2m　DE角：0.85m

幅

勾　配
※せり出しているため、計測せず

石　材
・割石
・角石は立方体でノミ加工が施される

積 み 方
乱積み

数　量
21　4段

現　状
・前にせり出しており、崩壊の危険性がある
・DE角部の石がズレている

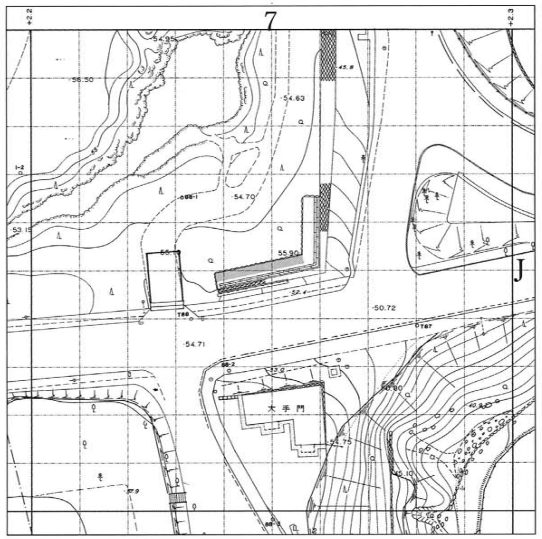
特記事項
・DE角はサイコロ状の石材を積む
・土塀基部には図示のような細長い石材がある
・昭和53年（1978）、平成15年（2003）の地震で土塀被災

全景（西より）

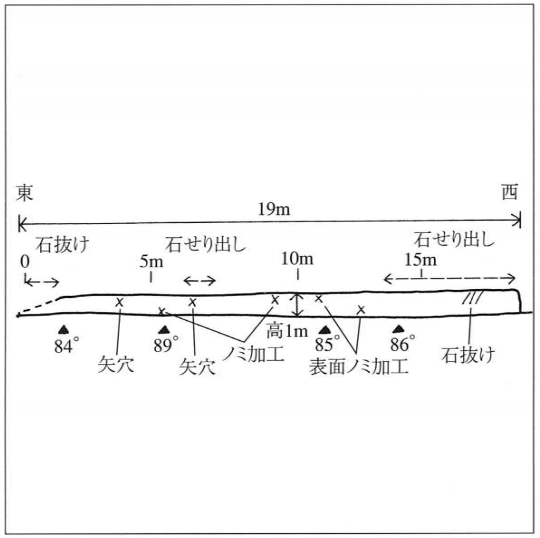
DE角部の石のズレ（西より）

天端の石材（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣E面　石垣4001E

地 区 名
登城路

地区番号
J7

延　長
19m

高　さ(深さ)
0.4～1.0m

幅

勾　配
84°～89°

石　材
割石と自然石

積 み 方
乱積み

数　量
70　3段

現　状
・石が抜け落ちたり、せり出している部分があり、崩落の危険がある。

特記事項
・矢穴ある石材2石、表面にノミ加工ある石材5石

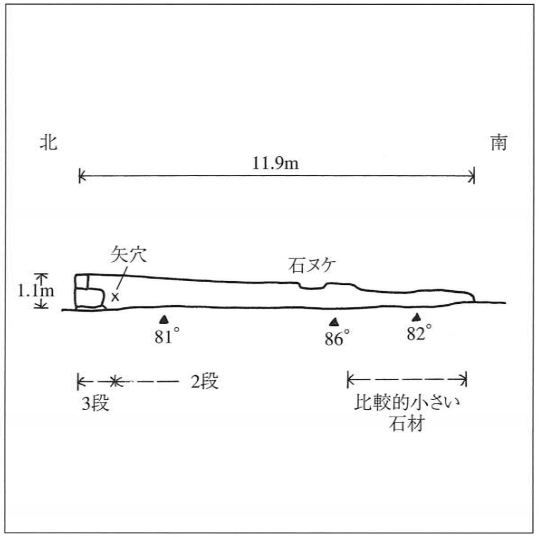
全景（北より）

近景（石のせり出し）（北より）

近景（北より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調査者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣F面　石垣4001F

地区名
登城路

地区番号
J7

延　長
11.9m

高　さ(深さ)
0.4～1.1m

幅

勾　配
81°～86°

石　材
割石と自然石に四角錐切石少量まじる

積み方
乱積み

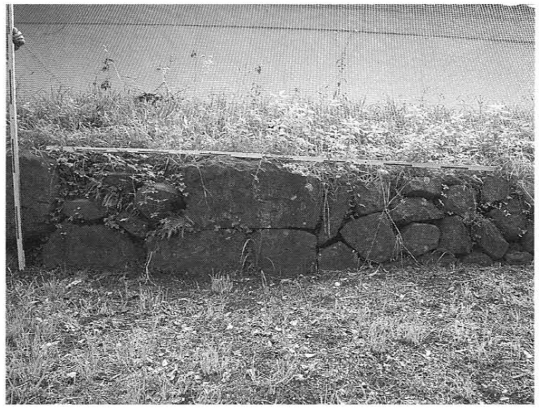
数　量
57　2段～3段

現　状
・石が抜けている部分がある

特記事項
・EF入角付近の石が小さいため積み直した可能性が考えられる
・矢穴ある石材1石
・FG角算木積み

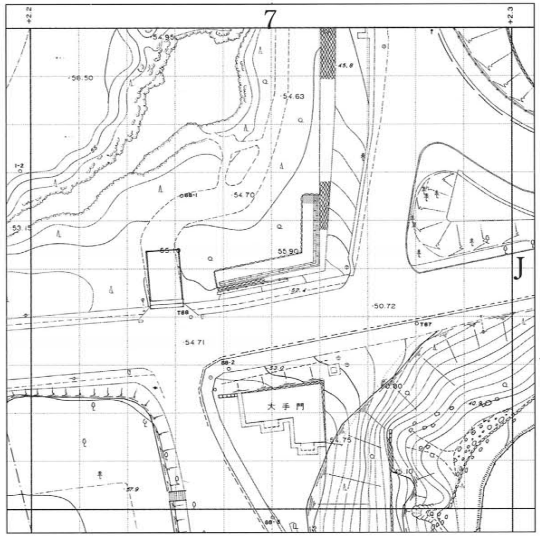
全景（西より）

近景（西より）

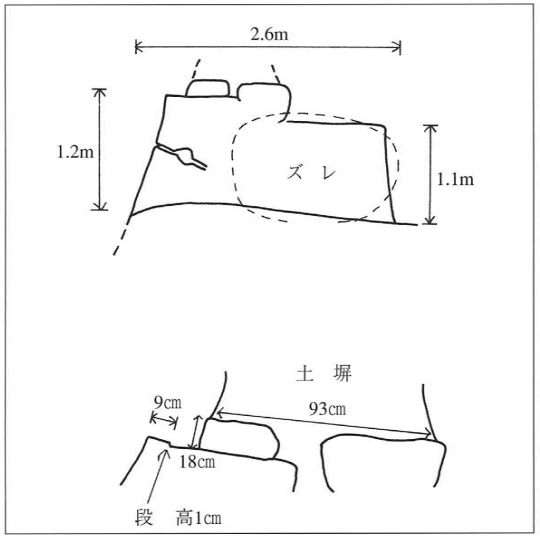


近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/26	渡部

遺構番号
大手門北側石垣G面　石垣4001G

地 区 名
登城路

地区番号
J7

延　長
2.6m

高　さ(深さ)
1.1～1.2m

幅

勾　配
石がズレているので測定せず

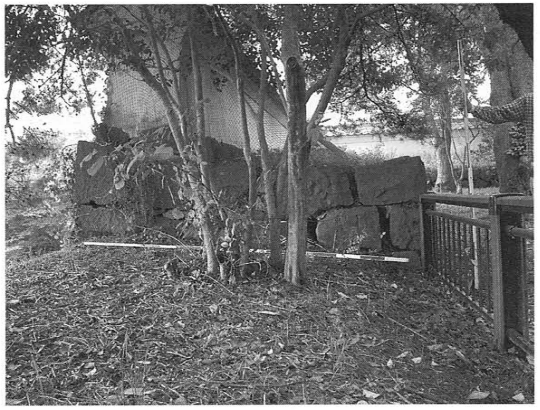
石　材
B面側切石、他は割石

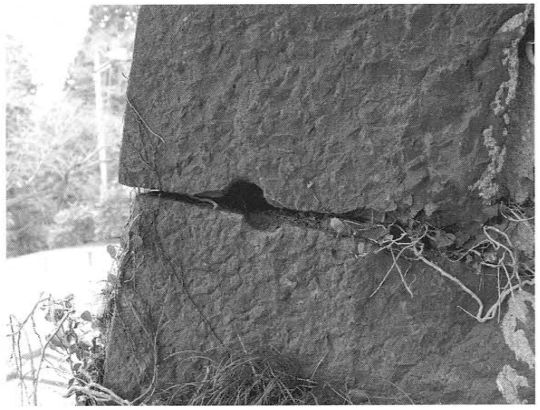
積 み 方
乱積み

数　量
15

現　状
・西半の石がズレており、崩れる危険がある

特記事項
・B面側切石2石の合わせ目に、丸い穴が開けられている
・B面側天端石の端に小さな段を加工している
・土塀が乗る
・一部コンクリが塗られている

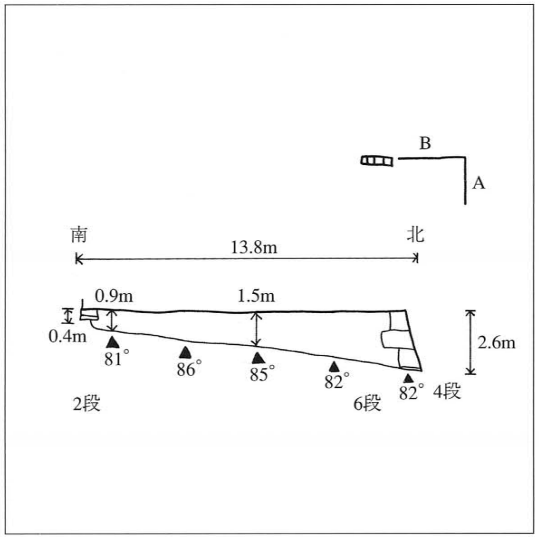

全景（北より）


石材にあけられた穴（北より）

天端石の加工（北より）

遺構位置図

略　　図



調査年月	調 査 者
03/06/23	中山

遺構番号
大手門脇櫓石垣A面　石垣4002A

地 区 名
登城路

地区番号
J7

延　　長
13.8m

高　さ(深さ)
0.4～2.6m

幅

勾　　配
82°～86°

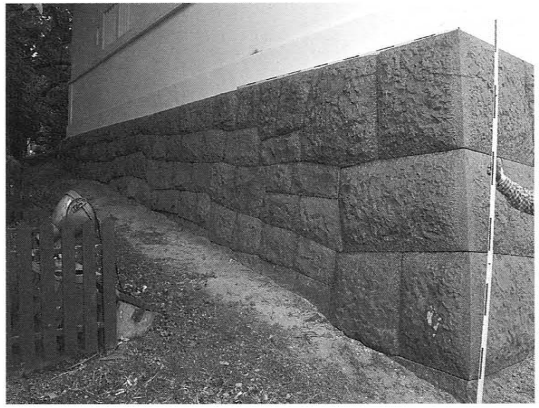
石　　材
切石

積 み 方
整層積み

数　　量
2～6段

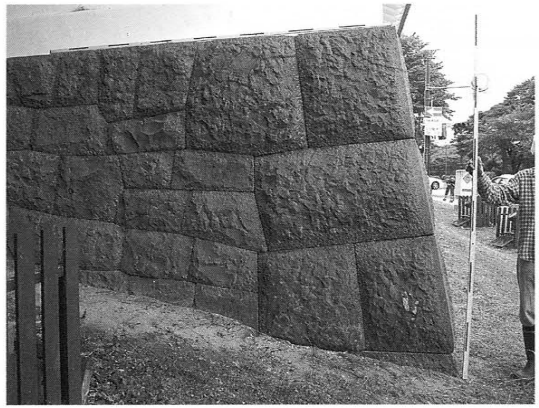
現　　状
・石材のずれている箇所がある

特記事項
・角石４段。江戸切りが見られる
・石材には近年のものと考えられるハツリがある



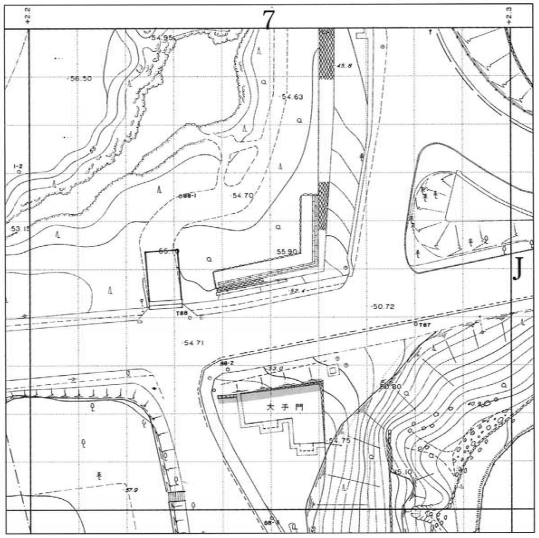
全景（北東より）

近景（東より）

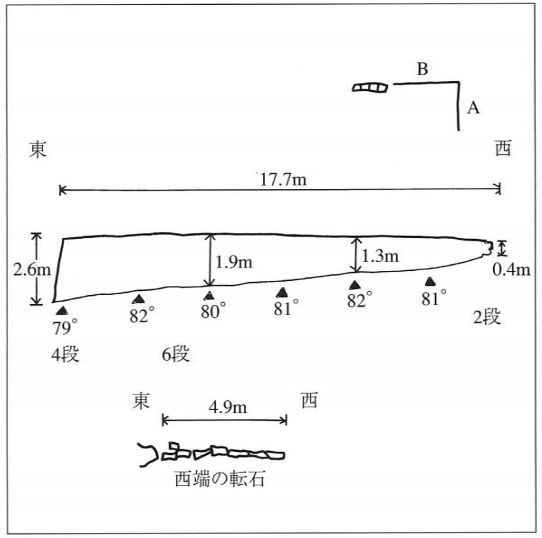


近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者

遺構番号
大手門脇櫓石垣B面　石垣4002B

地 区 名
登城路

地区番号
J7

延　長
17.7m

高　さ(深さ)
0.4～2.6m

幅

勾　配
79°～82°

石　材
切石

積 み 方
整層積み

数　量
121　2～6段

現　状
・良好

特記事項
・石材には近年のものと考えられるハツリが見られる
・西側に10石並んでおり、そのうち２石はコンクリート質の新しい石材である

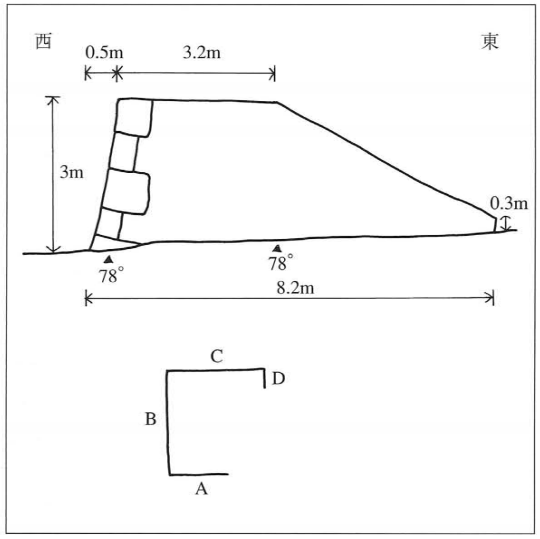
全景（北東より）

近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/05/13	渡部・中山

遺構番号
中門北側石垣A面　石垣4003A

地 区 名
登城路

地区番号
H7

延　長
8.2m

高　さ(深さ)
3m

幅

勾　配
78°

石　材
切石

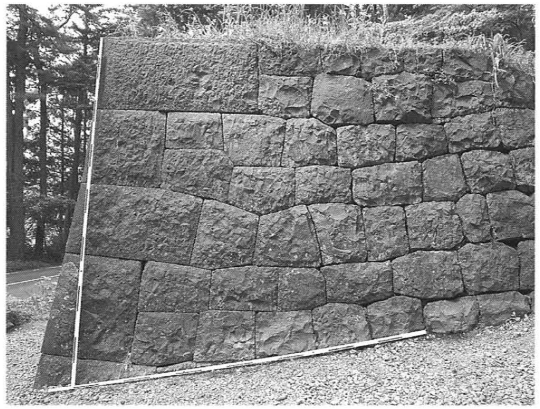
積 み 方
整層積み

数　量
87

現　状
・主に東半は石材間に隙間がある
・積み直されている

特記事項
・出角部、算木積み、江戸切り
・裏込め中にコンクリあり、また、石材表面に数字の痕跡があることから、積み直されていると考えられる

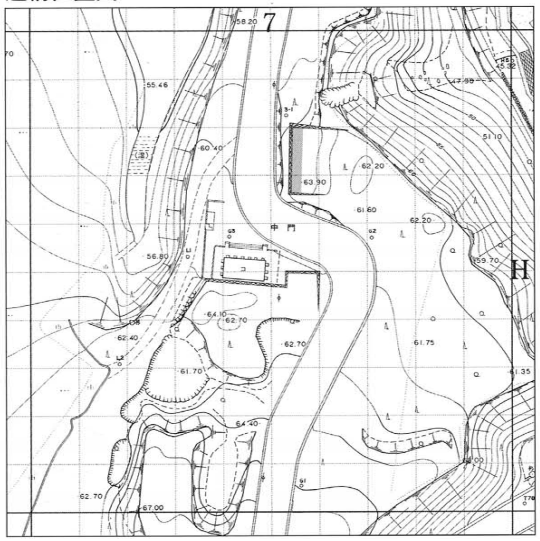
全景（南より）



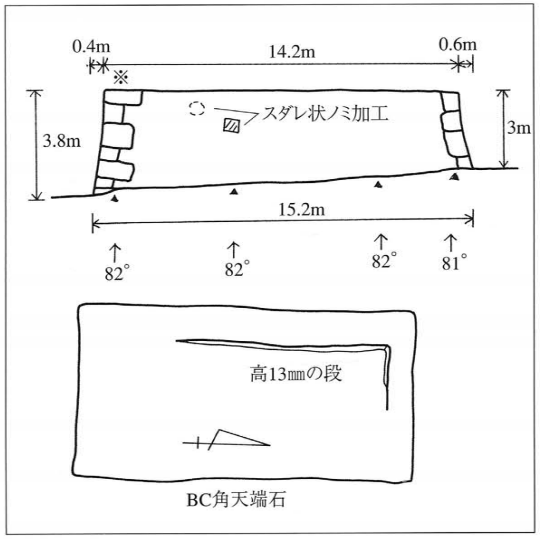
近景（南より）

近景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/05/13	渡部・中山

遺構番号
中門北側石垣B面　石垣4003B

地区名
登城路

地区番号
H7

延　長
15.2m

高　さ(深さ)
3～3.8m

幅

勾　配
80°～82°

石　材
切石

積み方
整層積み

数　量
210

現　状
・良好

特記事項
・出角、算木積み、江戸切り
・裏込めの中と現在見える石材の最下部にコンクリがあり、積み直していると考えられる
・石材表面にスダレ状のノミ痕跡わずかにあり
・BC角の天端石上面に縁加工、幅10～14㎝、高1.3㎝、程度

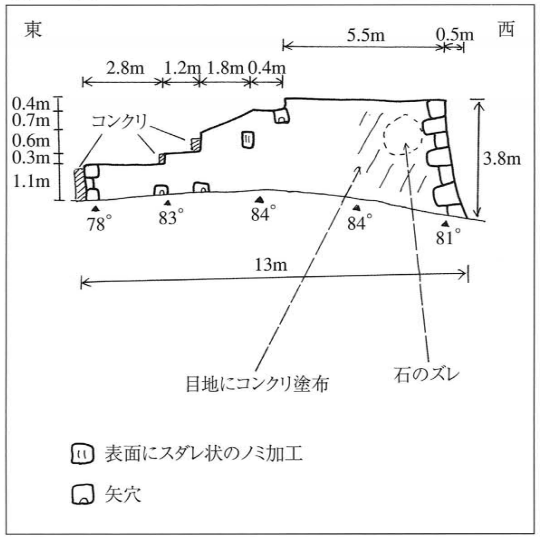
全景（西より）

近景（西より）

BC角部天端石材の加工（南東より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/05/13	渡部・中山

遺構番号
中門北側石垣C面　石垣4003C

地 区 名
登城路

地区番号
H7

延　　長
13m

高　さ(深さ)
1.1～3.8m

幅

勾　　配
78°～84°

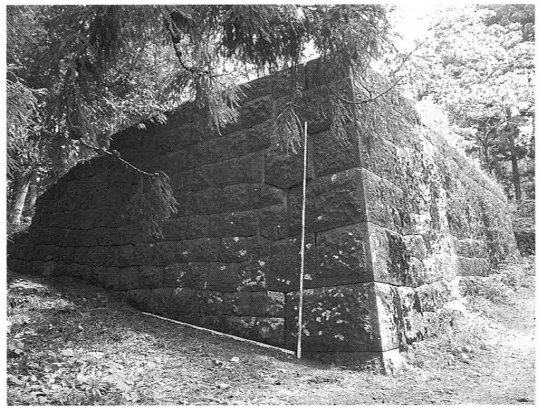
石　　材
切石

積 み 方
整層積み

数　　量
152

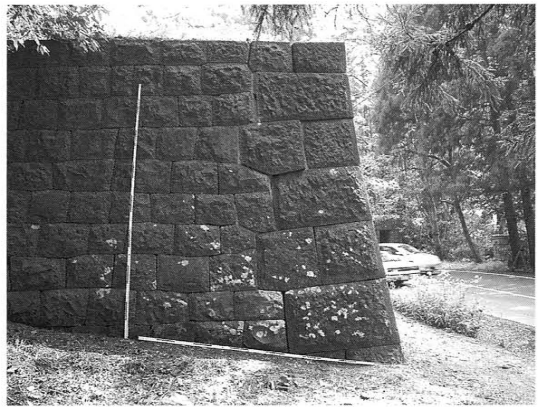
現　　状
・BC角付近で石のズレが目立つ

特記事項
・CD角部はコンクリすり付3段あり。最大の石の下は玉石
・矢穴ある石材３石、スダレ状ノミ痕ある石材が１石みられる



全景（北西より）

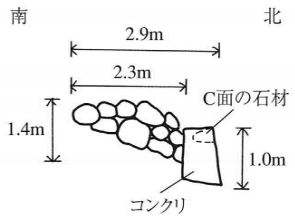
近景（北より）



近景（北より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調査者
03/05/13	渡部・中山

遺構番号
中門北側石垣D面　石垣4003D

地区名
登城路

地区番号
H7

延　長
2.3m

高　さ(深さ)
1.4m

幅

勾　配

石　材
自然石

積み方
乱積み

数　量
11

現　状
・ゆるんでおり崩落の危険がある

特記事項
・北側はコンクリ擁壁にすり付けている
・石垣前面は急斜面である

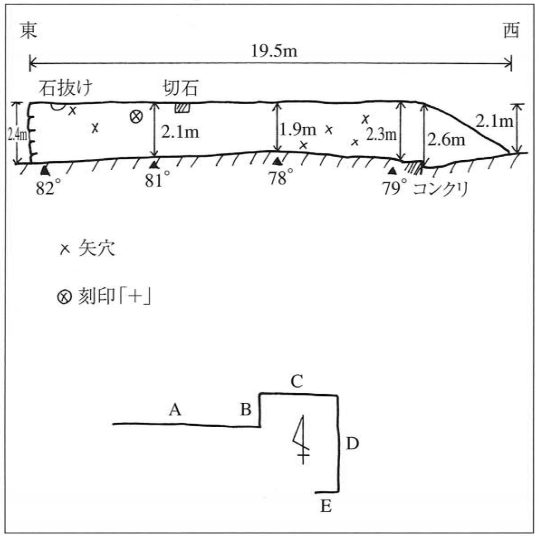
全景（東より）

近景（東より）

C面の東角部下部（北西より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/05/14	渡部・中山

遺構番号
中門南側石垣A面　石垣4004A

地 区 名
登城路

地区番号
H7

延　長
19.5m

高　さ(深さ)
1.9～2.6m

幅

勾　配
78°～82°

石　材
自然石、割石、わずかに切石

積 み 方
乱積み

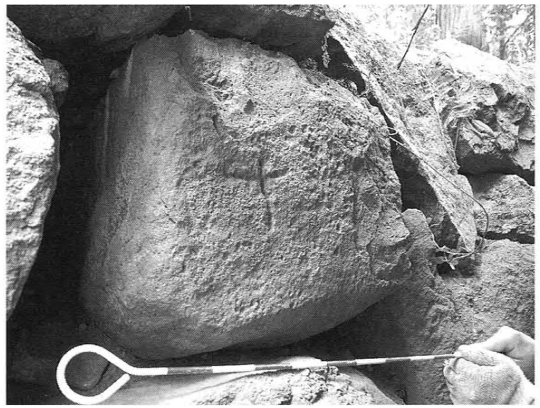
数　量
183　西端に20石崩落

現　状
・西端3.5m程度、石が崩落している
・天端石一部ヌケている
・縦に割れた石がある

特記事項
・矢穴ある石材6石
・刻印ある石材1石「+」
・AB角入角、直角に折れる
・裏込めは玉石
・前面に近代構築物があり、土台が石垣に接している

東端部近景（北より）

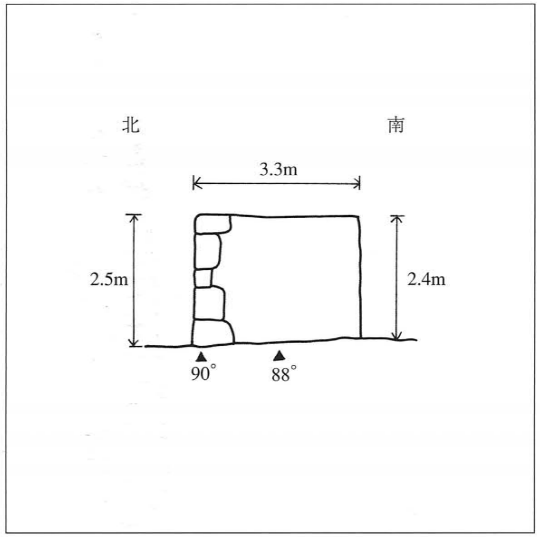
西端部近景（北より）



刻印（北より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調査者
03/05/14	渡部・中山

遺構番号
中門南側石垣B面　石垣4004B

地区名
登城路

地区番号
H7

延　長
3.3m

高　さ(深さ)
2.4～2.5m

幅

勾　配
88°～90°

石　材
自然石、割石

積み方
乱積み

数　量
39

現　状

特記事項
・AB角入角、BC角出角-直角
・裏込めは玉石
・BC角部はサイコロ状の石材を積み上げている

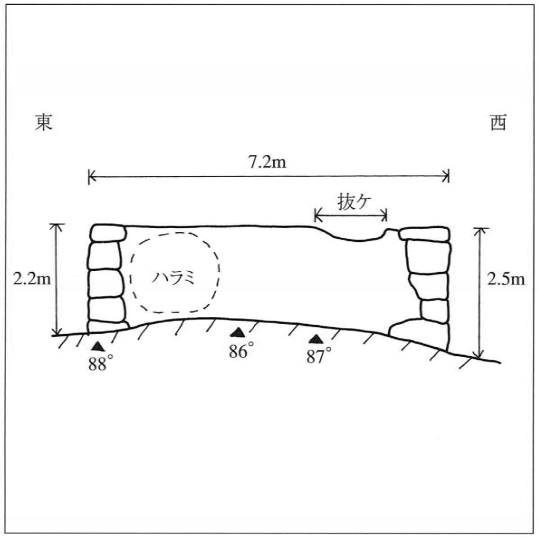
全景（西より）

BC角部（北西より）

平成15年5月26日地震による被害状況（北西より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/05/14	渡部・中山

遺構番号
中門南側石垣C面　石垣4004C

地 区 名
登城路

地区番号
H7

延　長
7.2m

高　さ(深さ)
2.2～2.5m

幅

勾　配
86°～88°

石　材
割石、自然石

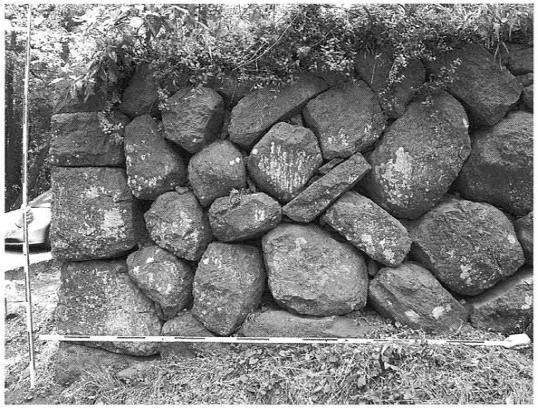
積 み 方
乱積み、落とし積み

数　量
77

現　状
・東側で、ハラミあり
・天端石一部ヌケている

特記事項
・BC角出角
・CD角出角
・裏込め玉石
・出角の石材はサイコロ状の石材を積み上げている
・落とし積みの部分があり、積み直された可能性が考えられる

全景（北より）

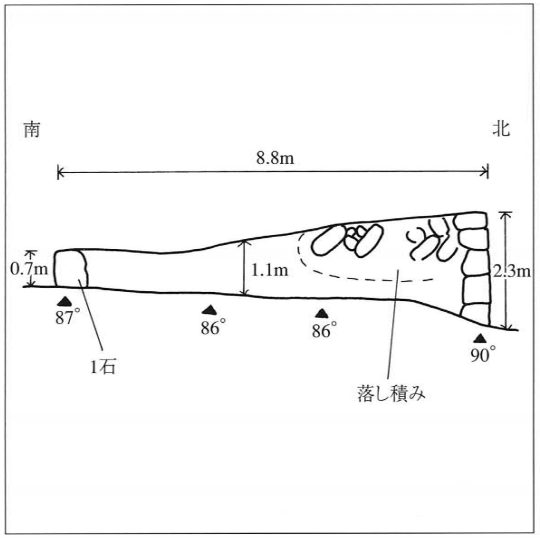


近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/05/14	渡部・中山

遺構番号
中門南側石垣D面　石垣4004D

地 区 名
登城路

地区番号
H7

延　長
8.8m

高　さ(深さ)
0.7～2.3m

幅

勾　配
86°～90°

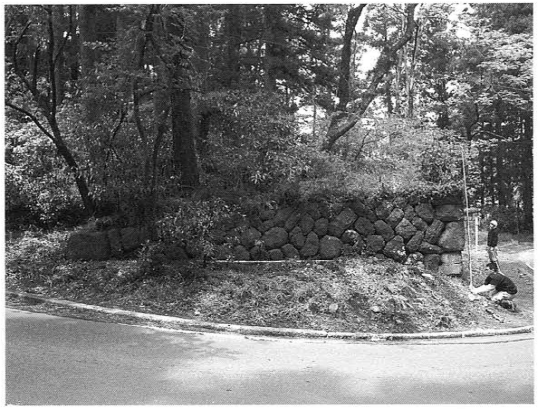
石　材
割石、自然石

積 み 方
落とし積み、乱積み

数　量
69

現　状

特記事項
・裏込め玉石
・CD角出角
・DE角出角



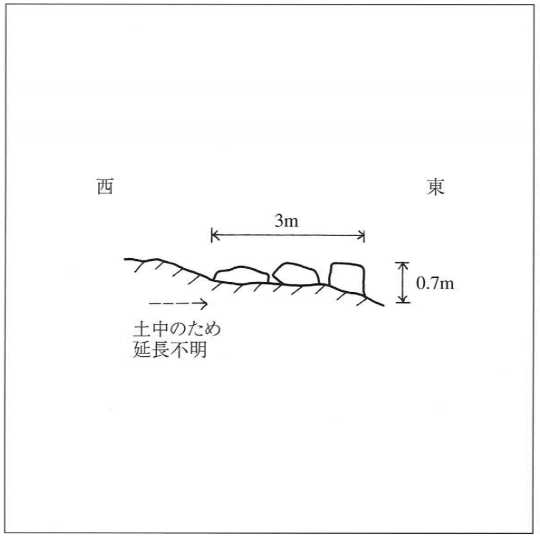
全景（東より）

近景（東より）

近景（東より）

遺構位置図

略　　図



調査年月

03/05/14

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

中門南側石垣E面　石垣4004E

地 区 名

登城路

地区番号

H7

延　　長

3m

高　さ(深さ)

0.7m

幅

勾　　配

石　　材

割石、自然石

積 み 方

1段（下半は土中のため、段数不明）

数　　量

3

現　　状

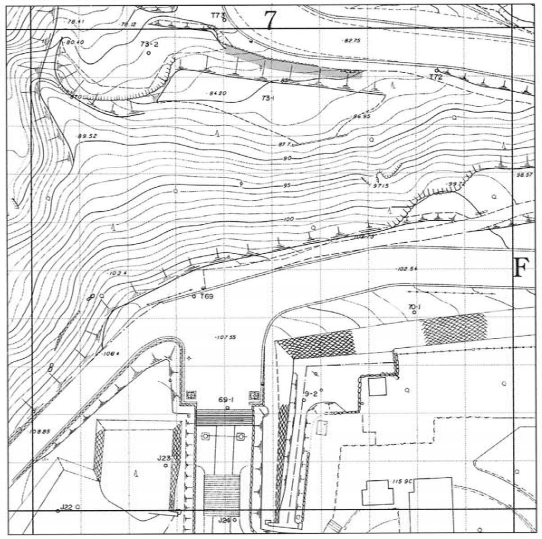
特記事項

・DE角出角
・西端は土中にもぐるため延長不明
・段数不明

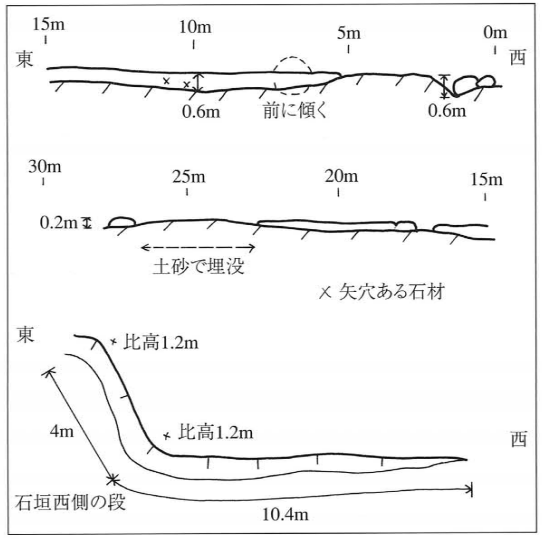
全景（南より）

全景（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/15	渡部・中山

遺構番号
下馬脇石垣　石垣4005

地 区 名
登城路

地区番号
F7

延　長
27.6m

高　さ(深さ)
0.1～0.6m

幅

勾　配

石　材
切石

積 み 方

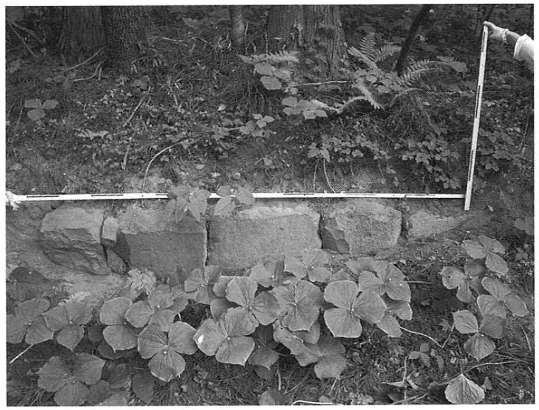
数　量
32　1段のみ

現　状
・前面に傾いている石材がある
・一部が玉石混じりの土砂で埋まっている

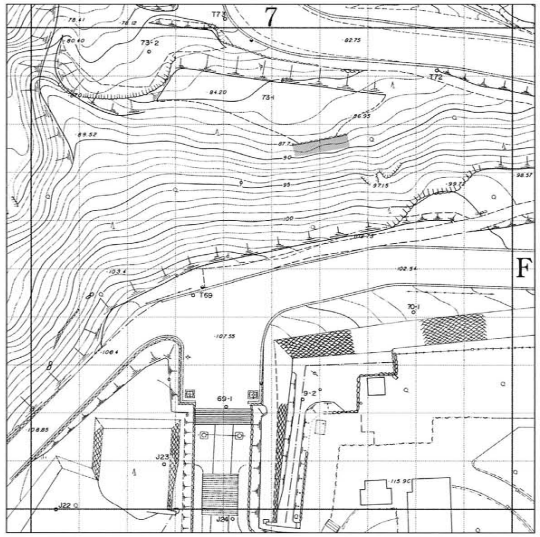
特記事項
・矢穴ある石材2石
・前面に倒れこんでいる石材があり危険度高い
・登城路脇の石組側溝の側石の可能性が考えられる

遠景（北東より）

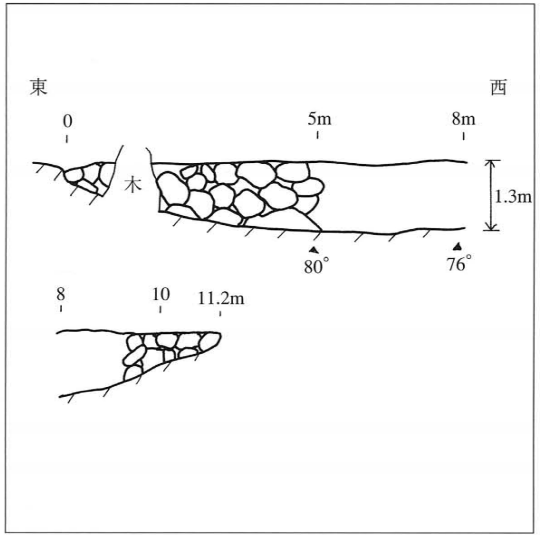
近景（北より）


近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/15

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

下馬平場石垣　石垣4006

地 区 名

登城路

地区番号

F7

延　長

11.2m

高　さ(深さ)

1.3m

幅

勾　配

76°～80°

石　材

自然石

積 み 方

乱積み

数　量

75（間詰め石16石）2～4段

現　状

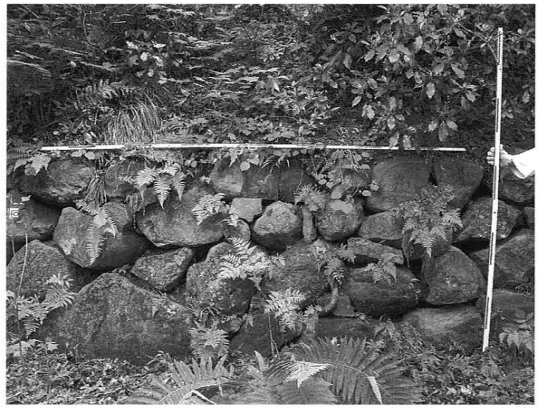
・東側で根がからんでいる

特記事項

・裏込め玉石

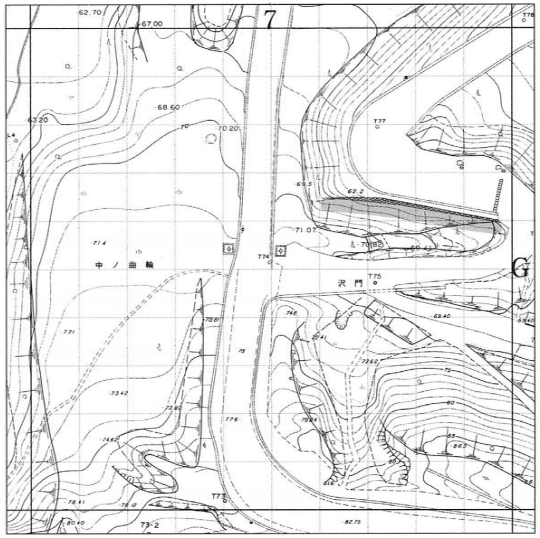
全景（北より）

近景（北より）

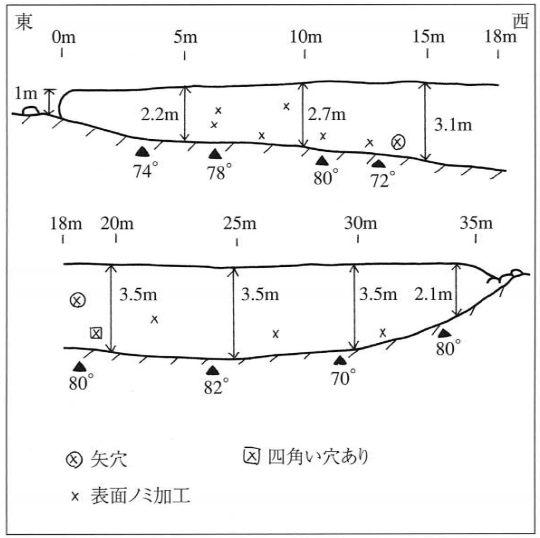


近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/05/19	渡部・中山

遺構番号
沢門下石垣　石垣4007

地区名
登城路

地区番号
G7

延　長
36.7m

高　さ(深さ)
1～3.5m

幅

勾　配
70°～82°

石　材
大部分が自然石だが割石がわずかに混じる

積み方
乱積み

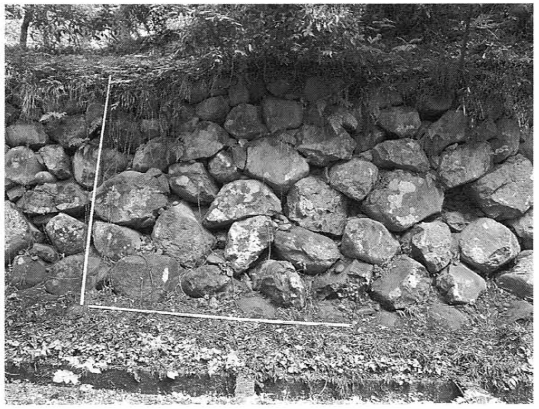
数　量
364

現　状
・根がからんでいる
・上端がせり出している

特記事項
・表面ノミ加工8石、粗いノミ加工1石
・矢穴あるもの2石（計測できるもので、間口9cm、深10cm、末口6cm）
・東端に上面平らな1石あり（角石か）
・ドリルで空けたような丸い穴が見える

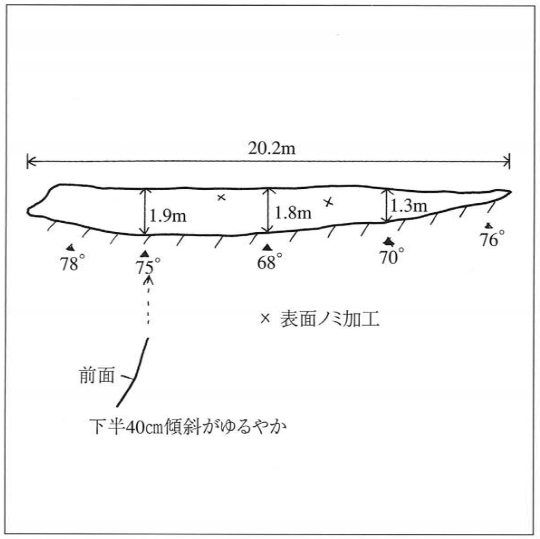
遠景（北より）

近景（北より）


近景（北より）

遺構位置図

略　図



調査年月

03/05/22

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

沢曲輪石垣　石垣4008

地 区 名

登城路

地区番号

G6

延　長

20.2m

高　さ(深さ)

1.3～1.9m

幅

勾　配

68°～78°

石　材

自然石大部分、割石まじる

積 み 方

乱積み

数　量

223　6～7段

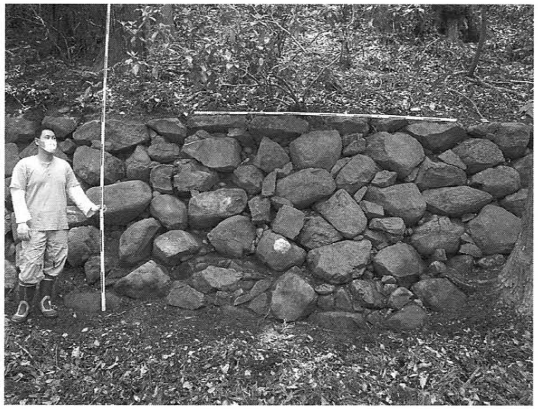
現　状

・良好

特記事項

・裏込め玉石
・石材表面にノミ加工あるものあり
・下半で傾斜が変化する

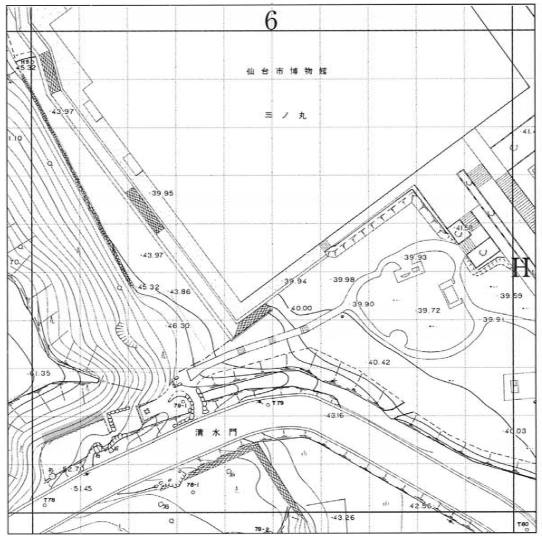
全景（北西より）



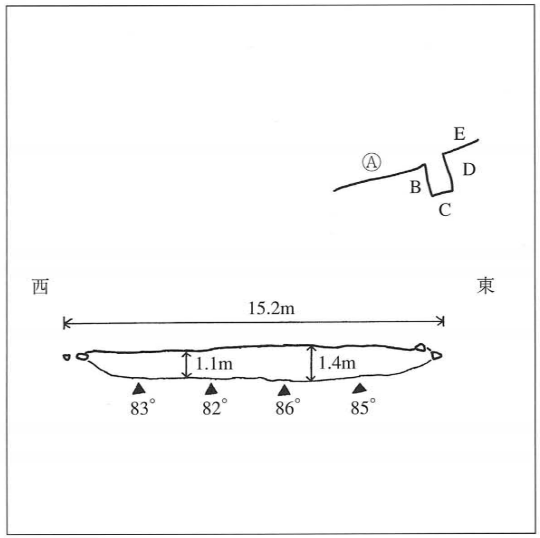
近景（北西より）

傾斜の状況（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/02	中山

遺構番号
清水門北側石垣A面　石垣4009A

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　長
25.1m

高　さ(深さ)
0.3～1.4m

幅

勾　配
82°～86°

石　材
自然石が大部分、割石まじり

積 み 方
乱積み

数　量
115石

現　状

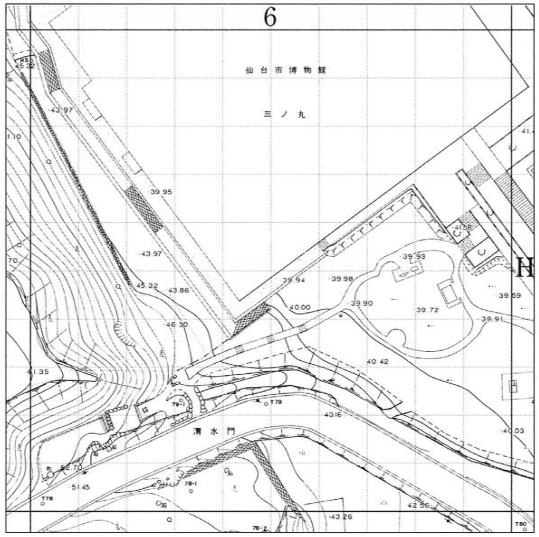
特記事項

全景（南西より）

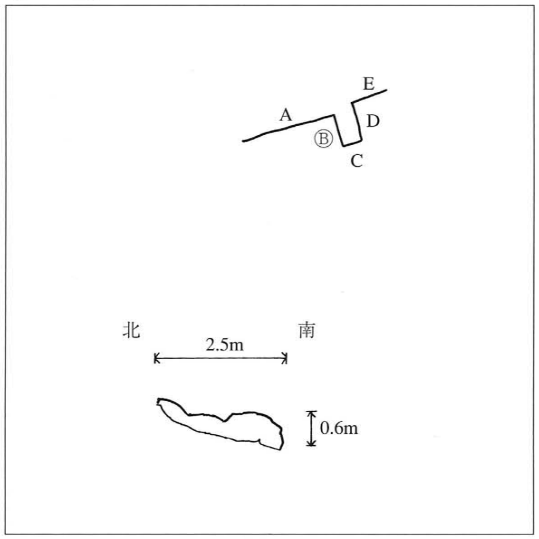
近景（南より）

近景（南より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門北側石垣B面　石垣4009B

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　　長
2.5m

高　さ(深さ)
0.6m

幅

勾　　配

石　　材
自然石が大部分、割石まじり

積 み 方
乱積み

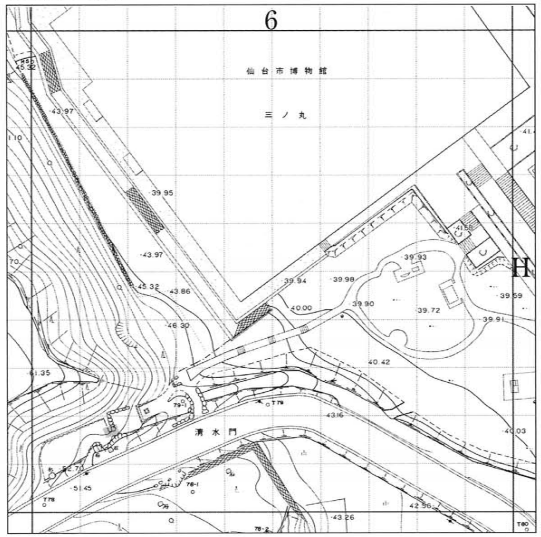
数　　量
20

現　　状
・崩れている

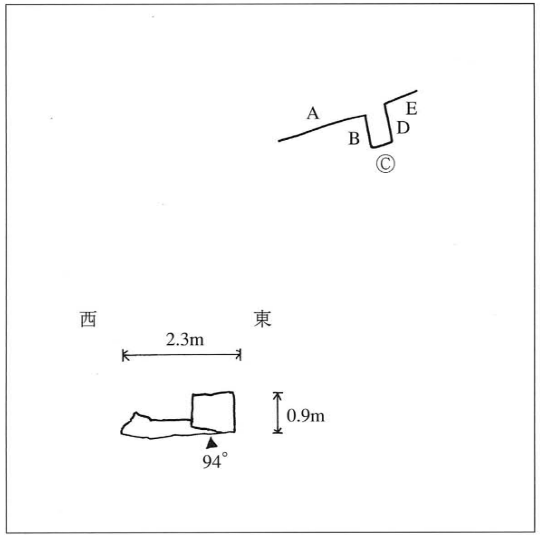
特記事項

全景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調査者

遺構番号
清水門北側石垣C面　石垣4009C

地区名
登城路

地区番号
H6

延　長
2.3m

高　さ(深さ)
0.9m

幅

勾　配

石　材
自然石が大部分、割石まじり

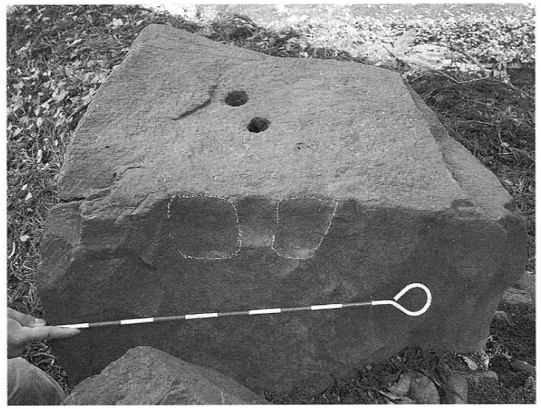
積み方
15

数　量

現　状
・崩れている

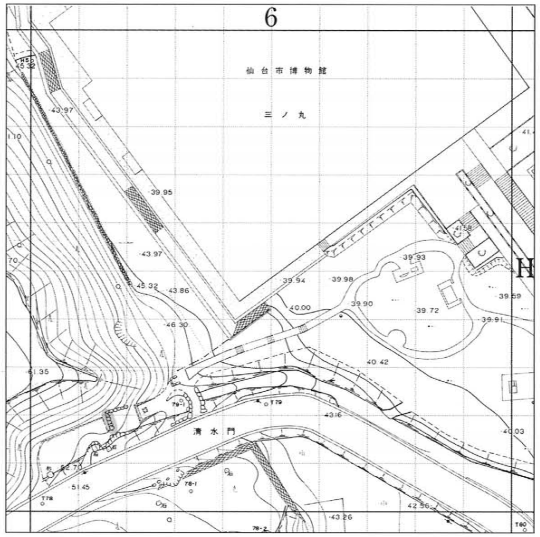
特記事項

全景（南より）

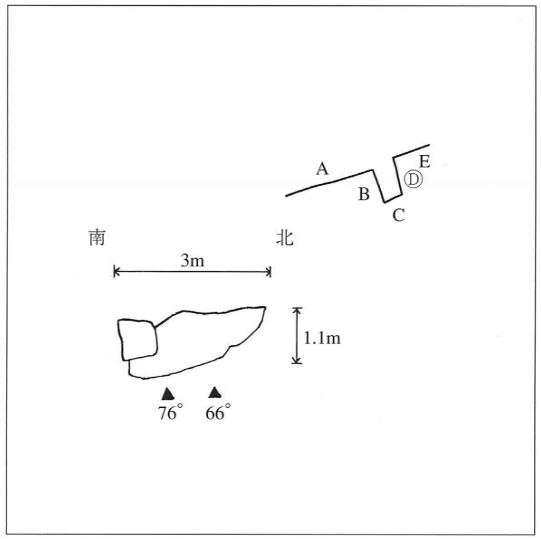


角石の矢穴（北より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門北側石垣D面　石垣4009D

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　　長
3.0m

高　さ(深さ)
1.1m

幅

勾　　配
66°～76°

石　　材
自然石が大部分、割石まじり

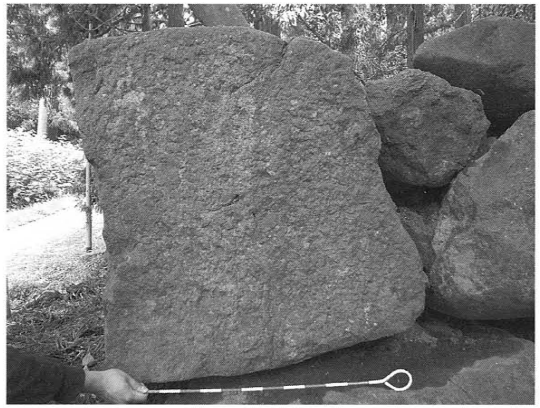
積 み 方
乱積み

数　　量
15

現　　状
・良好

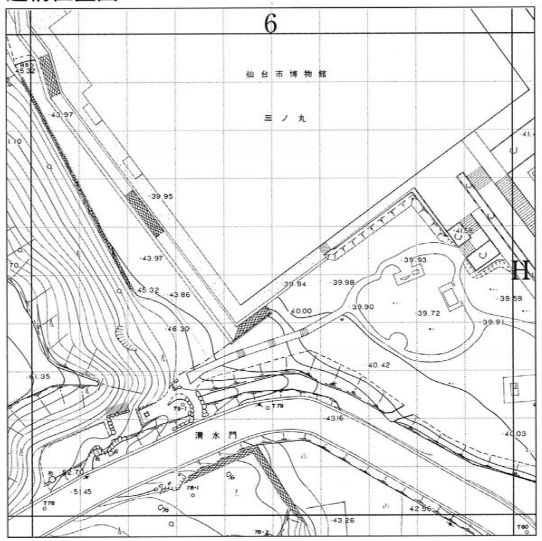
特記事項
・CD角部に方形に加工された角石１石あり。表面をノミ加工している
・矢穴２ヶ所（幅10×深10、幅9×深9

全景（東より）

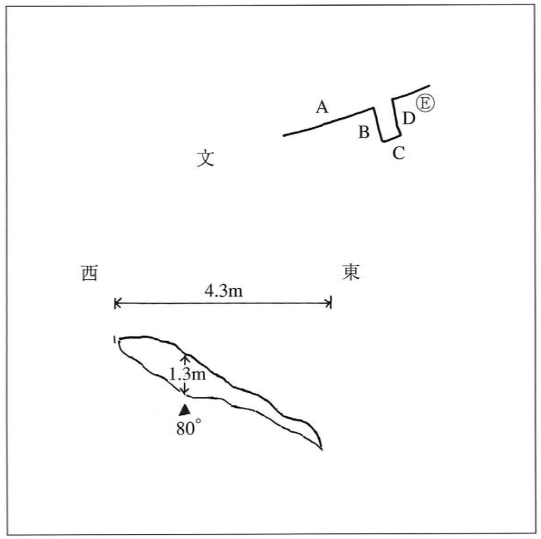


角石（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門北側石垣E面　石垣4009E

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　長
4.3m

高　さ(深さ)
1.3m

幅

勾　配
80°

石　材
自然石が大部分、割石まじり

積 み 方
乱積み

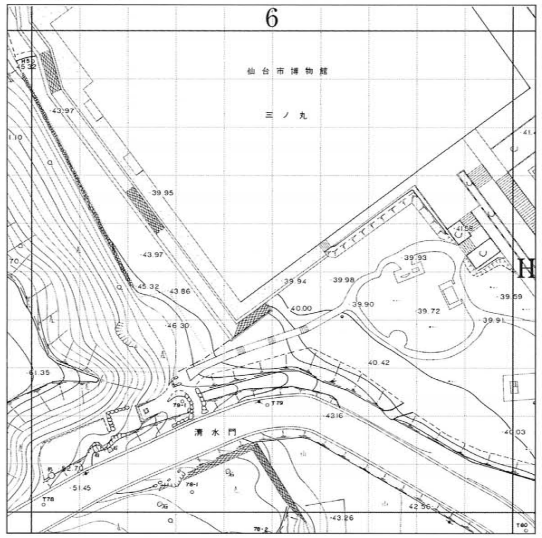
数　量
24

現　状
・良好

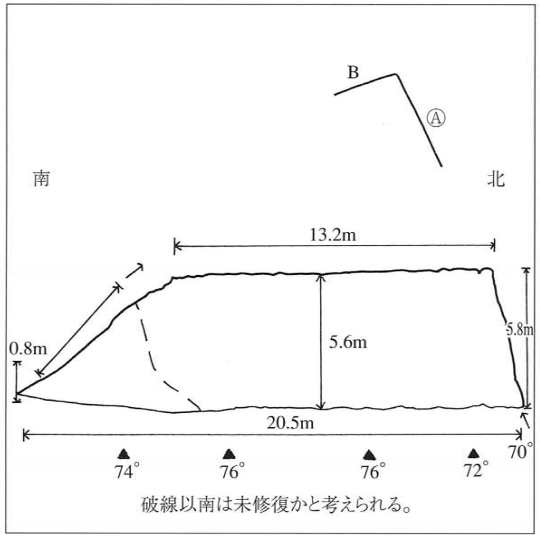
特記事項

全景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門南側石垣A面　石垣4010A

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　　長
20.5m（天端13.2m）

高　さ(深さ)
0.8～5.8m

幅

勾　　配
72～76°

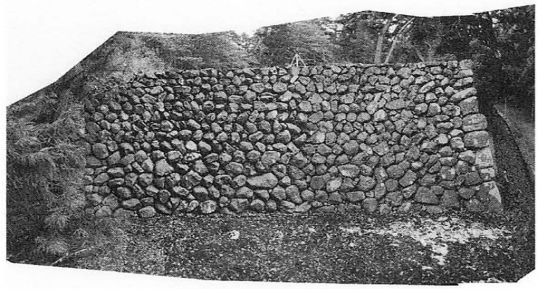
石　　材
自然石主体、割石混じる

積 み 方
乱積み、一部落し積み

数　　量
838　AB角10段10石、築石828石

現　　状
・修復の際にコンクリートが入れられている
・割れた石材がある

特記事項
・昭和39年の新潟地震により崩壊し、昭和40年に積み直し
・コンクリートや排水パイプが確認される（天端はコンクリートで固められている）
・角石にノミ加工有り
・昭和53年宮城県沖地震で崩壊し、その後積み直し

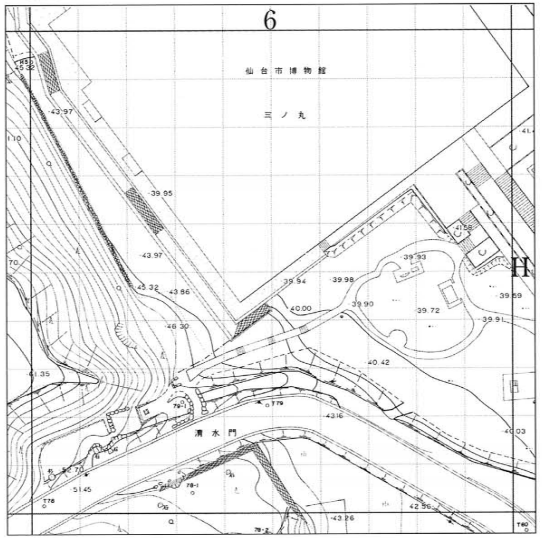


全景（東より）

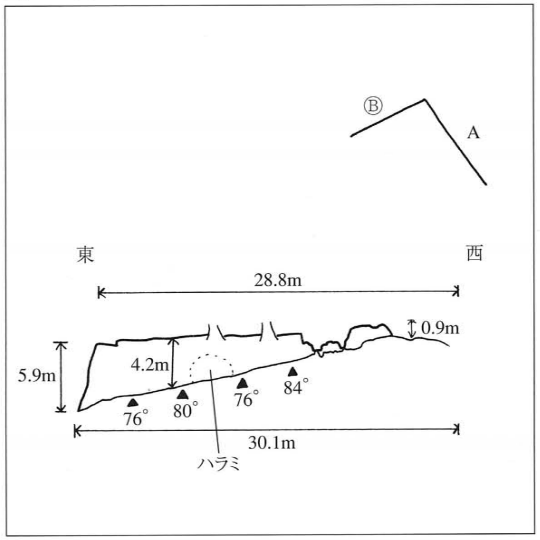
角部（北東より）

南端部（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門南側石垣B面　石垣4010B

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　長
30.1m（天端28.8m）

高　さ(深さ)
0.9～5.9m

幅

勾　配

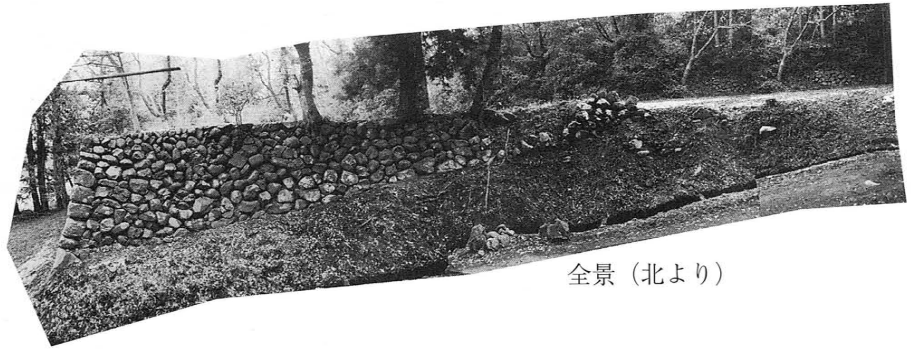
石　材
自然石主体、割石まじり

積 み 方
乱積み

数　量
448　築石のみ（角石はA面に含む）

現　状

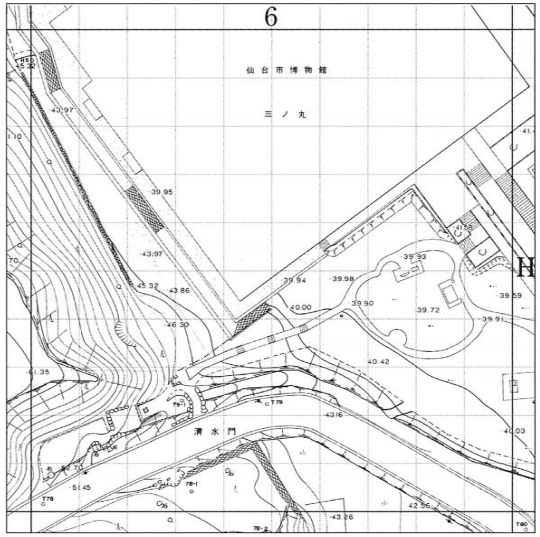
特記事項
・西端部が崩落


全景（北より）

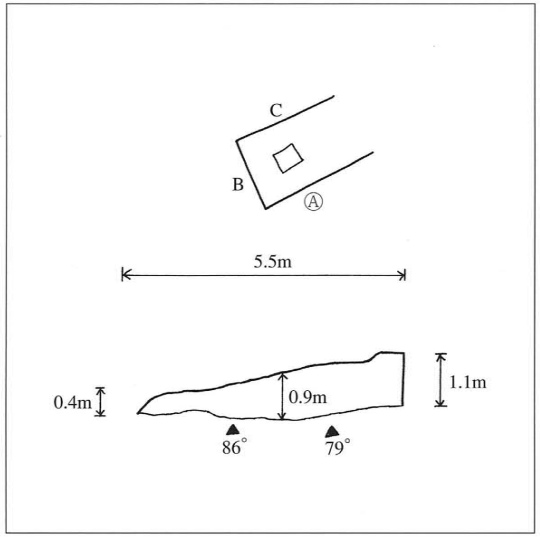
近景（北より）

平成15年5月26日地震による被害（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/06/02	中山

遺構番号
清水門井戸石垣A面　石垣4011A

地区名
登城路

地区番号
H6

延　長
5.5m

高　さ(深さ)
0.2～2.2m

幅

勾　配
79°～86°

石　材
自然石が大部分、割石まじり

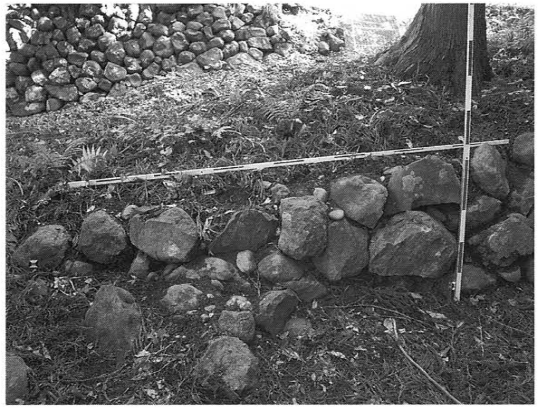
積み方
乱積み

数　量
44

現　状
・良好

特記事項

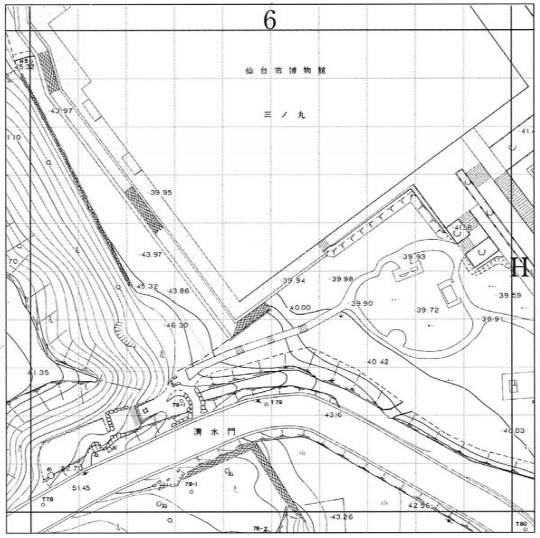
全景（北東より）



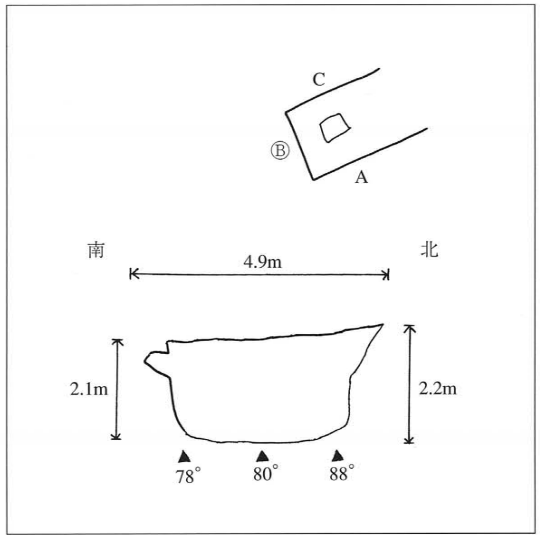
近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門井戸石垣B面　石垣4011B

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　長
4.9m

高　さ(深さ)
2.1～2.2m

幅

勾　配
78°～88°

石　材
自然石が大部分、割石まじり

積 み 方
乱積み

数　量
111

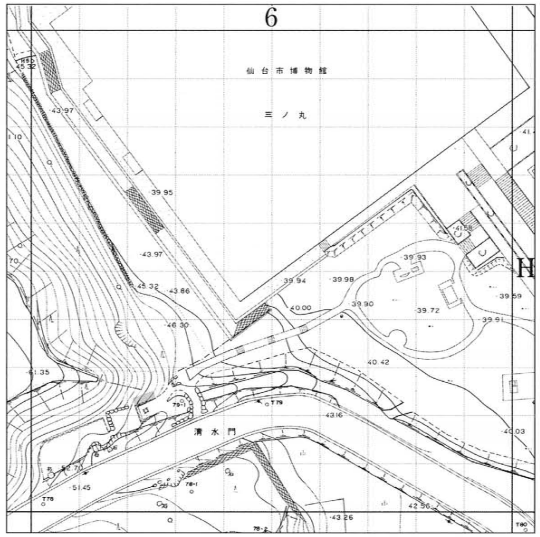
現　状
・良好

特記事項
・A、C面に比べて石材がやや小さい

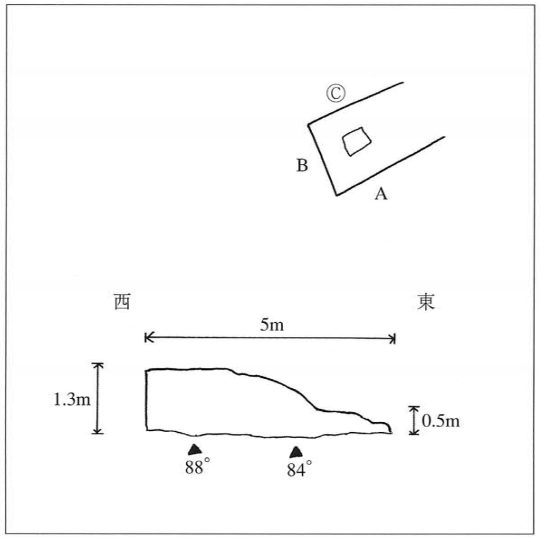
全景（東より）

全景（東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
清水門井戸石垣C面　石垣4011C

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　　長
5.0m

高　さ(深さ)
0.5～1.3m

幅

勾　　配
84～88°

石　　材
自然石が大部分、割石まじり

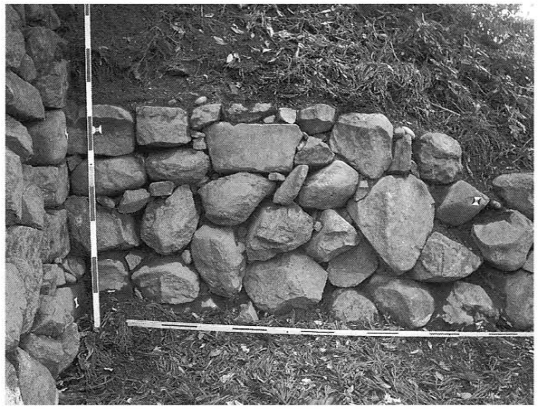
積 み 方
乱積み

数　　量
53

現　　状
・良好

特記事項

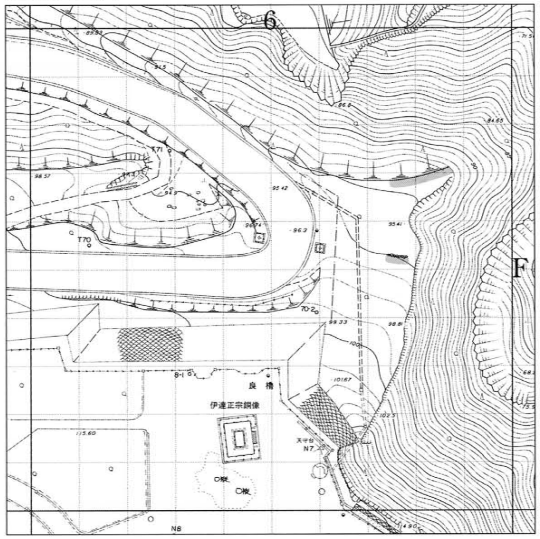
全景（南西より）



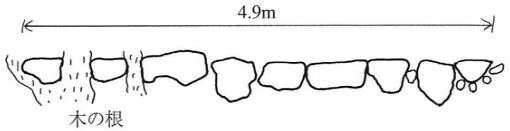
近景（南より）

近景（南より）

遺構位置図



略　図



平面

調査年月	調 査 者

遺構番号
時太鼓石垣　石垣4012

地 区 名
登城路

地区番号
F6

延　長
4.9m

高　さ(深さ)
最大25cm

幅

勾　配

石　材
割石

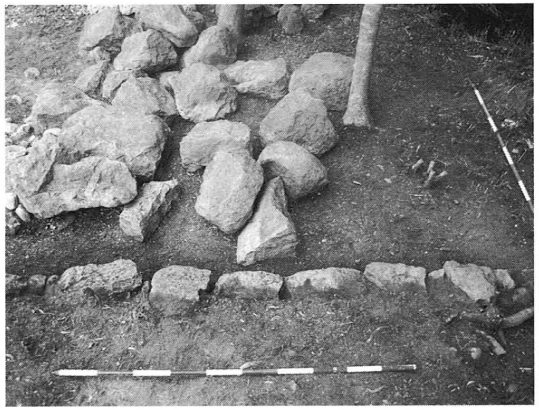
積 み 方

数　量
9

現　状

特記事項
・石間に小さな割石、玉石が少量ある
・一段、一列で検出されており,数段あるかどうかは不明
・西端は木根が石を抱いている
・平場北側の崖際には自然石が点在している

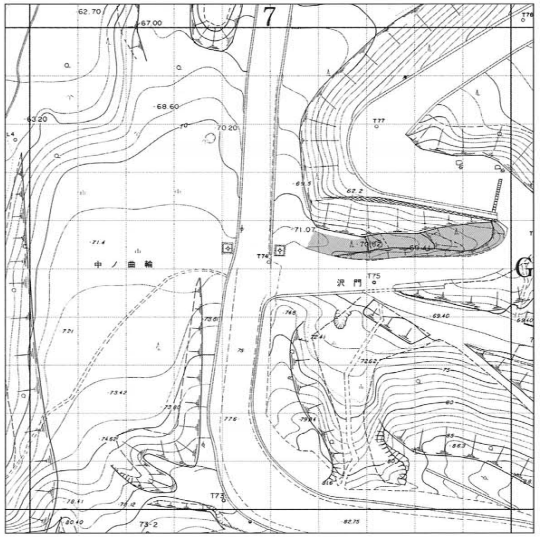
全景（北より）



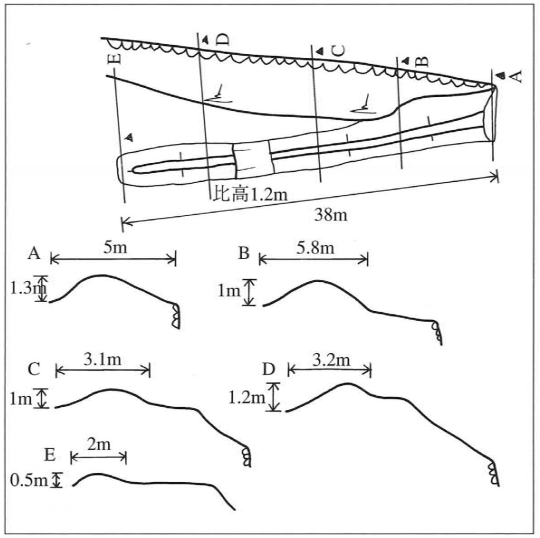
全景（南より）

北側崖際の石材（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/21	渡部・中山

遺構番号
沢門東側土塁　土塁4001

地 区 名
登城路

地区番号
G7

延　　長
38m（斜距離）

高　さ(深さ)
0.3～1.3m

幅
2.0～5.8m

勾　　配

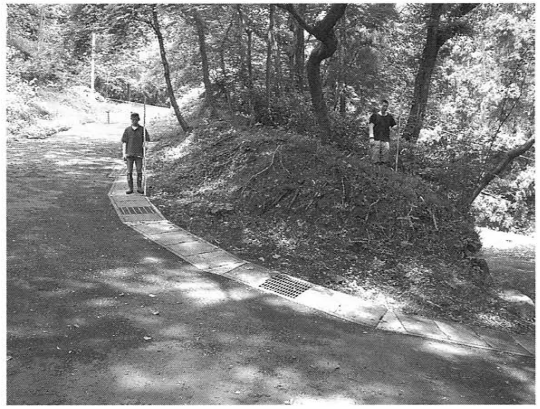
石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

特記事項
・西が高く東が低い
・沢門近くで段がある

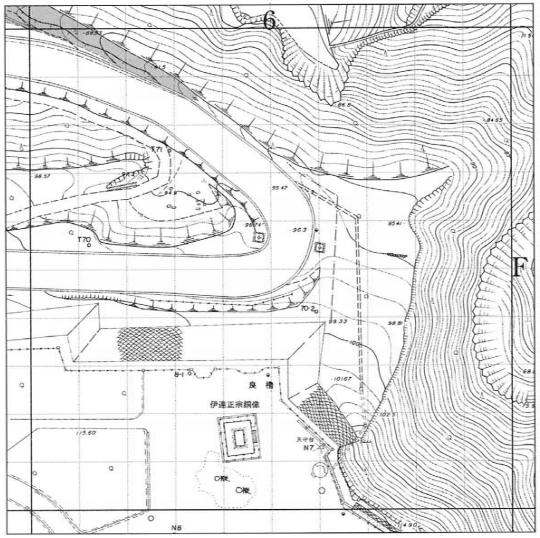


全景（東より）

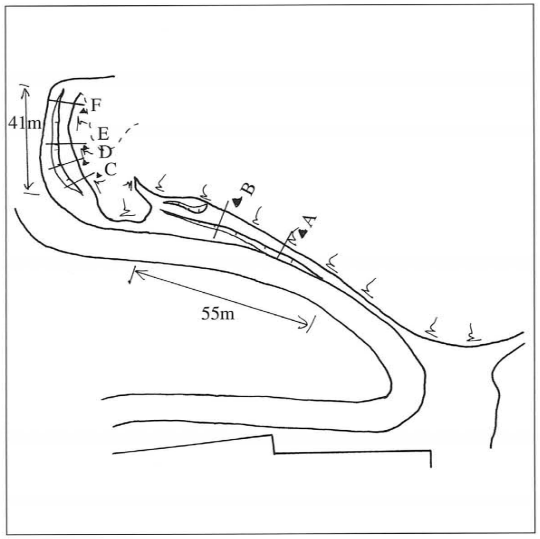
全景（東より）

全景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/10	中山

遺構番号
沢門南側土塁　土塁4002（1）

地 区 名
登城路

地区番号
F6、G6、G7

延　長
96m（崩れた部分も含む）

高　さ(深さ)
0.4～1.5m

幅
上端：0.8～3.9m　下端：2.5～10.9m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・途中、約15m崩れている

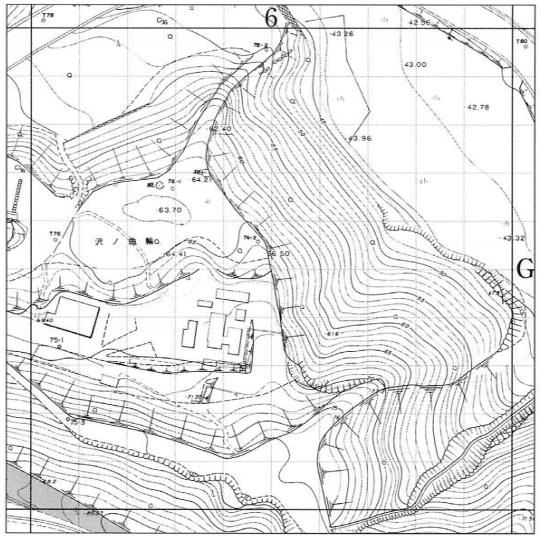
特記事項
・土塁の登城路反対側は、大部分が自然地形のガケ(急斜面)となっている

近景（北西より）

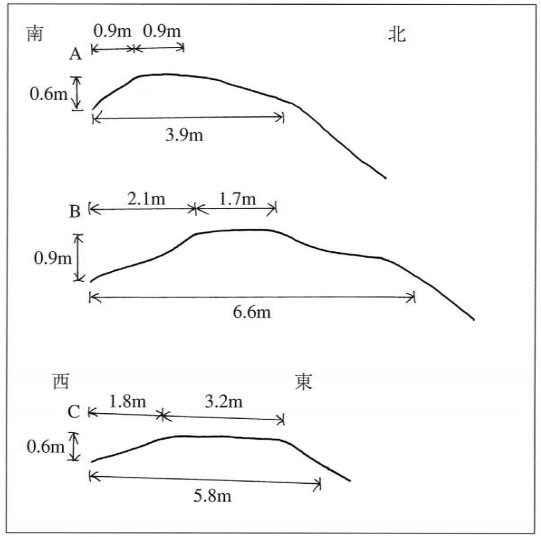
遠景（西より）

遠景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/06/10

調 査 者

中山

遺構番号

沢ノ門南側土塁　土塁4002（2）

地 区 名

登城路

地区番号

F6、G6、G7

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

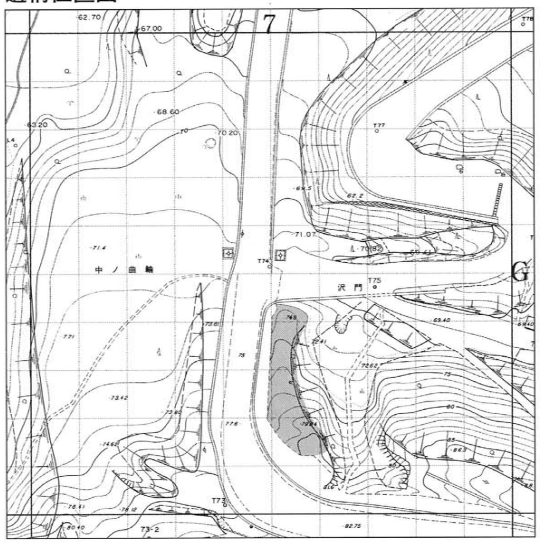
特記事項

近景（北西より）

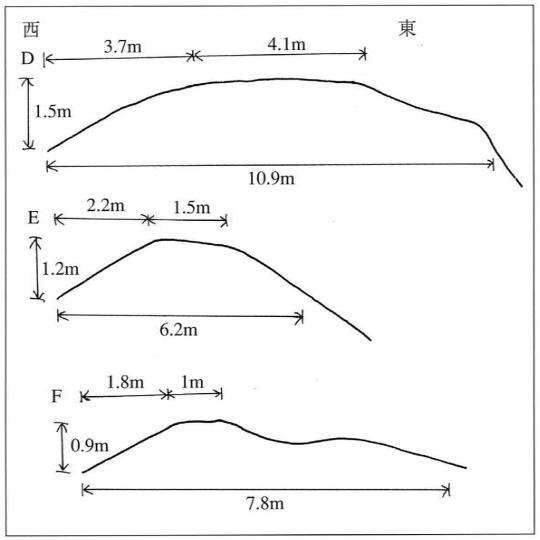
近景（北西より）

近景（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/10	中山

遺構番号
沢門南側土塁　土塁4002（3）

地 区 名
登城路

地区番号
F6、G6、G7

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

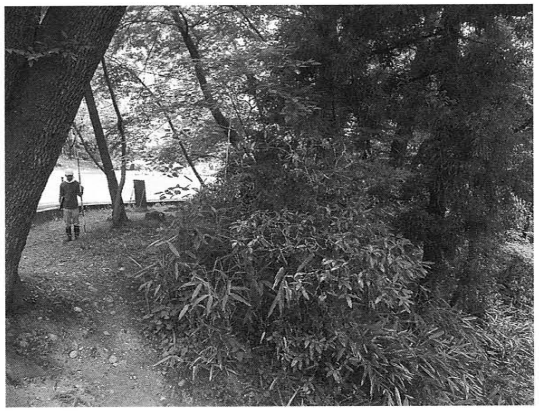
積 み 方

数　量

現　状

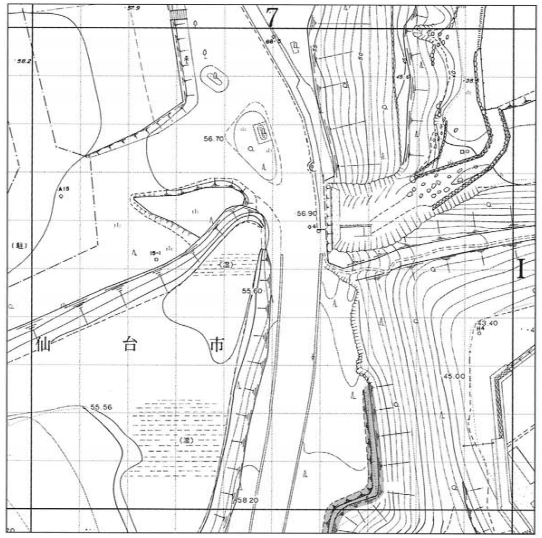
特記事項

近景（南より）

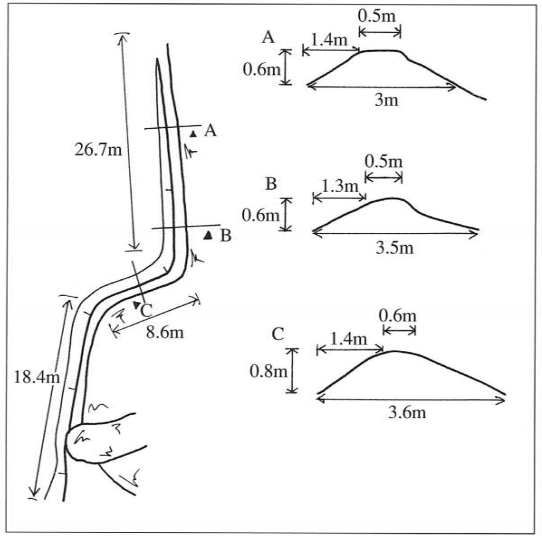


近景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/06/02

調 査 者

中山

遺構番号

中門北側土塁　土塁4003（1）

地 区 名

登城路

地区番号

H7、I7

延　長

53.7m

高　さ(深さ)

0.6～0.9m

幅

3.0～4.0m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

・南部で一部崩れている

特記事項

・東側は自然の傾斜地となる
・周辺に瓦が散乱している

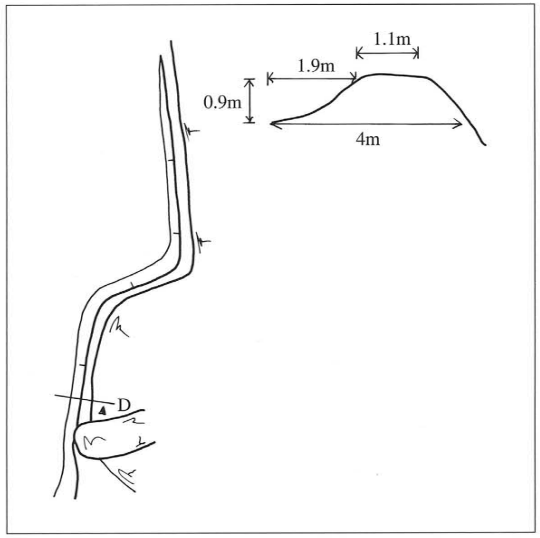
近景（北より）

近景（南より）

屈曲部（西より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/06/02	中山

遺構番号
中門北側土塁　土塁4003（2）

地 区 名
登城路

地区番号
H7、I7

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

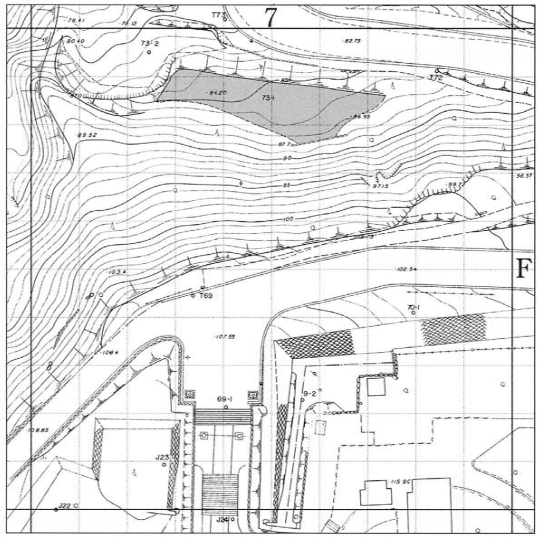
数　量

現　状

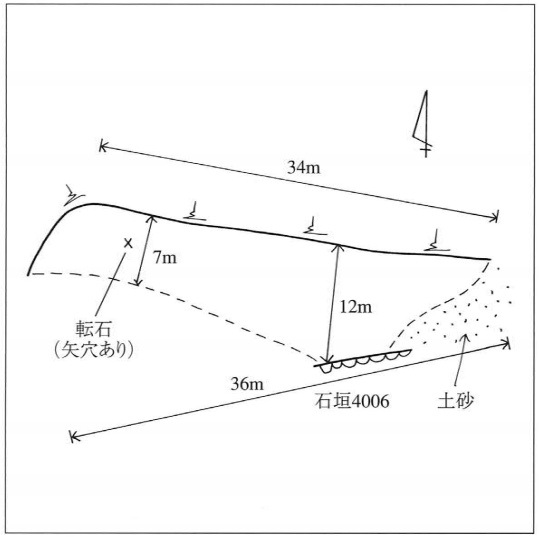
特記事項

近景（北より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/05/22	渡部・中山

遺構番号
下馬平場　平場4001

地 区 名
登城路

地区番号
F7

延　　長
36m

高　さ(深さ)

幅
12m

勾　　配

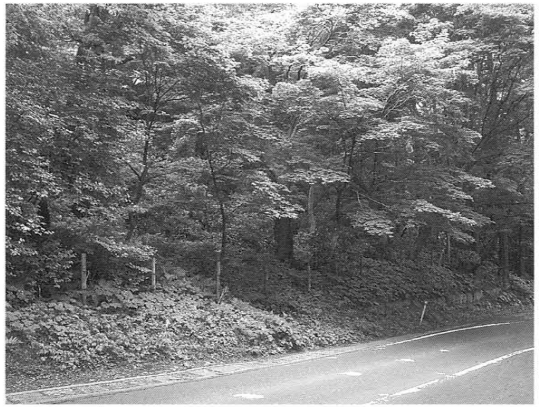
石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状
・東端に土砂流入

特記事項
・転石あり（矢穴）
・瓦が散乱している

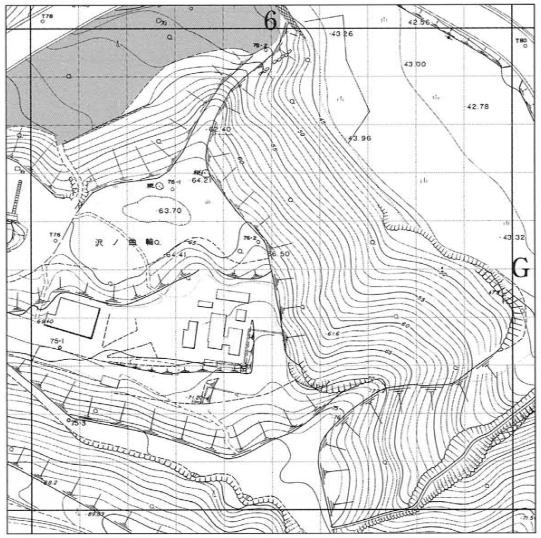


遠景（北西より）

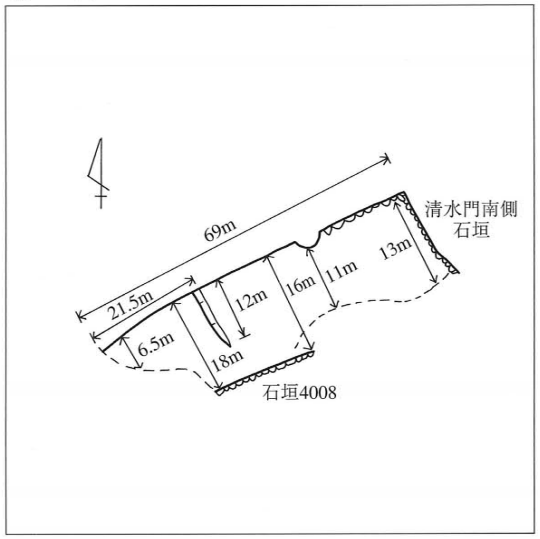
全景（南より）

散乱する石材

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/22	渡部

遺構番号
沢曲輪平場1　平場4002

地 区 名
登城路

地区番号
G6、G7、H6

延　長
69m

高　さ(深さ)

幅
6.5～18m

勾　配

石　材

積 み 方

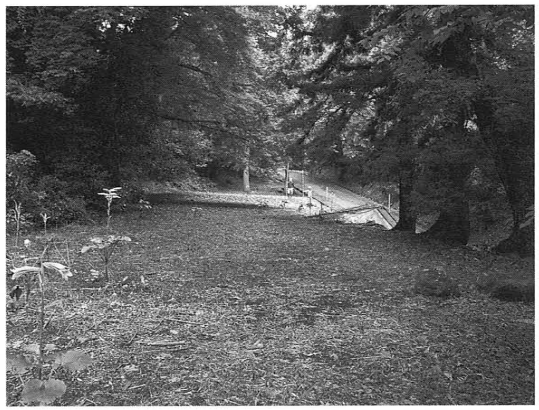
数　量

現　状

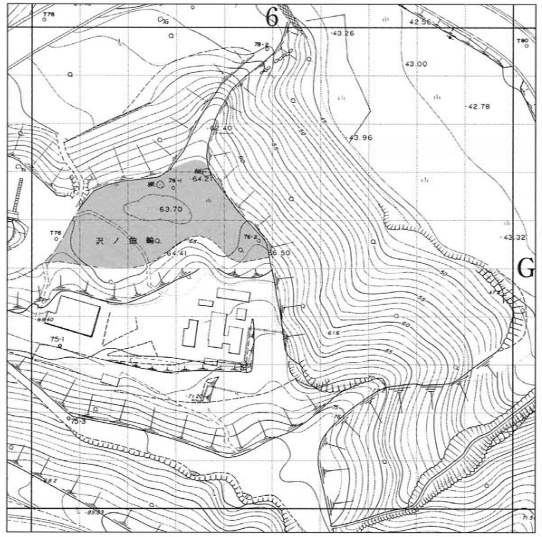
特記事項
・西側に高0.5mの段がある
・南の崖際からの湧水がある

全景（西より）

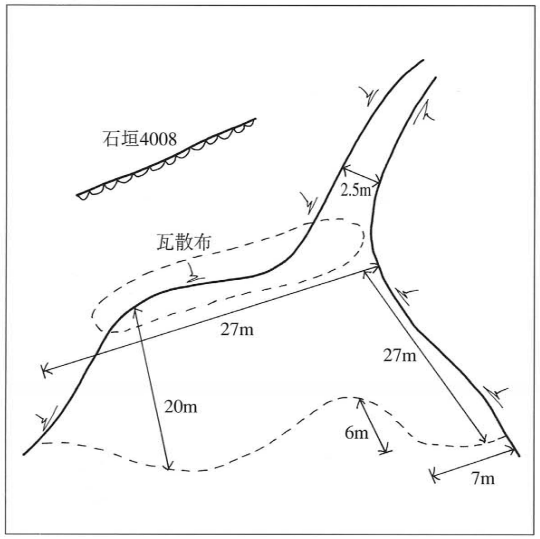
全景（西より）


全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/22

調 査 者

渡部

遺構番号

沢曲輪平場2　平場4003

地 区 名

登城路

地区番号

G6

延　長

27m

高　さ(深さ)

幅

20～27m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

特記事項

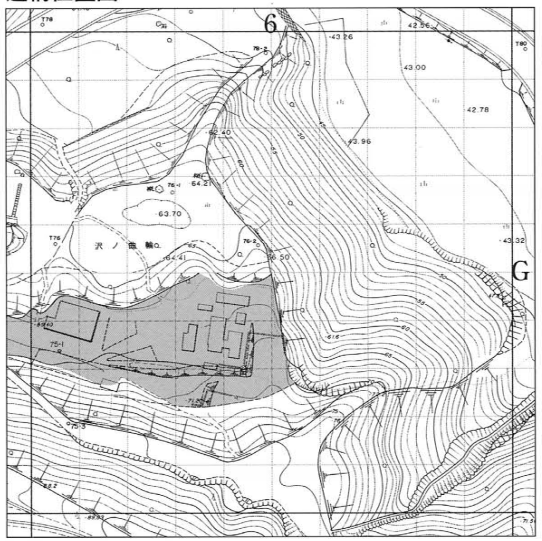
・北側縁辺部に瓦多い（大型の桟瓦）

遠景（西より）

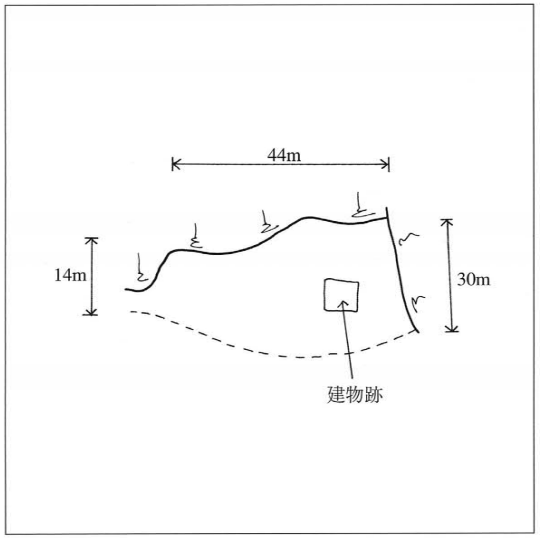
全景（西より）

近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/05/22	渡部

遺構番号
沢曲輪平場3　平場4004

地区名
登城路

地区番号
G6

延　長
44m

高　さ(深さ)

幅
14～30m

勾　配

石　材

積み方

数　量

現　状

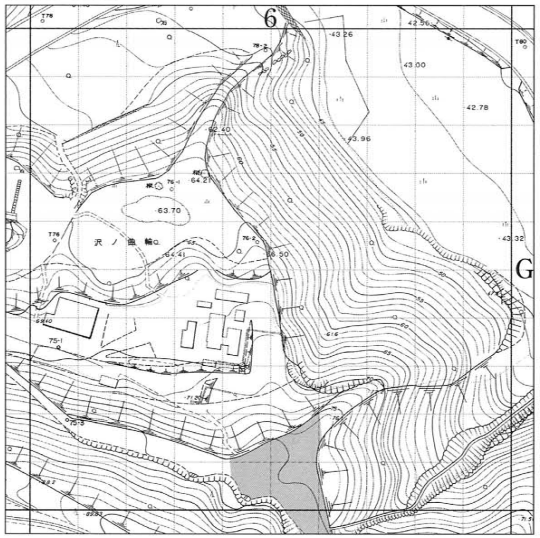
特記事項
・湧水あり
・建物基礎あり→亜炭鉱施設

遠景（西より）

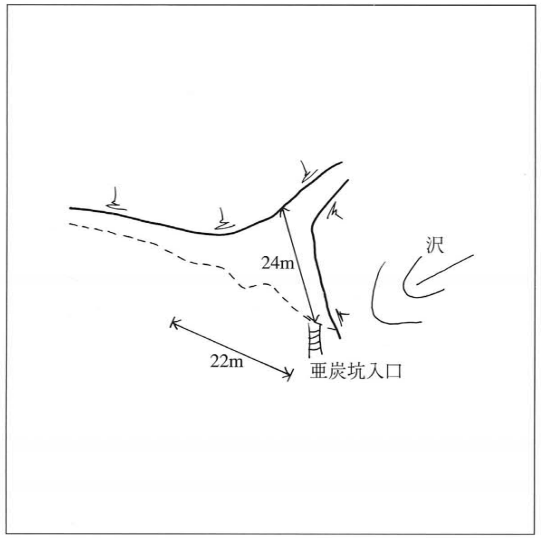
近景（東より）

近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/22

調 査 者

渡部

遺構番号

沢曲輪平場4　平場4005

地 区 名

登城路

地区番号

G6、F6

延　長

24m

高　さ(深さ)

幅

22m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

特記事項

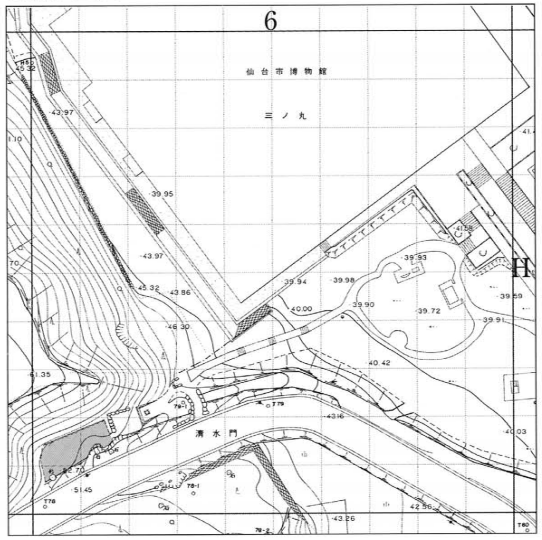
・亜炭坑道あり
・亜炭採掘のために新たにつくられた平場の可能性が高い

全景（東より）

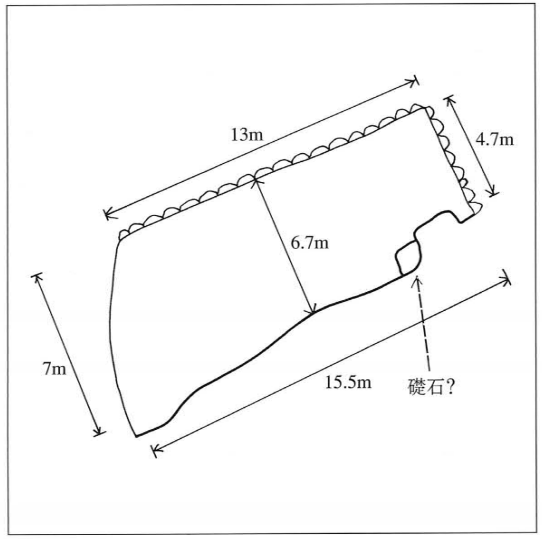
全景（西より）

亜炭坑道（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/02	中山

遺構番号
清水門北側　平場4006

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　長
15.5m

高　さ(深さ)

幅
4.7～7.0m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

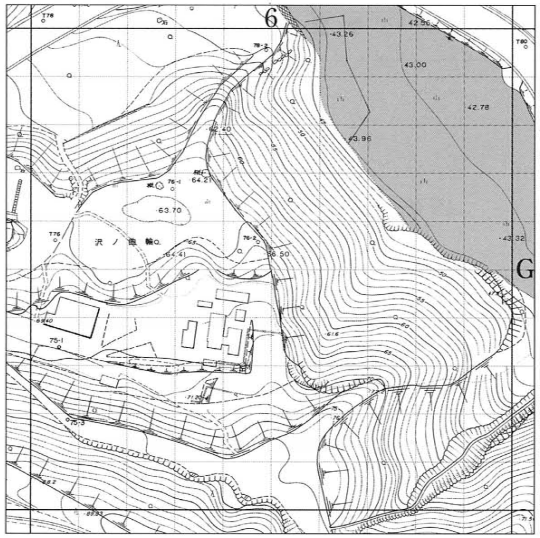
特記事項
・礎石の可能性の考えられる大形石材がある

全景（東より）

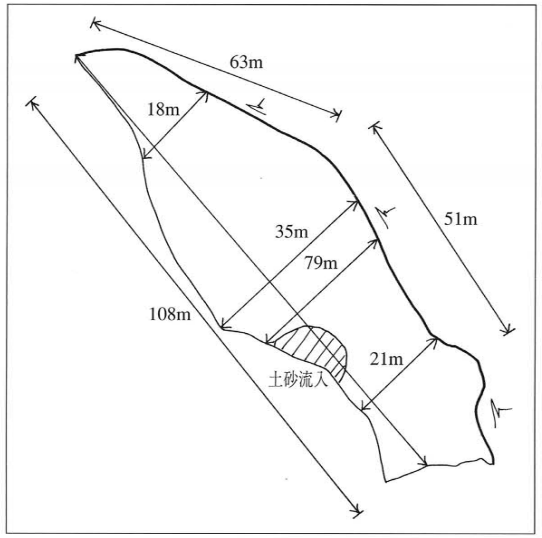
全景（西より）

大形石材（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/11	中山

遺構番号
造酒屋敷平場　平場4007

地 区 名
登城路

地区番号
G5、G6、H6

延　長
108m

高　さ(深さ)

幅
21～35m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・山側で湧水あり

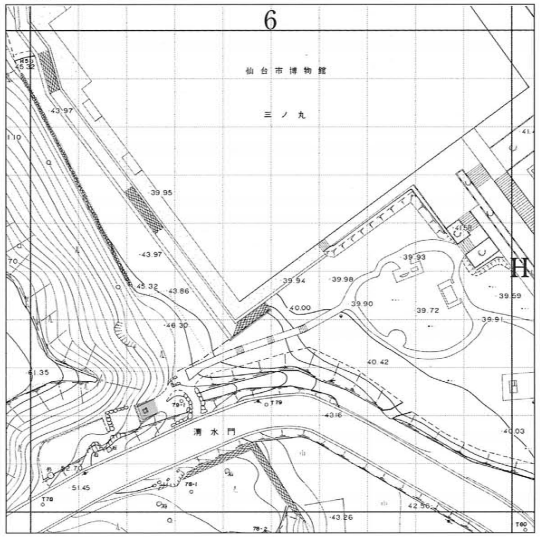
特記事項
・湿った土地であり、平場脇の排水口には絶えず水が流れ出ている
・山側の地域は地盤が悪いようで、土砂崩れがある。さらに注意する必要がある

全景（北西より）

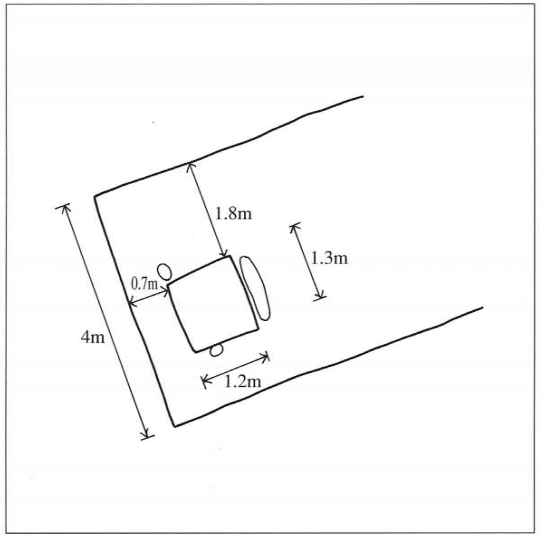
全景（南東より）

遠景（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/02	中山

遺構番号
井戸4001

地 区 名
登城路

地区番号
H6

延　長
1.3m

高　さ(深さ)
0.6m

幅
1.2m

勾　配

石　材
自然石、一部割石あり

積 み 方

数　量
11　東辺：9石　南辺：1石　北辺：1石

現　状
・良好

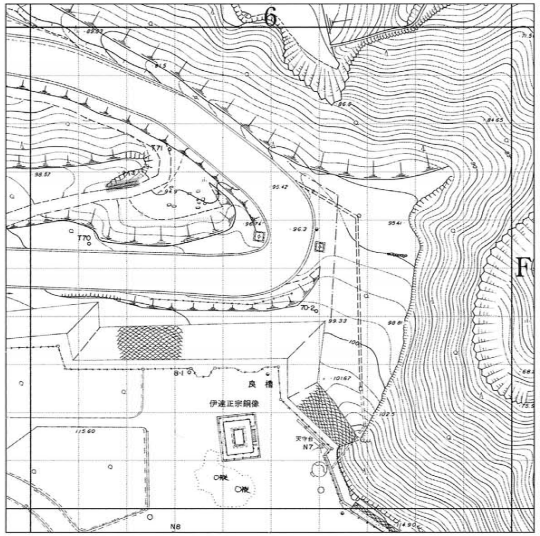
特記事項
・石垣4011に囲まれており、中央部から南西に寄ったところにある
・現在は埋まった状態にある(若干残存)
・水は少しある

全景（東より）

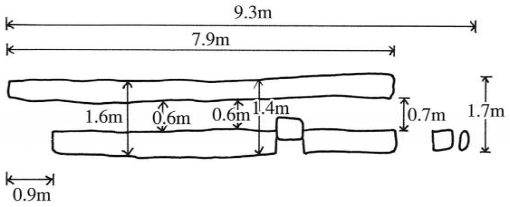
全景（東より）

全景（東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/06/11	中山

遺構番号
見付塀脇石組側溝　石組4001

地 区 名
登城路

地区番号
F6

延　　長
9.3m

高　さ(深さ)
0.15～0.6m

幅
上端:：1.4～1.7m　下端：0.6～0.7m

勾　　配

石　　材
切石

積 み 方

数　　量
39　北側列：大12、小3　南側列：大13、小11

現　　状
・枯葉等によりかなり埋まっている
・溝の中を、木柵が通っている

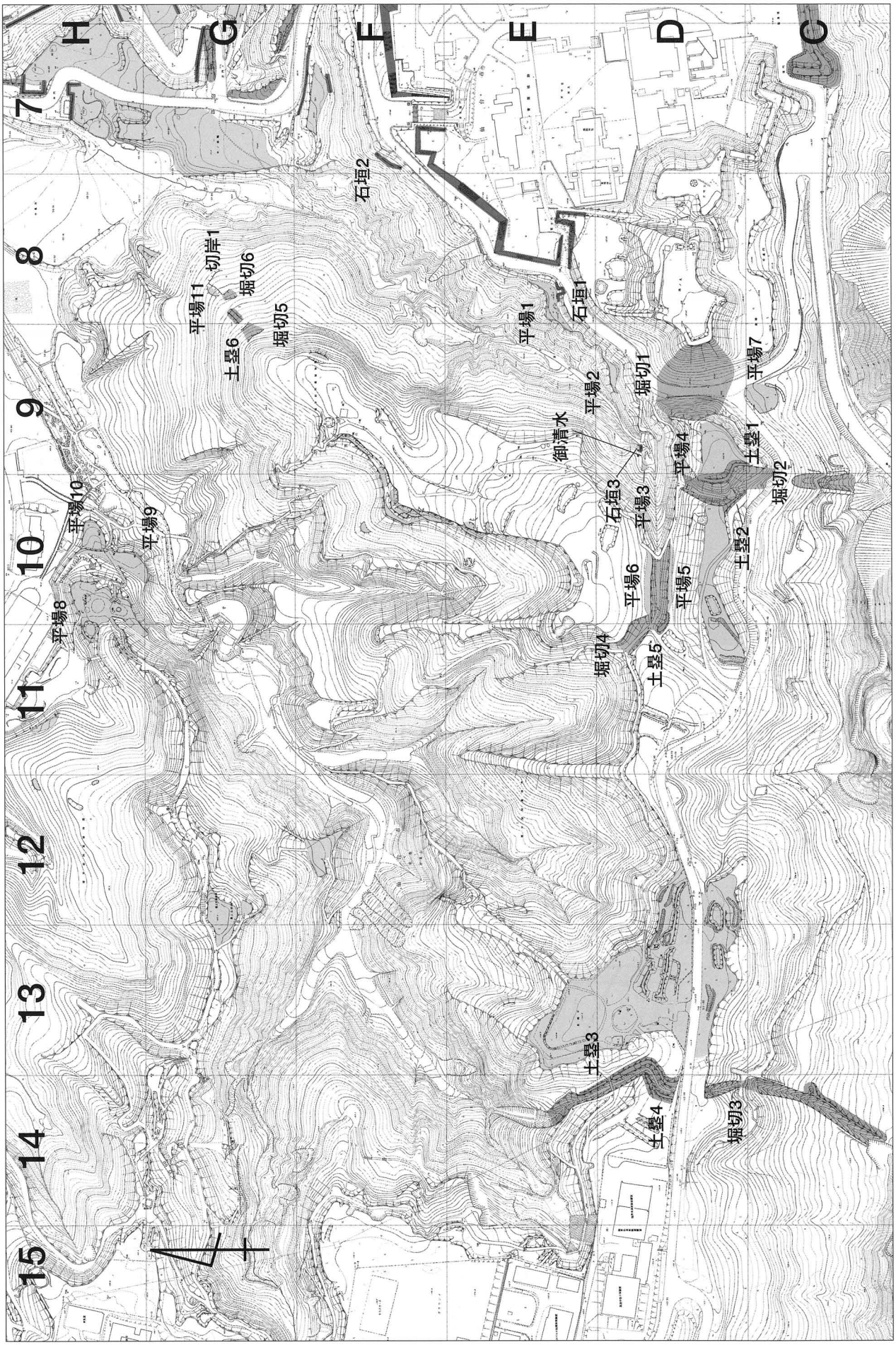
特記事項
・西から5m程の石材が、内側に崩れている

全景（西より）

全景（南東より）

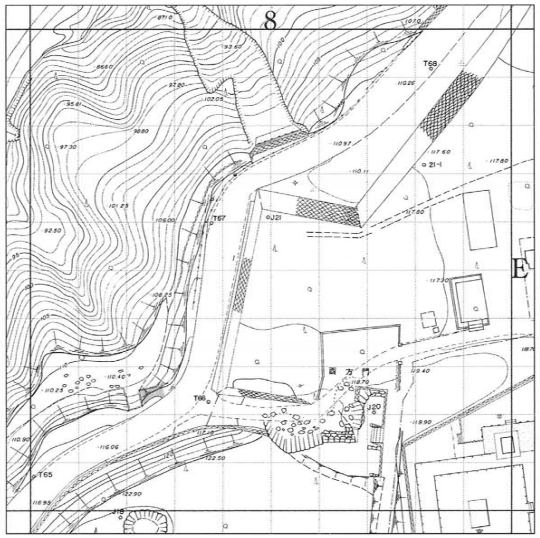
近景（東より）

5　御裏林地区

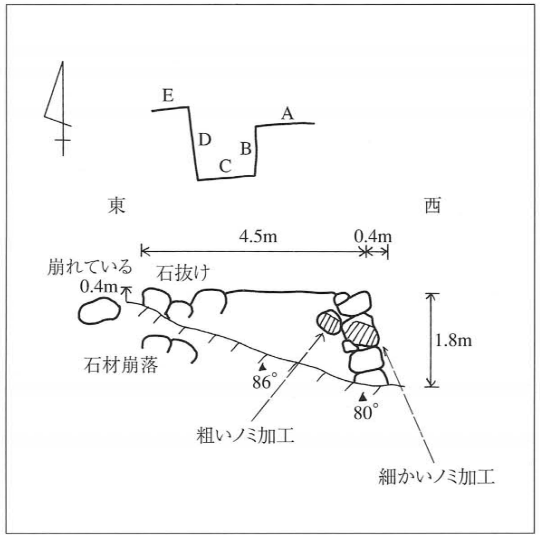


第７図　御裏林地区の全体図

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/05/20	渡部

遺構番号
貯水漕石垣A面　石垣1A

地 区 名
御裏林

地区番号
E8

延　　長
4.9m

高　さ(深さ)
4.9m

幅
0.4～1.8m

勾　　配
80°、86°

石　　材
自然石、表面加工あり

積 み 方
乱積み

数　　量
29

現　　状
・東端崩れている

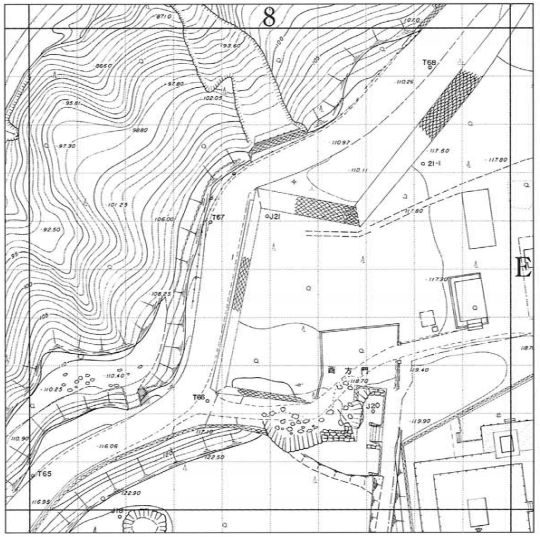
特記事項
・表面に粗いノミ加工と細かいノミ加工あり
・AB角出角
・東端地山スリ付け
・裏込め玉石

全景（北西より）

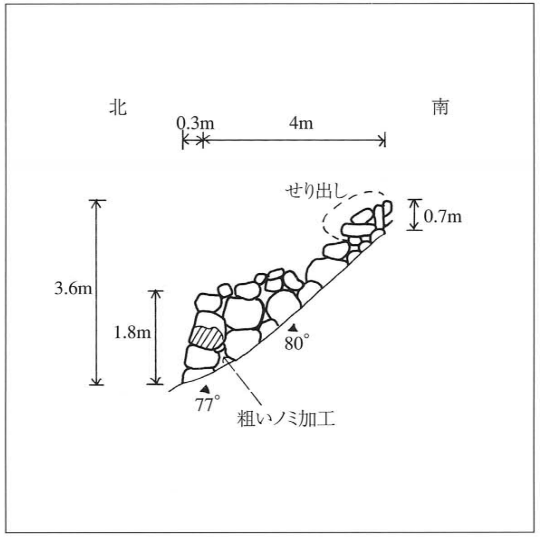
近景（北より）

AB角部（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/05/20	渡部

遺構番号
貯水槽石垣B面　石垣1B

地区名
御裏林

地区番号
E8

延　長
4m

高　さ(深さ)
0.7～1.8m（比高3.6m）

幅

勾　配
77°、80°

石　材
自然石、一部に表面加工

積み方
乱積み

数　量
27

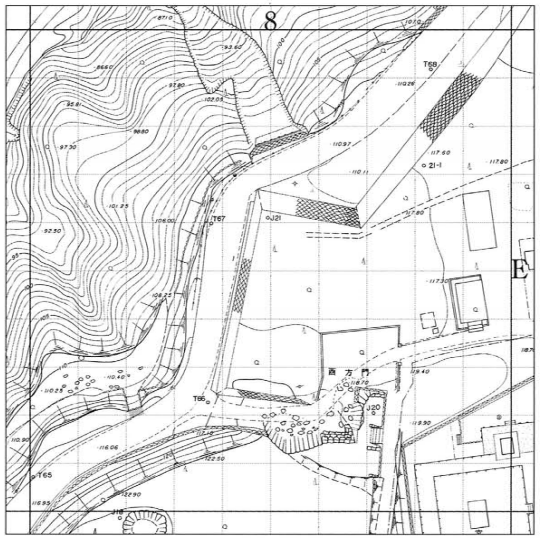
現　状
・南端の上端がせり出している

特記事項
・表面に粗いノミ加工
・AB角出角
・BC角、入角
・裏込め玉石

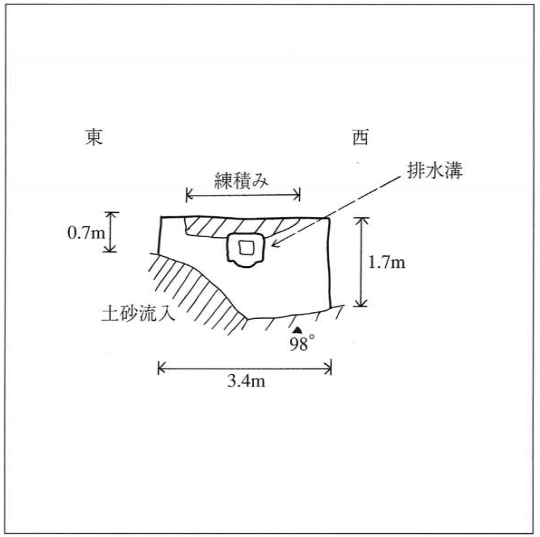
近景（西より）

近景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/20	渡部

遺構番号
貯水漕石垣C面　石垣1C

地 区 名
御裏林

地区番号
E8

延　長
3.4m

高　さ(深さ)
0.7～1.7m

幅

勾　配
98°（せり出している）

石　材
自然石

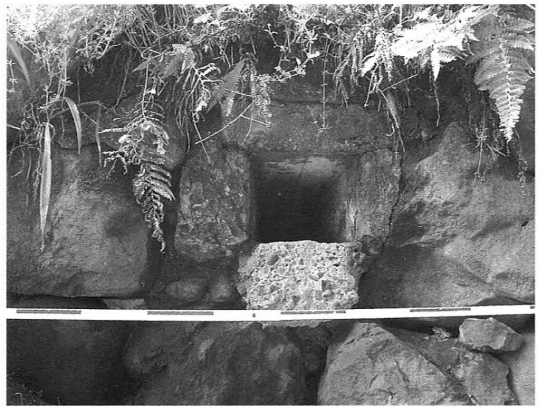
積 み 方
乱積み

数　量
21

現　状
・手前にせり出している
・中央上端に排水管があり、積み直されている

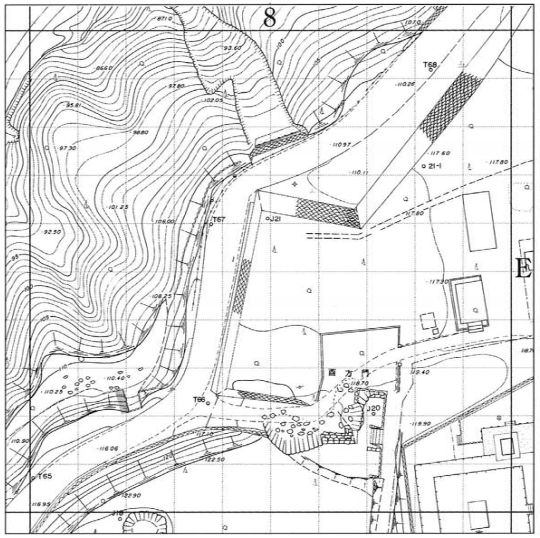
特記事項
・BC角、入角
・CD角入角
・BC角部に土砂流入、かなり埋まっている
・中央の排水管は、コンクリ製、上部に別な石で練積みの積み直し

全景（北より）

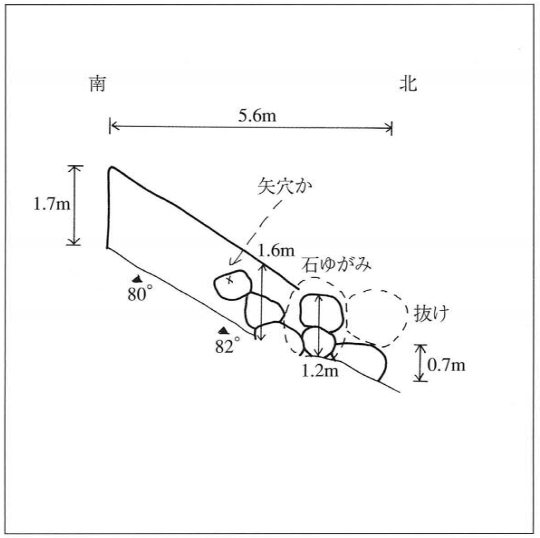


排水溝（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/20	渡部

遺構番号
貯水漕石垣D面　石垣1D

地 区 名
御裏林

地区番号
E8

延　長
5.6m

高　さ(深さ)
0.7～1.7m

幅

勾　配
80°、82°

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
28

現　状
・北端くずれている

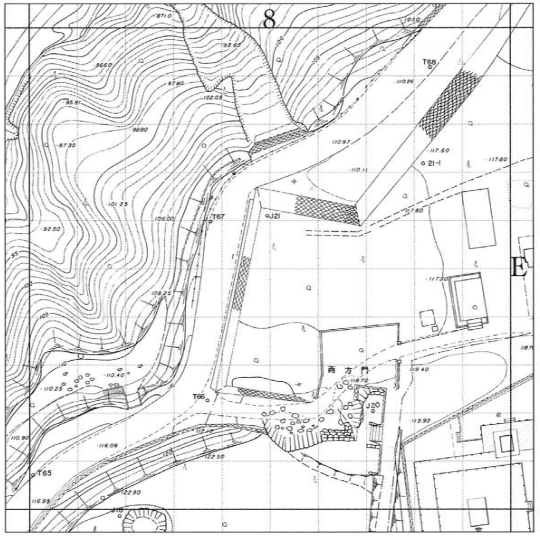
特記事項
・矢穴らしい穴あり（幅7㎝、深3㎝）
・CD角入角
・DE角出角
・裏込め玉石

近景（東より）

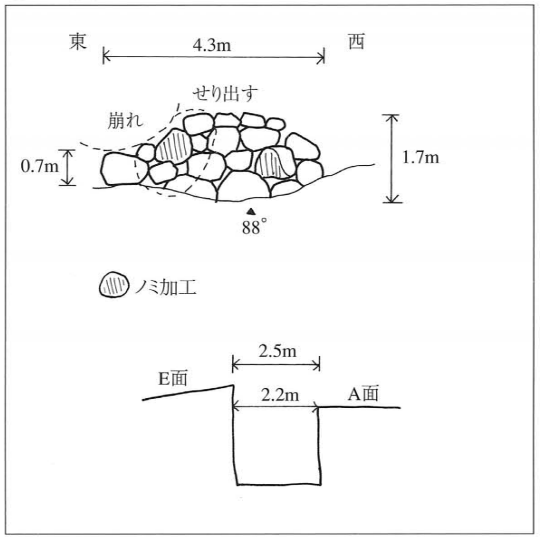
近景（東より）

矢穴？（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/20	渡部

遺構番号
貯水漕石垣E面　石垣1E

地 区 名
御裏林

地区番号
E8

延　長
4.3m

高　さ(深さ)
1.7m

幅

勾　配
88°

石　材
自然石、一部に表面加工

積 み 方
乱積み

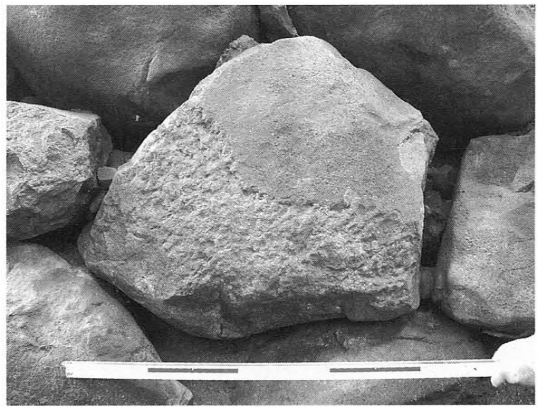
数　量
21

現　状
・東端崩れており、せり出している

特記事項
・表面に細かいノミ加工ある石材2石
・DE角、出角
・西端地山すり付け
・裏込め玉石

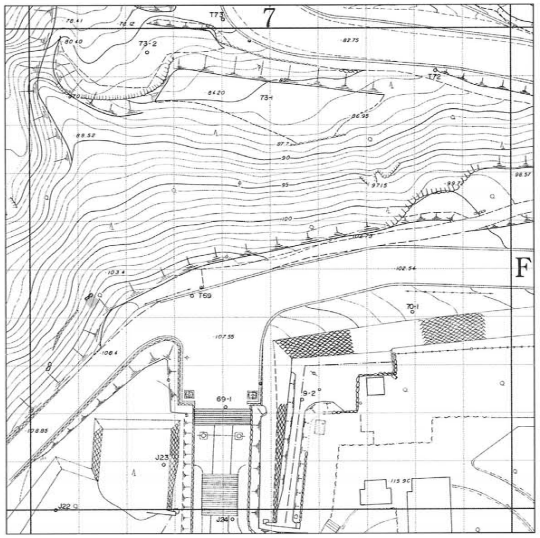
近景（北より）

近景（北東より）

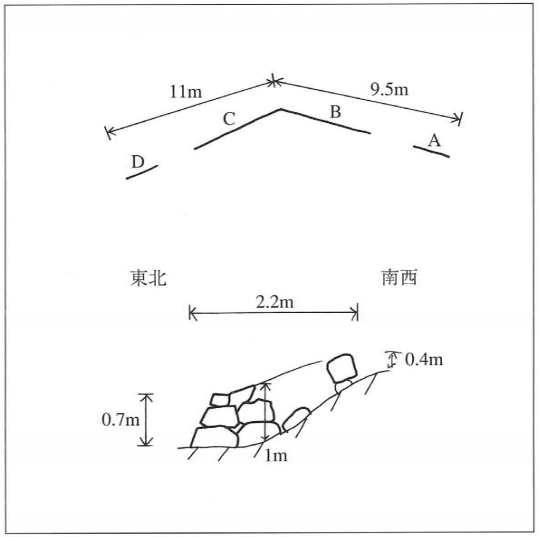


石材表面のノミ加工（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/21	渡部・中山

遺構番号
本丸北西壁下石垣A面　石垣2A

地 区 名
御裏林

地区番号
F7

延　長
2.2m

高　さ(深さ)
0.4～1m

幅

勾　配

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
15　2～3段

現　状
・根がからむ
・石が抜けている
・前面せり出し

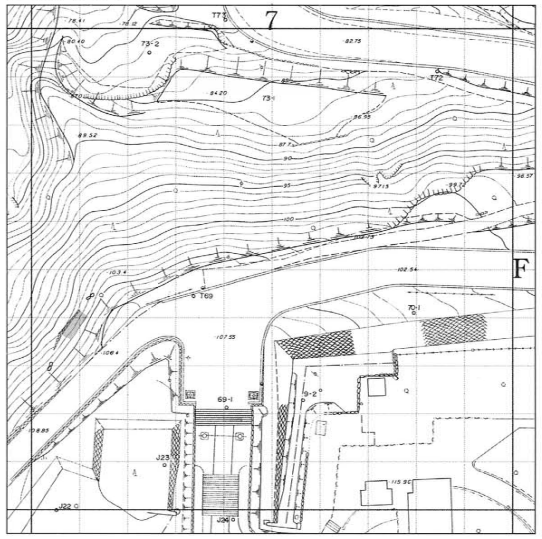
特記事項
・裏込め玉石

全景（北西より）

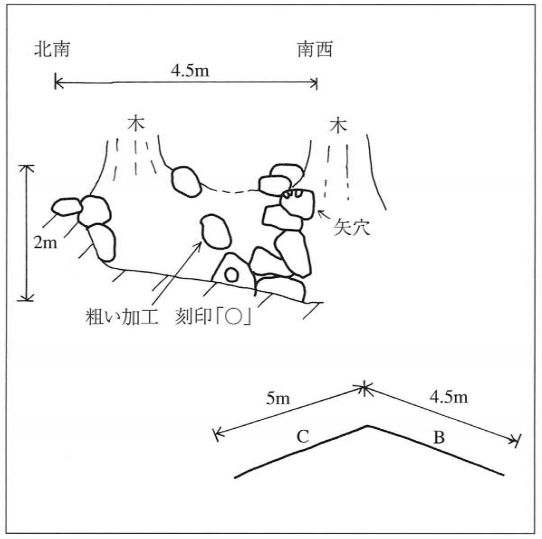
近景（北西より）

遠景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/21	渡部・中山

遺構番号
本丸北西壁下石垣B面　石垣2B

地 区 名
御裏林

地区番号
F7

延　長
4.5m

高　さ(深さ)
2m

幅

勾　配

石　材
自然石　主体、割石混じる

積 み 方
乱積み

数　量
36　3～4段

現　状
・根がからむ
・前面へせり出している

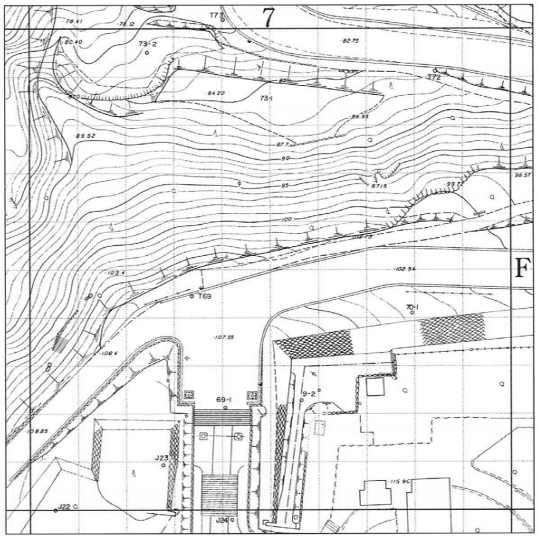
特記事項
・矢穴ある割石
　矢穴①－間口7・末口3.5・深7.5
　矢穴②－7・4・7.5
　矢穴③7.5・×・×
・粗い表面加工1石
・刻印「○」径15㎝
・AB角鈍角の出角
・裏込め玉石

近景（北より）

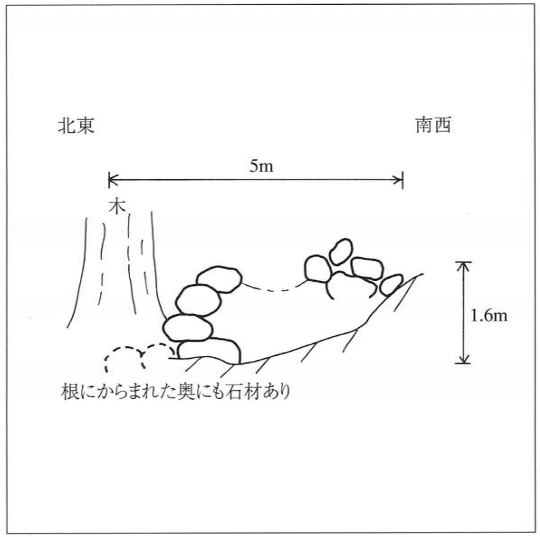
近景（北西より）

刻印

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/21	渡部・中山

遺構番号
本丸北西壁下石垣C面　石垣2C

地 区 名
御裏林

地区番号
F7

延　長
5m

高　さ(深さ)
1.6m

幅

勾　配

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

数　量
23　3～4段

現　状
・根がからんでいる
・石が抜けている、せり出している

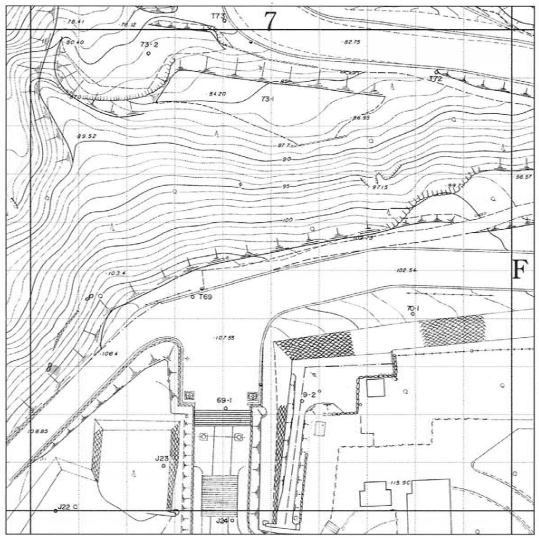
特記事項
・裏込め玉石
・AB角鈍角出角

全景（北西より）

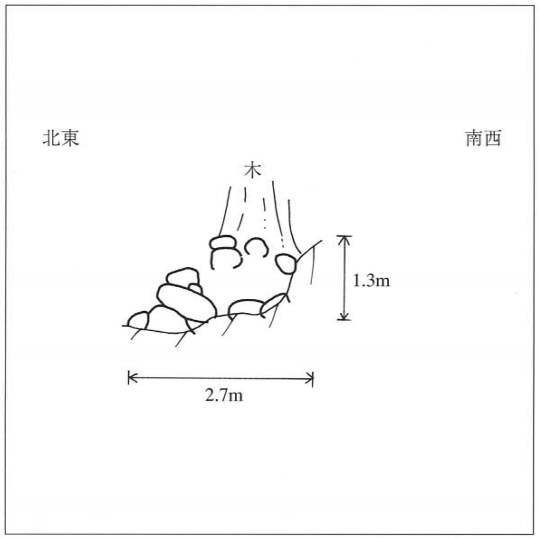
近景（北西より）

遠景（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/21

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

本丸北西壁下石垣D面　石垣2D

地 区 名

御裏林

地区番号

F7

延　長

2.7m

高　さ(深さ)

1.3m

幅

勾　配

石　材

自然石

積 み 方

乱積み

数　量

19　2～3段

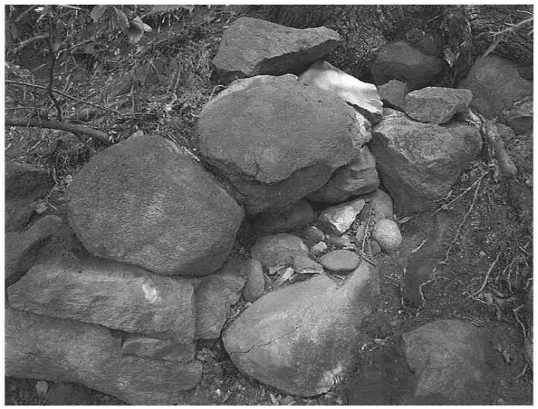
現　状

・根がからんでいる
・石が抜けている、前面にせり出している

特記事項

・裏込め玉石

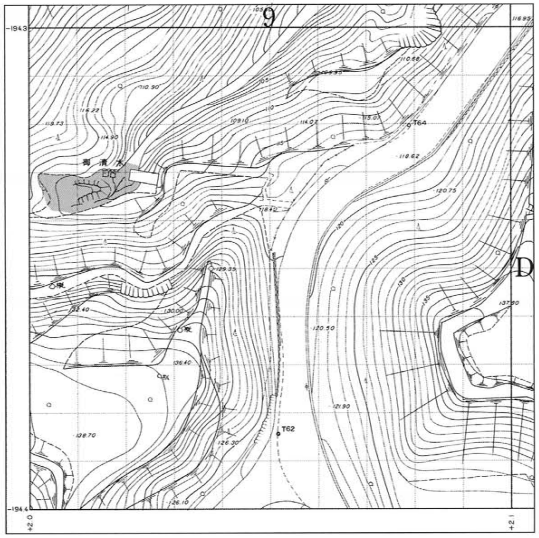
全景（北西より）



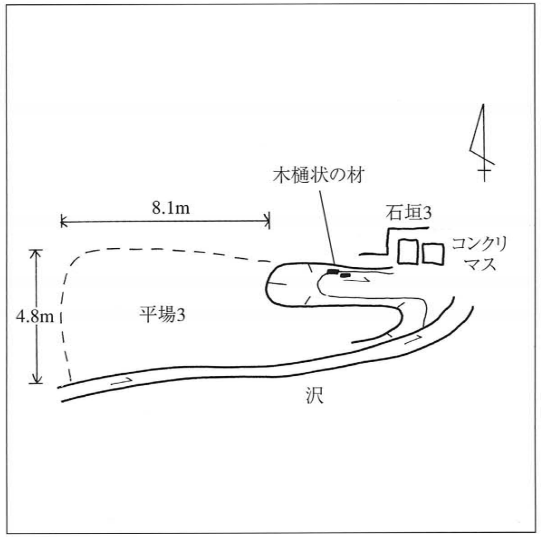
近景（北西より）

側面（北東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/05/23	渡部・中山

遺構番号
御清水

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状
・コンクリ施設あり
・湧水あり

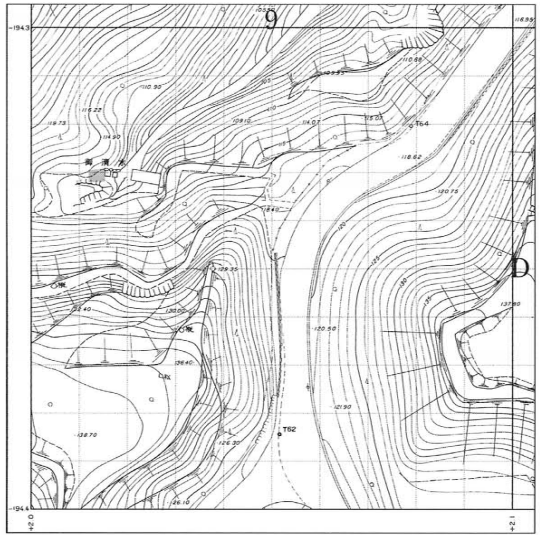
特記事項
・図の部分に木材あり

全景（東より）

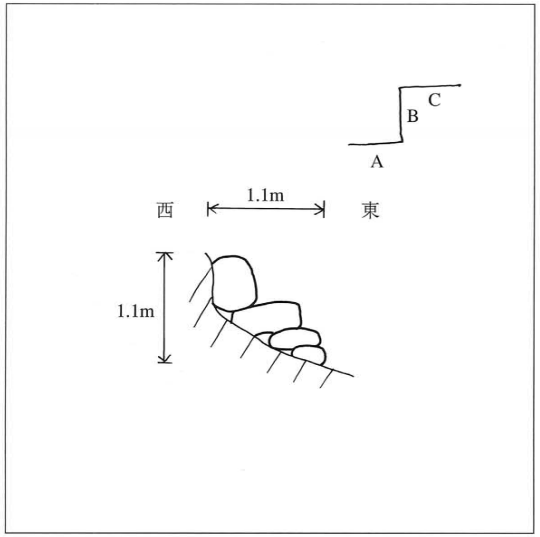
近景（東より）

木材の状況（南より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

03/05/23

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

御清水石垣A面　石垣3A

地 区 名

御裏林

地区番号

D9

延　　長

1.1m

高　さ(深さ)

1.1m

幅

勾　　配

石　　材

自然石

積 み 方

乱積み

数　　量

4　4段

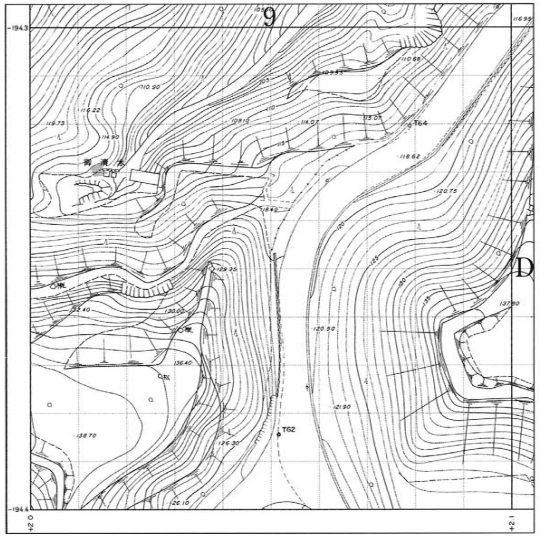
現　　状

特記事項

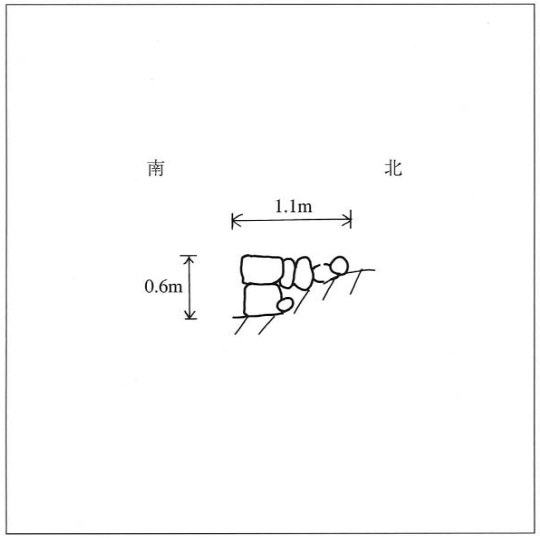
全景（南東より）

近景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/23	渡部・中山

遺構番号
御清水石垣B面　石垣3B

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　長
1.1m

高　さ(深さ)
0.6m

幅

勾　配

石　材
自然石

積 み 方
乱積み

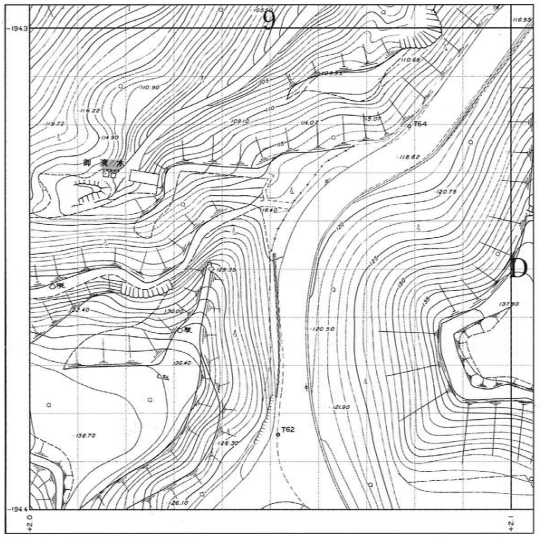
数　量
7　2段

現　状

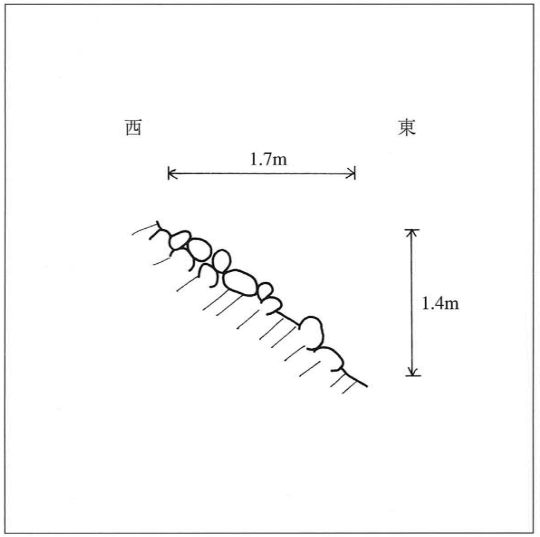
特記事項

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/23

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

御清水石垣C面　石垣3C

地 区 名

御裏林

地区番号

D9

延　長

1.7m

高　さ(深さ)

1.4m

幅

勾　配

石　材

自然石

積 み 方

乱積み

数　量

10　2段

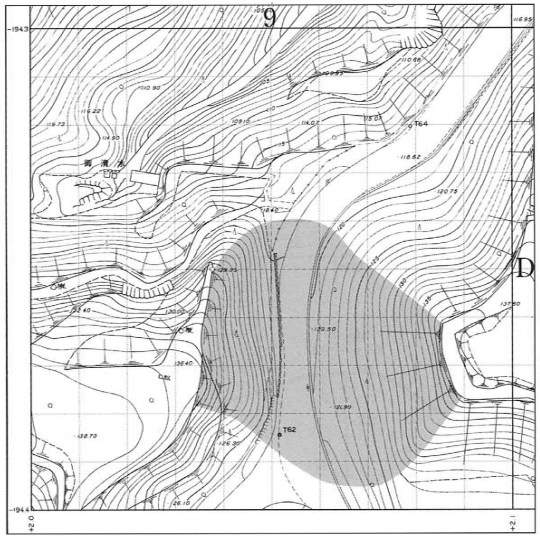
現　状

特記事項

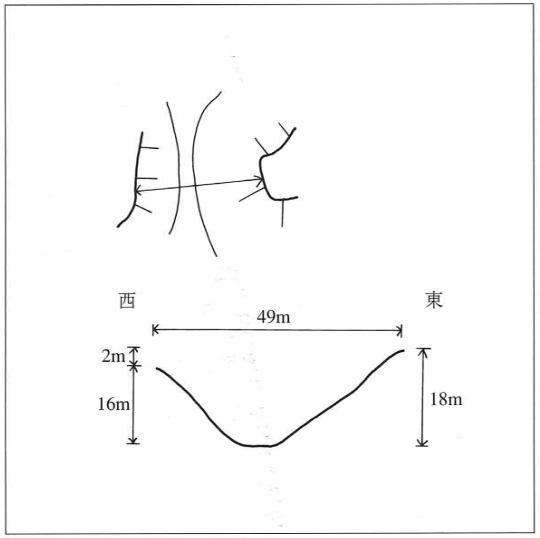
・A、B面に比べ、小さく丸い石を使用している

全景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
切通堀切　堀切1

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　長
約55m

高　さ(深さ)
西側：16m　東側：18m

幅
上端：49m　下端：6m

勾　配

石　材

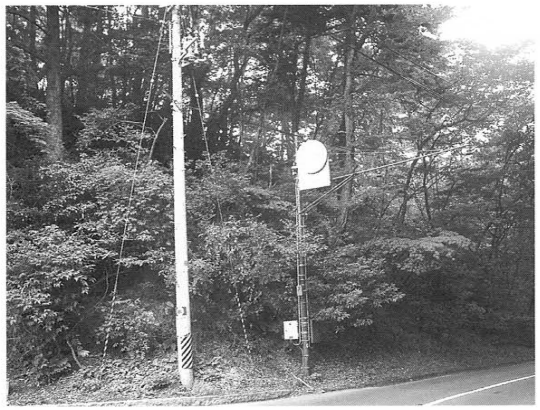
積 み 方

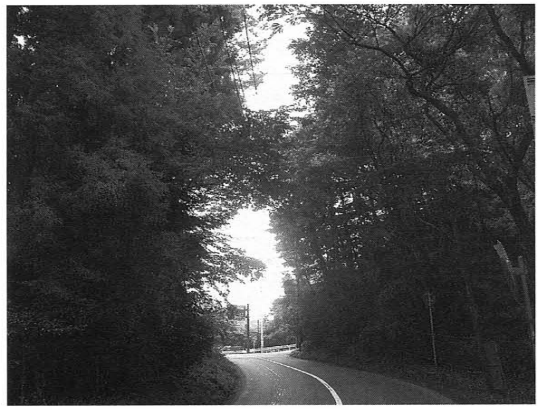
数　量

現　状
・下端部分は市道として利用されている

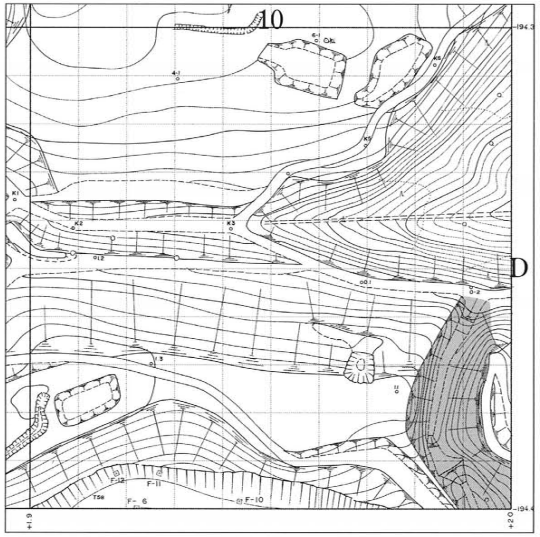
特記事項
特記事項
・堀切の東側には、入ることが出来ないため、レーザー測量及び、地図上の測量とした
・道路として利用されているところ以外の状態は良好と考えられる

全景（南より）

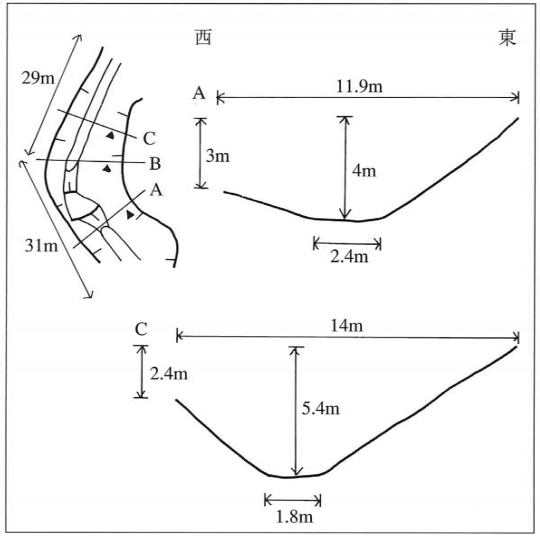

西斜面（東より）


全景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
堀切2　北半（1）

地 区 名
御裏林

地区番号
D10

延　長
61m

高　さ(深さ)
4.0～6.1m

幅
上端：11.9～17.1m　下端：1.8～2.4m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・南端は道路の造成時に消失しているものと思われるが、その他は良好。
・雑木林、笹藪となっており、視界は良くない。

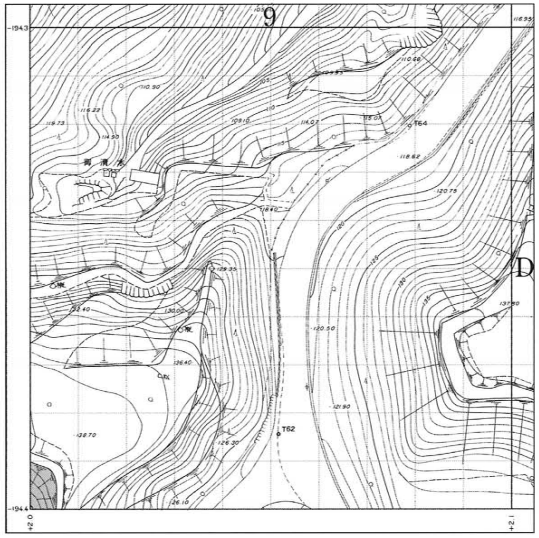
特記事項
・西側よりも東側が高い
・山の尾根部分を切っている
・中央部分に土橋状高まりがある

全景（北東より）

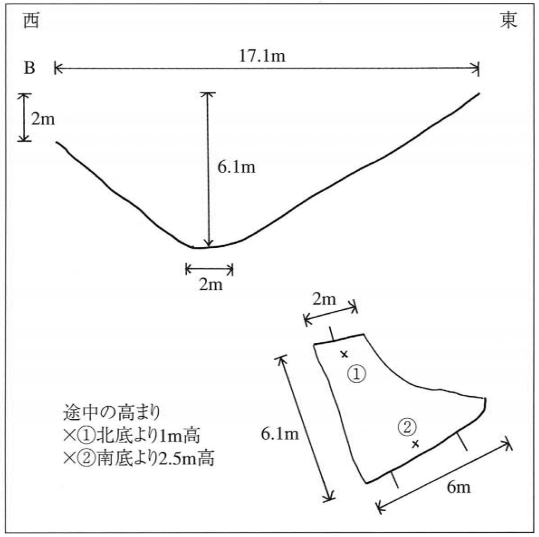
近景（北より）

全景（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
堀切2　北半（2）

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

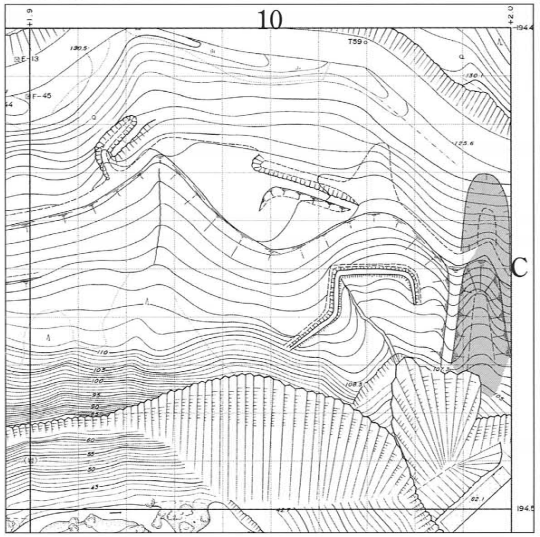
特記事項

土橋状高まり（北西より）

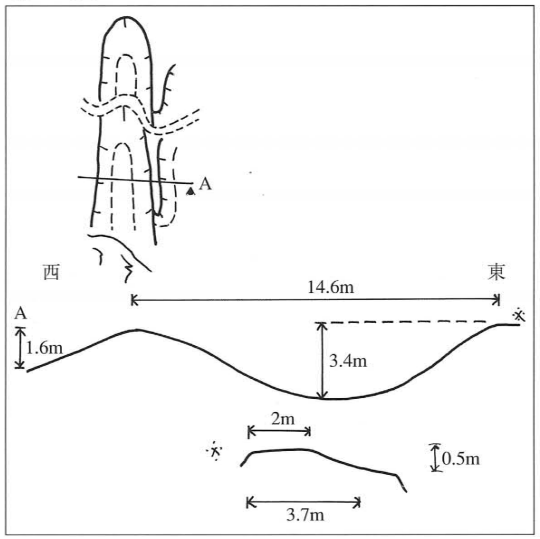
土橋状高まり（北西より）

土橋状高まり（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/06/06

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

堀切2　南半（1）

地 区 名

御裏林

地区番号

C10

延　長

40m

高　さ(深さ)

1.3～3.4m

幅

10.5m

勾　配

石　材

積 み 方

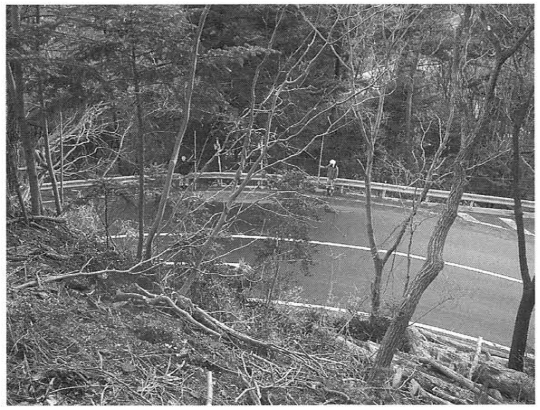
数　量

現　状

・中間部が埋められ道となっている。
・ゴミが散乱している

特記事項

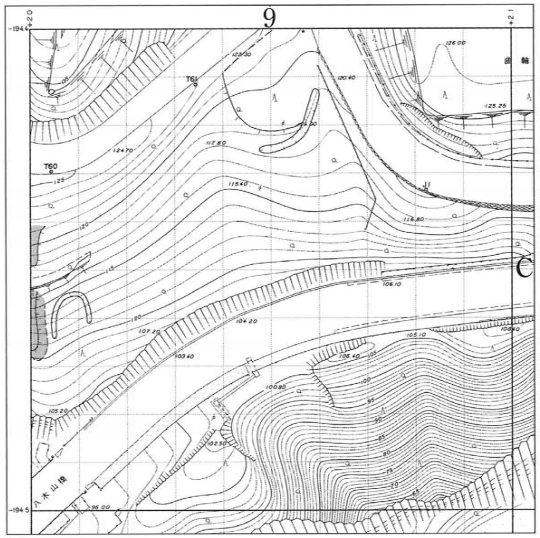
特記事項
・東岸が土塁状に高まる
・西岸は地形図で土塁状に示されているが、現地形では明瞭ではない
・南端は竜の口へ落ち込む



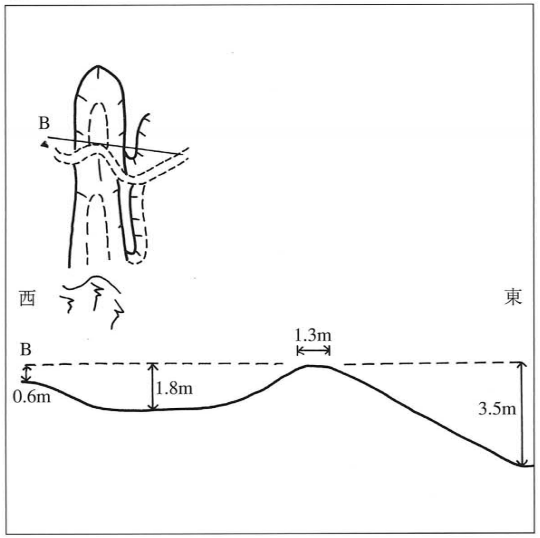
遠景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/10	渡部・中山

遺構番号
堀切2　南半（2）

地 区 名
御裏林

地区番号
C9

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

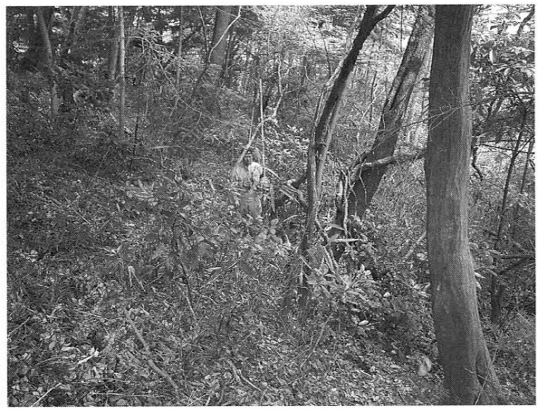
石　材

積 み 方

数　量

現　状

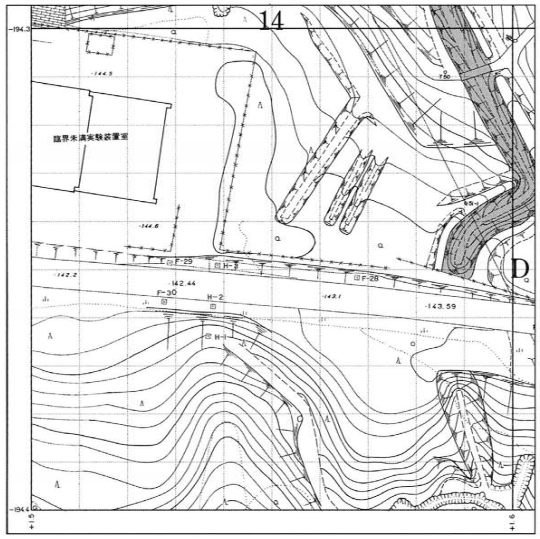
特記事項



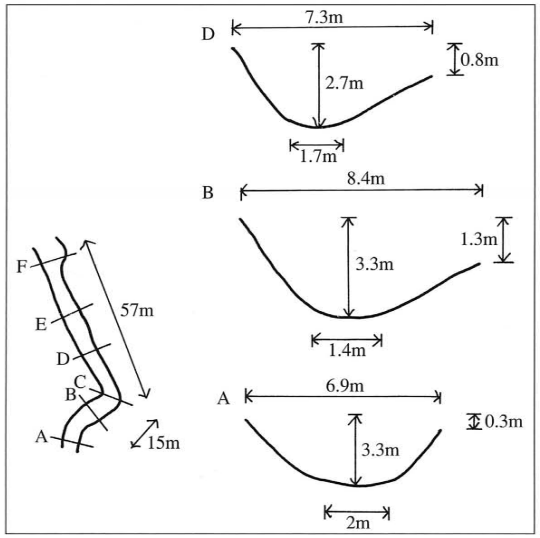
東岸の高まり（北西より）

西岸方向（北東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
堀切3　北半（1）

地 区 名
御裏林

地区番号
D13、D14、E14

延　　長
76m

高　さ(深さ)
1.8～3.3m

幅
6.6～8.4m

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

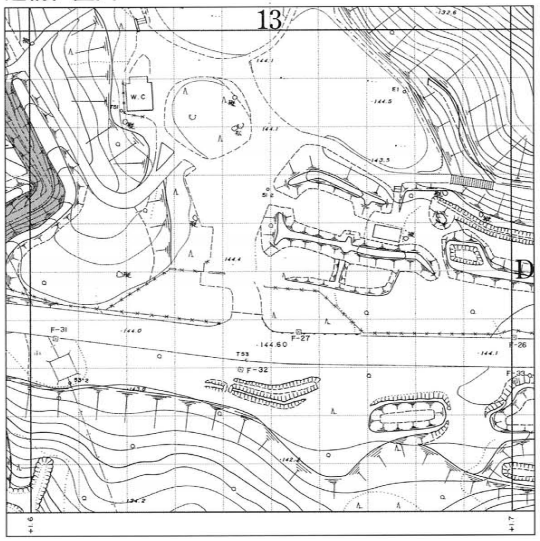
現　　状
・良好

特記事項
・東側が高くなっている
・北端はそのまま自然の沢につながる
・断面A付近が一番高く、北に向かって傾斜している

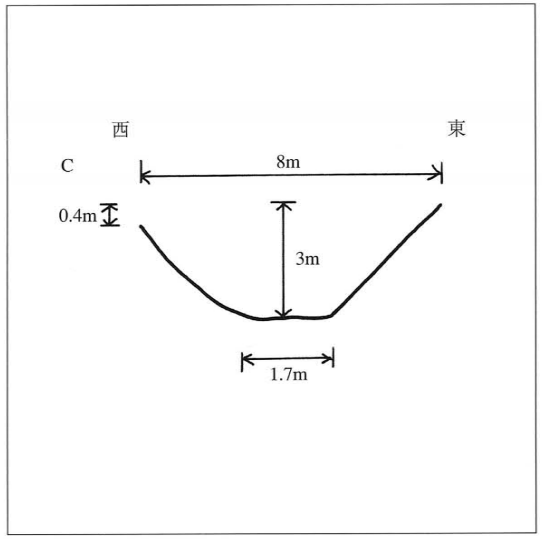
近景（北西より）

近景（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
堀切3　北半（2）

地 区 名
御裏林

地区番号
D13、D14、E14

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

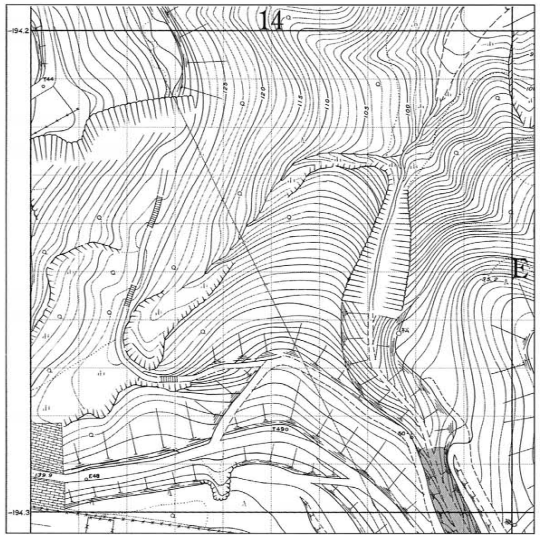
現　状

特記事項

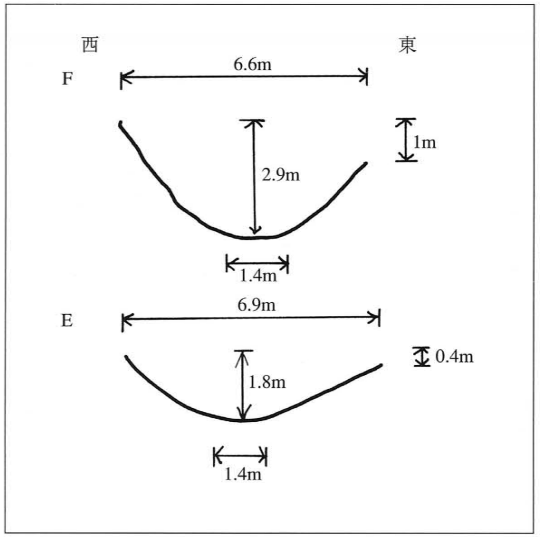
近景（北西より）

近景（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/28

調 査 者

中山

遺構番号

堀切3　北半（3）

地 区 名

御裏林

地区番号

D13、D14、E14

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

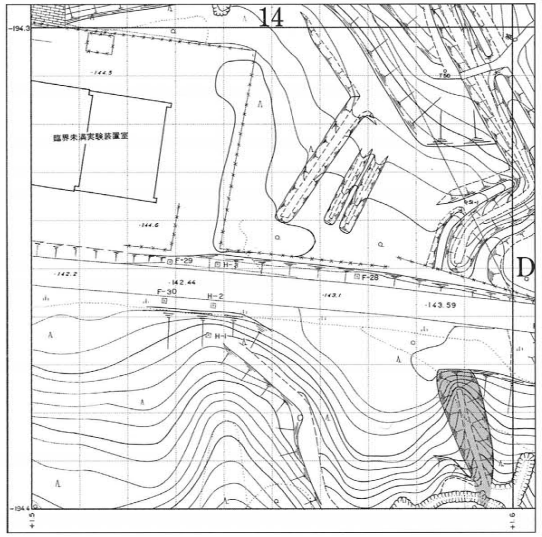
数　量

現　状

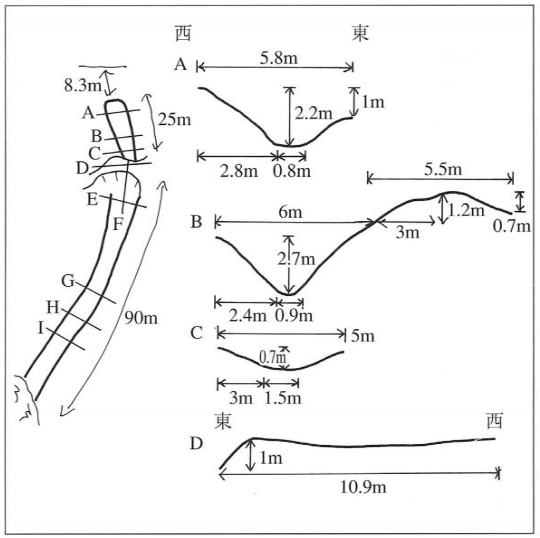
特記事項

遠景（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/06/05

調 査 者

中山・伊藤

遺構番号

堀切3　南半（1）　北部

地 区 名

御裏林

地区番号

C14、D14

延　長

120m

高　さ(深さ)

0.7～5.4m

幅

5～16.3m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

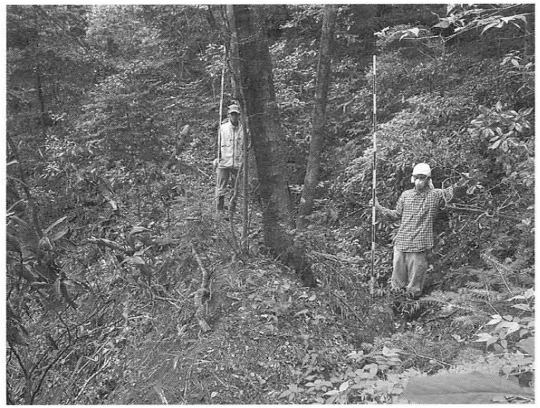
・笹が多い
・一部埋没している

特記事項

・南に向かって急傾斜である

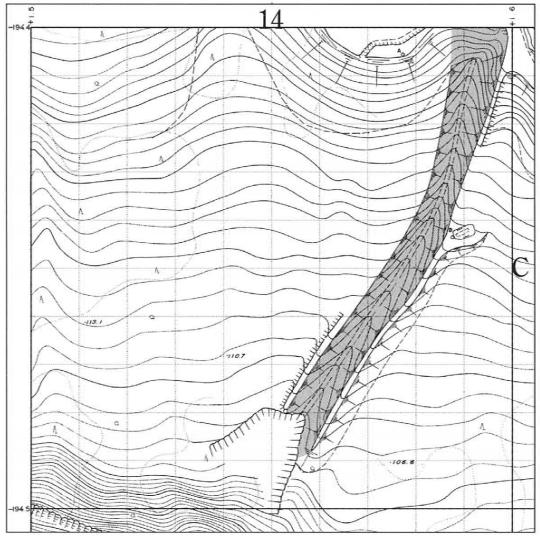
近景（北より）

近景（北より）

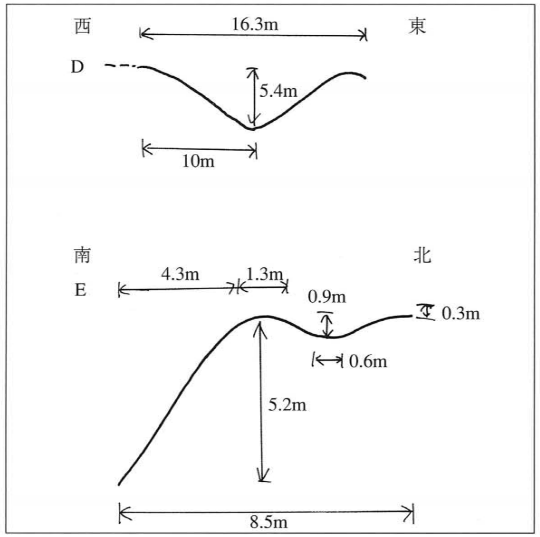


中間の埋没箇所（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月

03/06/05

調 査 者

中山・伊藤

遺構番号

堀切3　南半（2）　中央部

地 区 名

御裏林

地区番号

C14、D14

延　長

高　さ(深さ)

5.4m（D）

幅

16.3m（D）

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

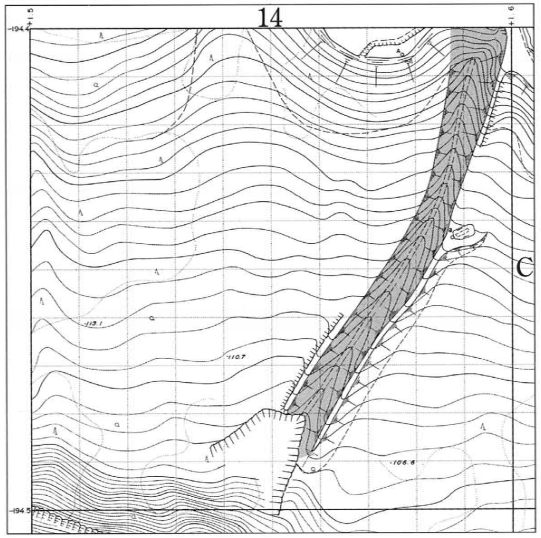
特記事項

近景（北より）

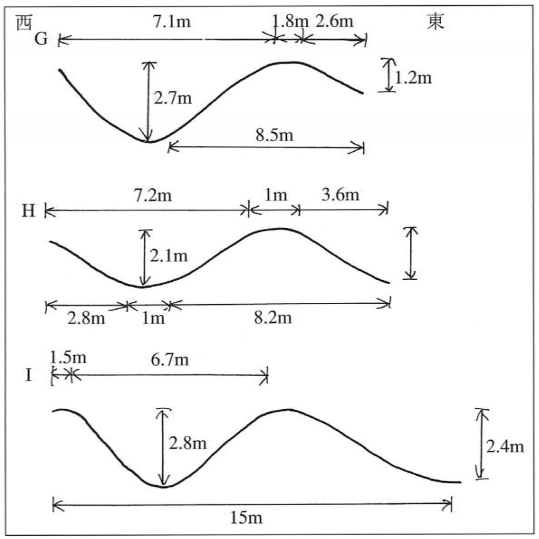
近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/09	中山

遺構番号

堀切3　南半（3）　南部

地 区 名

御裏林

地区番号

C14、D14

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

・南端は土砂崩れが起きており危険
・笹竹が多い

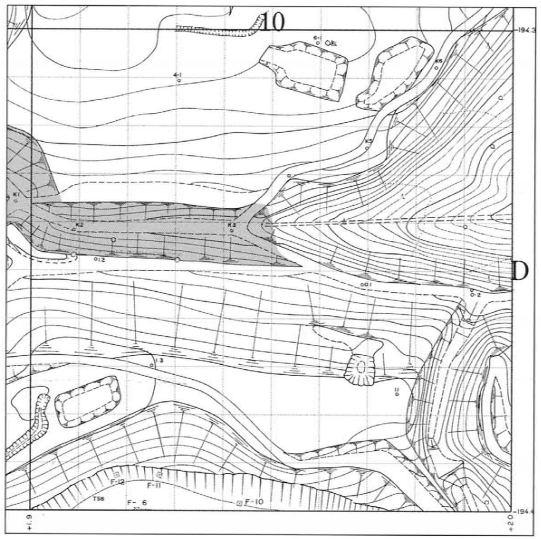
特記事項

・南端部の南側は、そのまま渓谷となる

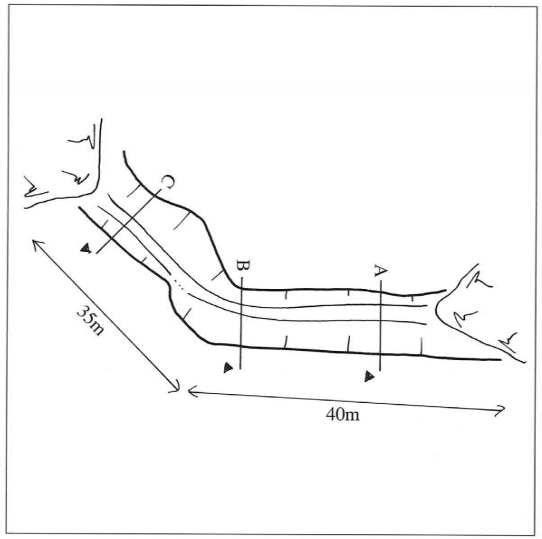
近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

03/06/05

調 査 者

中山・伊藤

遺構番号

堀切4（1）

地 区 名

御裏林

地区番号

D10、D11

延　　長

75m

高　さ(深さ)

2.9～3.5m

幅

11.0～14.8m

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

・遊歩道として使用されている

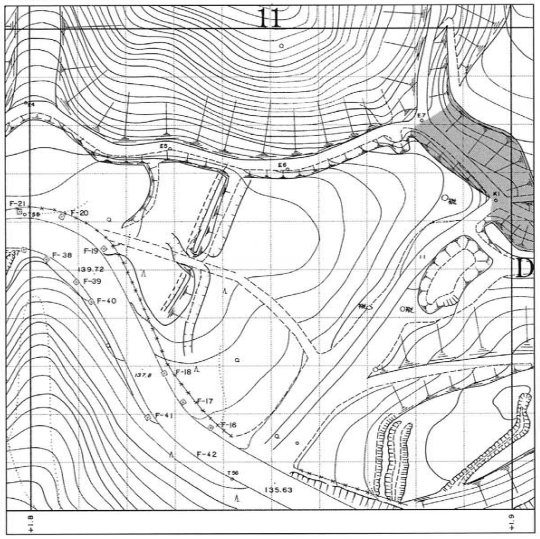
特記事項

・堀底は平坦であり、東西端で沢に接する

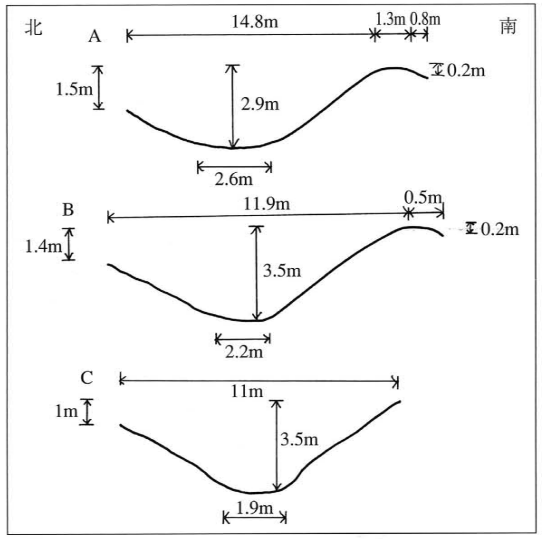
全景（東より）

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/05	中山・伊藤

遺構番号
堀切4（2）

地 区 名
御裏林

地区番号
D11

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

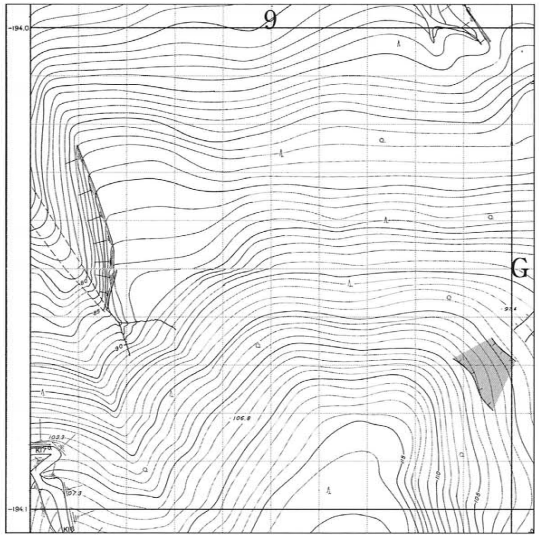
数　量

現　状

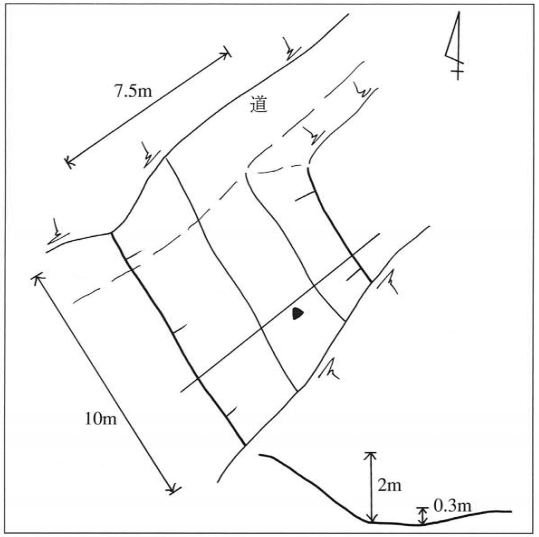
特記事項

近景（東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/07/02	渡部

遺構番号
堀切5

地 区 名
御裏林

地区番号
G9

延　　長
10m

高　さ(深さ)
2m

幅
7.5m

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状
・草木繁る

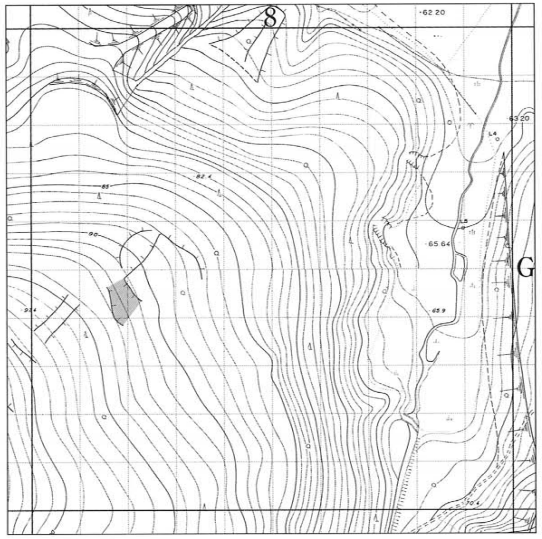
特記事項
・尾根を切っている。北東側の高まりが約30㎝と低いので単に段切りなのかもしれないが一応堀切としておく

全景（北西より）

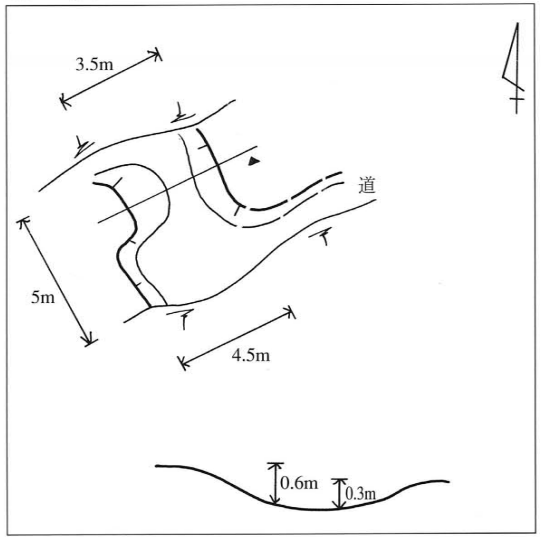
全景（北より）

全景（南東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/02	渡部

遺構番号
堀切6

地 区 名
御裏林

地区番号
G8

延　長
5m

高　さ(深さ)
0.6m

幅
3.5～4.5m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

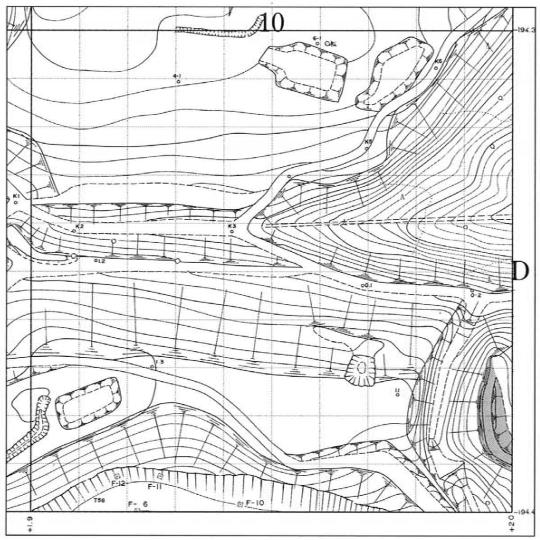
現　状
・草木繁る

特記事項
・ごく浅いものだが、尾根線を切る形なので掘切とした
・道があるため、改変されているようで、本来の地形は判断しにくい
・不整形であるが、広い方と狭い方のどちらが本来の形か分からない

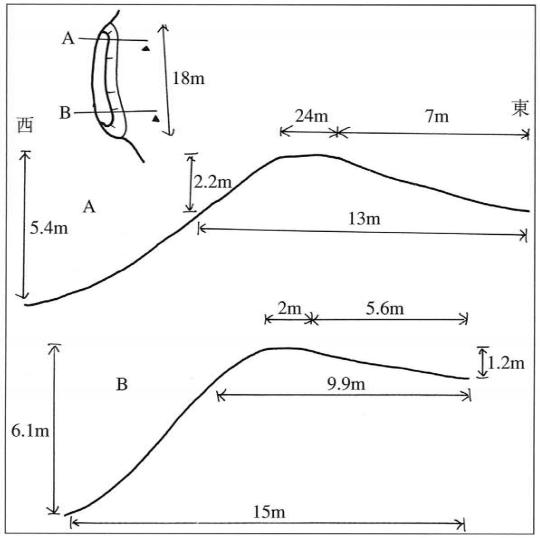
全景（西より）

全景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/02	中山・伊藤

遺構番号
土塁1

地 区 名
御裏林

地区番号
D10

延　長
18.0m

高　さ(深さ)
1.2～2.2m

幅
9.9～13.0m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・樹木・笹繁り見通しがきかない

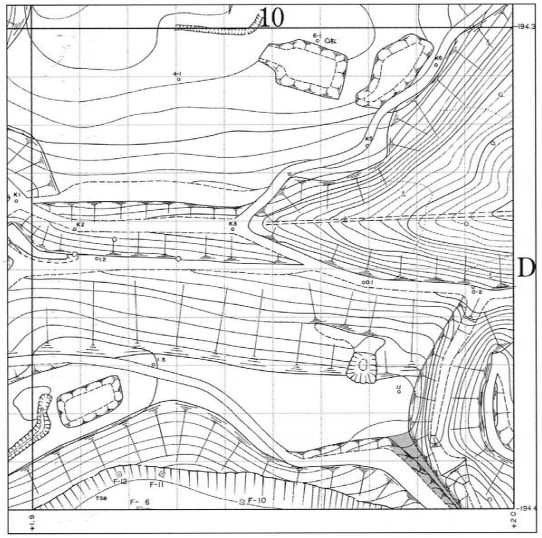
特記事項
・1/1000地形図に示されているほどは南端がはっきりしない

南端部（南東より）

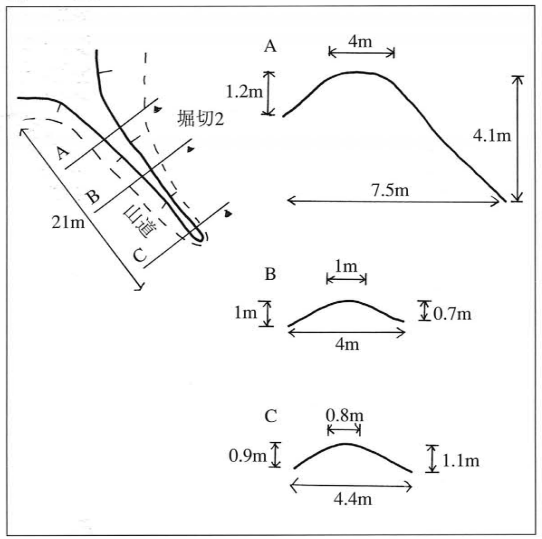
中央部（南より）

北端部（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
土塁2

地 区 名
御裏林

地区番号
D10

延　長
21m

高　さ(深さ)
0.7～4.1m

幅
4m～7.5m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

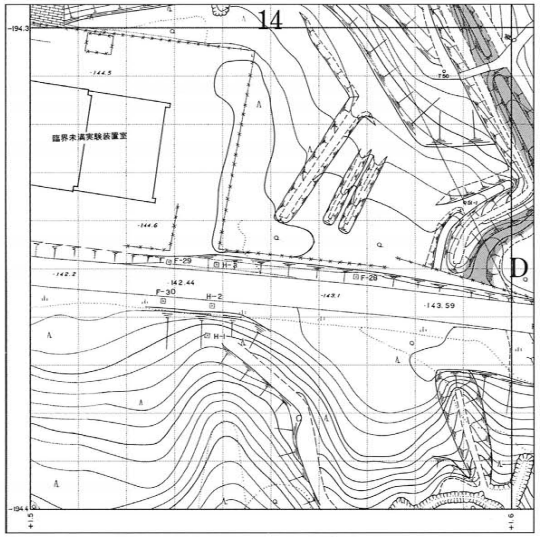
現　状
・良好

特記事項
・山道を作る際に削られて土塁状に見える可能性もあるが、堀切に隣接するため遺構と理解した

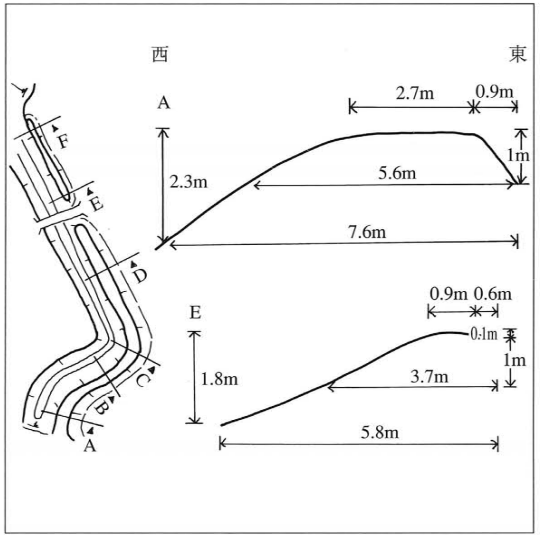
近景（南東より）

近景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/03	渡部・中山

遺構番号
土塁3（1）

地 区 名
御裏林

地区番号
D13、D14、E14

延　長
81.5m

高　さ(深さ)
西側：1.8～2.9m　東側：0.1～1.0m

幅
上端：0.5～3.6m　堀側から：5.8～7.6m
反対側から：3.0m～3.8m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

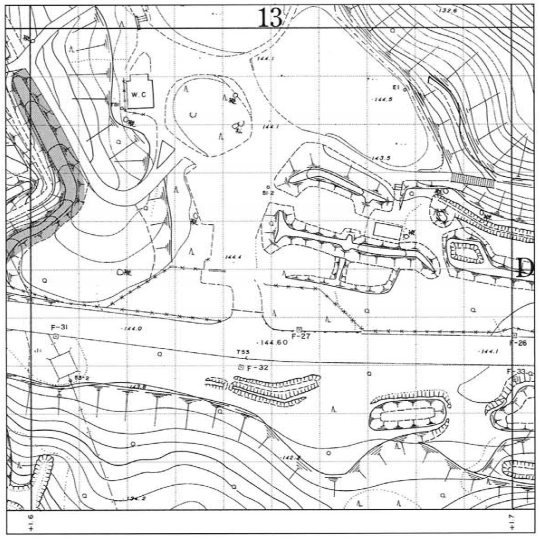
現　状
・良好
・橋から南に8～10m間の部分が欠けている

特記事項
・遊歩道で一部削られたと考えられる
・遊歩道の歩道の部分の土塁は、造成時に壊されたと考えられる

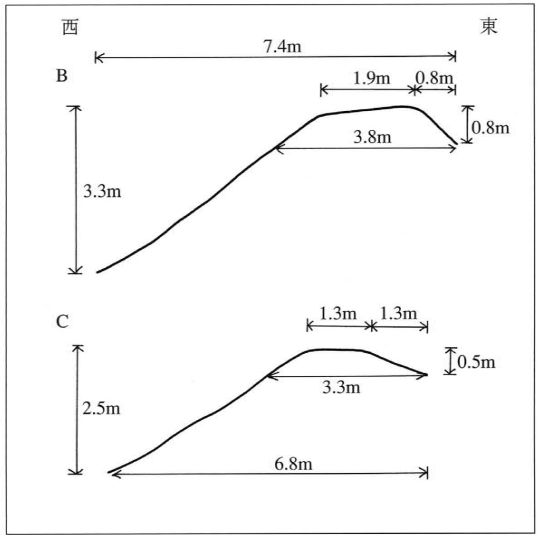
近景（北より）

近景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/03	渡部・中山

遺構番号
土塁3（2）

地 区 名
御裏林

地区番号
D13

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

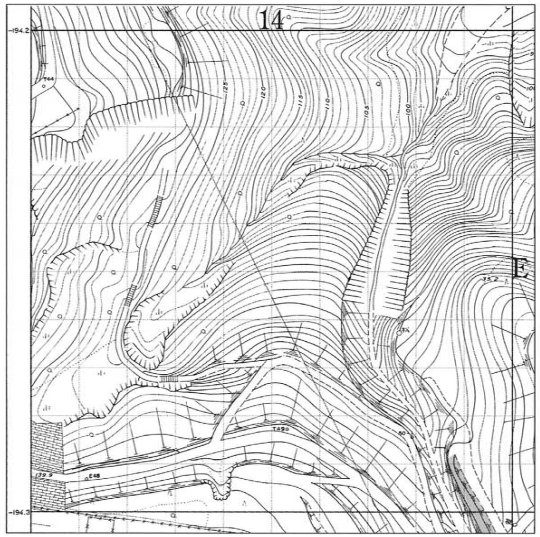
数　量

現　状

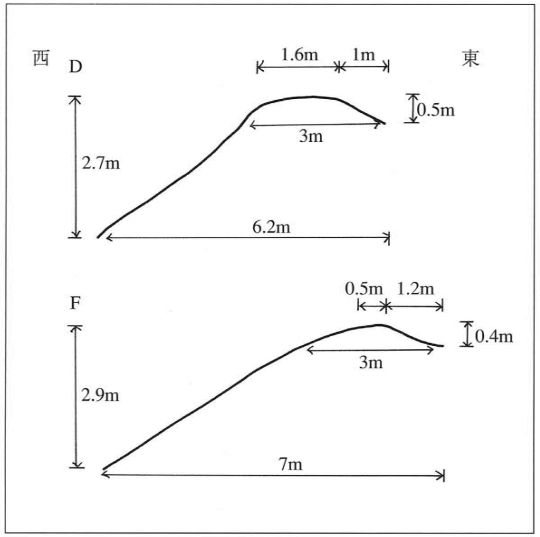
特記事項

近景（北東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/03	渡部・中山

遺構番号
土塁3（3）

地 区 名
御裏林

地区番号
E14

延　長
81.5m

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

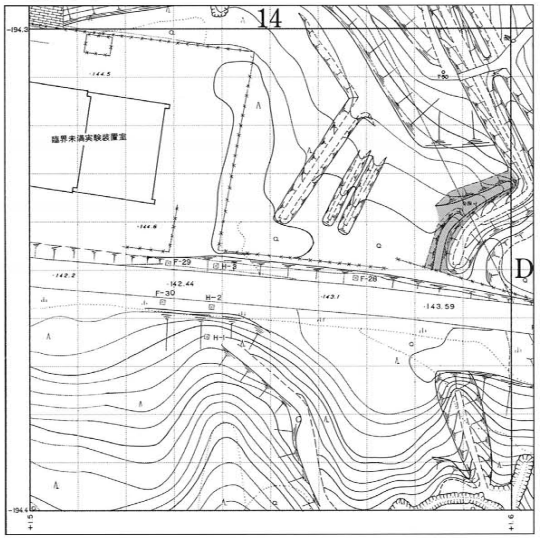
数　量

現　状

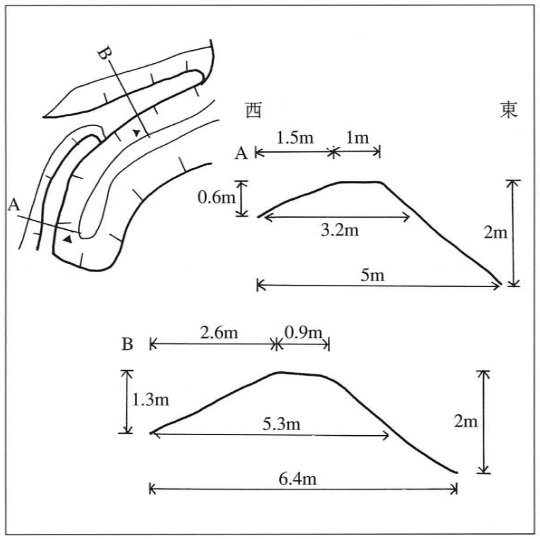
特記事項

近景（北西より）

遺構位置図



略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
土塁4

地 区 名
御裏林

地区番号
D14

延　長
24.5m

高　さ(深さ)
西側：0.6～131.3m　東側：2.0m

幅
上端：0.9～1.0m　堀側から：5.0～6.4m
反対側から：3.2～5.3m

勾　配

石　材

積 み 方

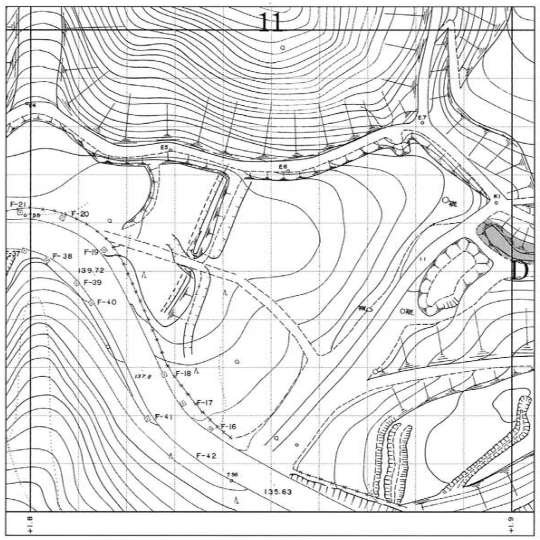
数　量

現　状
・良好

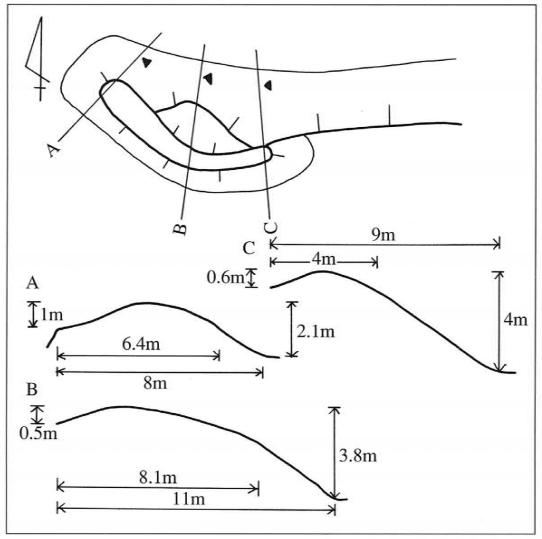
特記事項

近景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
02/07/23	渡部

遺構番号
土塁5

地区名
御裏林

地区番号
D10、D11

延　長
21m

高　さ(深さ)
0.5～1m（2.1～4m）

幅
4～8.1m（8～11m）

勾　配

石　材

積み方

数　量
0

現　状
・良好

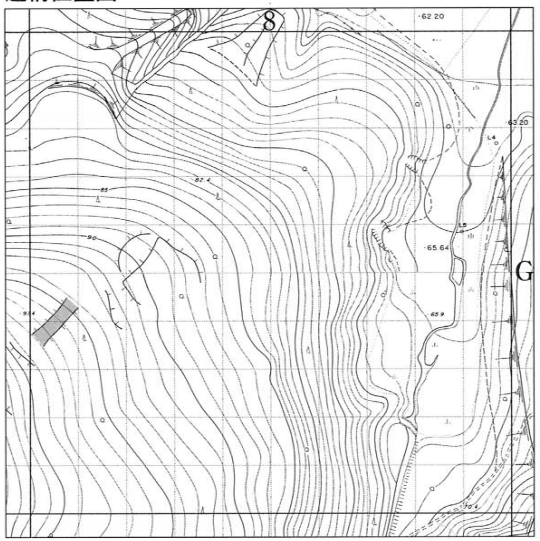
特記事項

近景（西より）

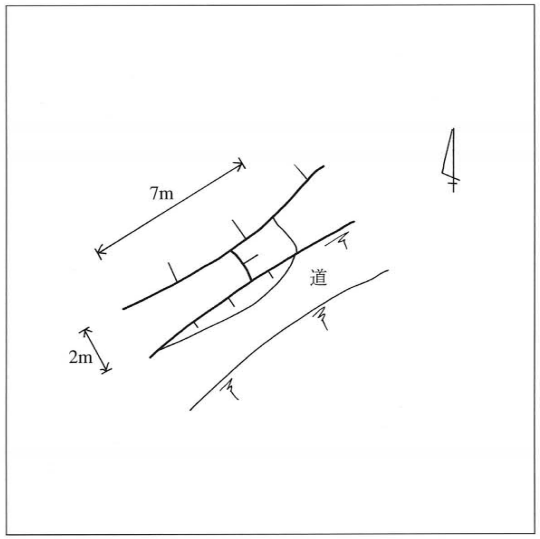
近景（西より）

遠景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/02	渡部

遺構番号
土塁6

地 区 名
御裏林

地区番号
G8

延　長
7m

高　さ(深さ)
0.6m

幅
2m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量
0

現　状
・草木繁る、土手上に大木あり

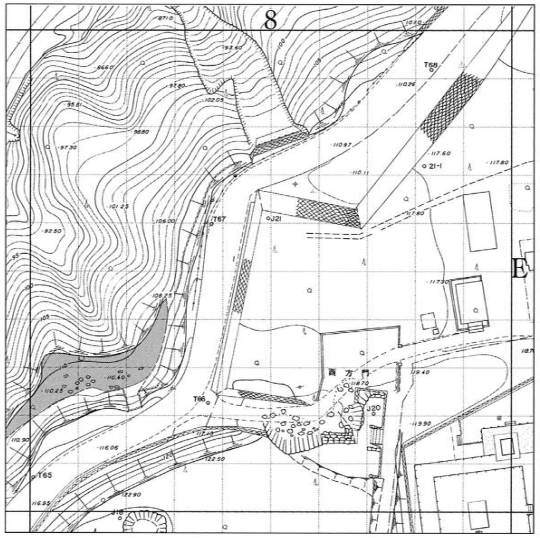
特記事項
・土塁の形状に両脇が削られている遺構。南はすぐ脇が道、北は斜面である

近景（南西より）

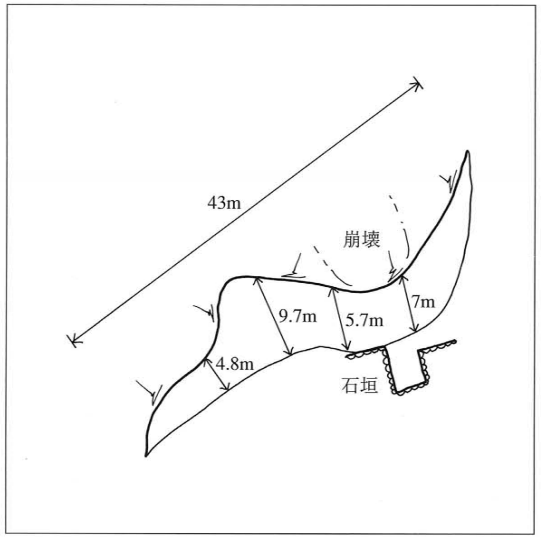
近景（南西より）

近景（北東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/05/20	渡部・中山

遺構番号
貯水槽平場　平場1

地 区 名
御裏林

地区番号
E8、E9

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

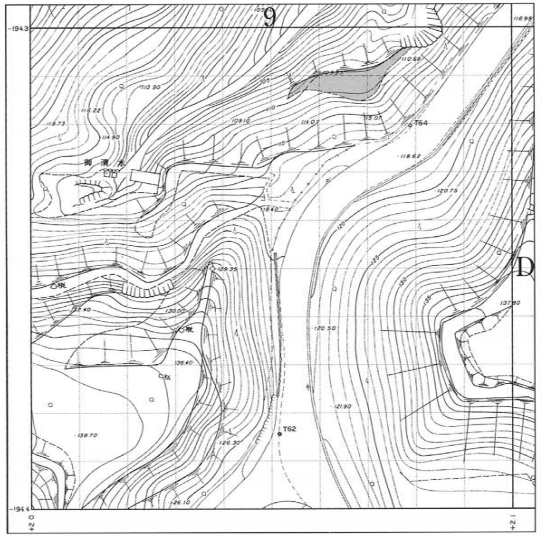
現　　状
・良好
・ゴミ散乱

特記事項
・貯水槽の前面に広がる不整形の平場
・大深沢に面する
・石垣石材が散乱している
・地形図と比べると、沢の侵食が進んでいる。

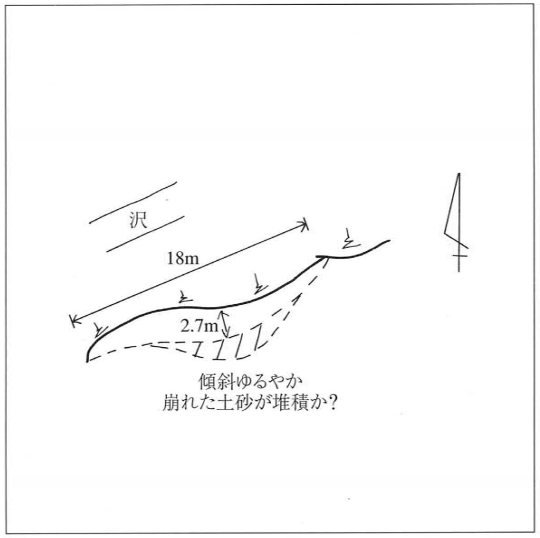
全景（東より）

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/23	渡部・中山

遺構番号
平場2

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　長
18m

高　さ(深さ)

幅
2.7m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

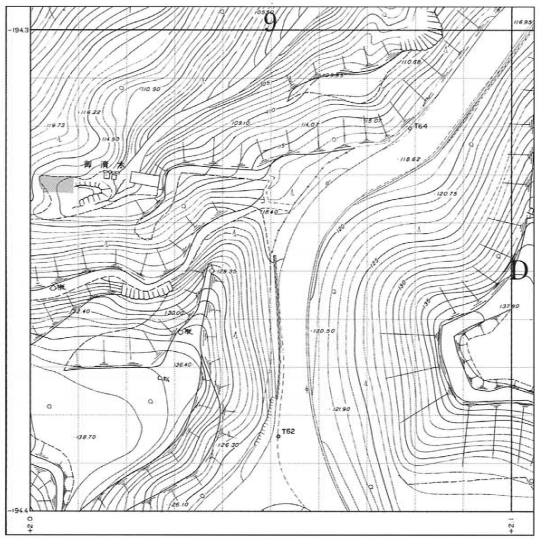
現　状
・南側は、かなり土砂が流入している

特記事項

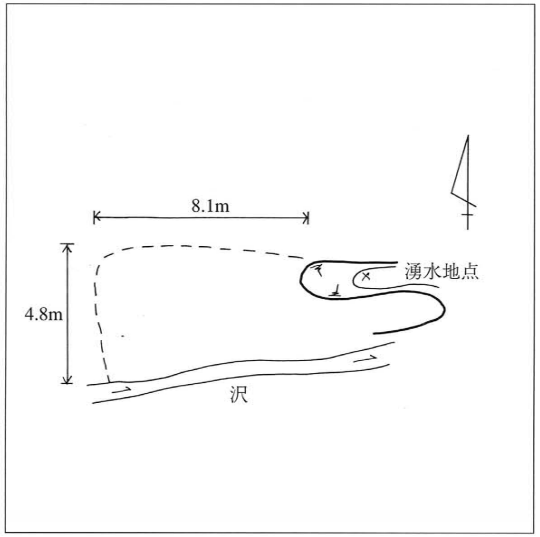
全景（東より）

全景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/23	渡部・中山

遺構番号
御清水平場　平場3

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　長
8.1m

高　さ(深さ)

幅
4.8m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

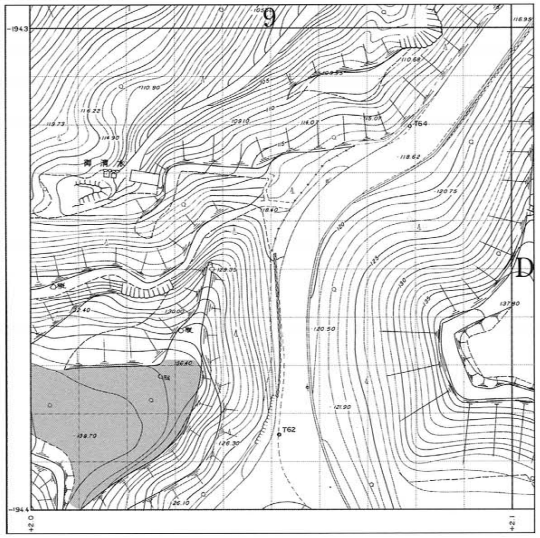
現　状

特記事項
・長方形の平場

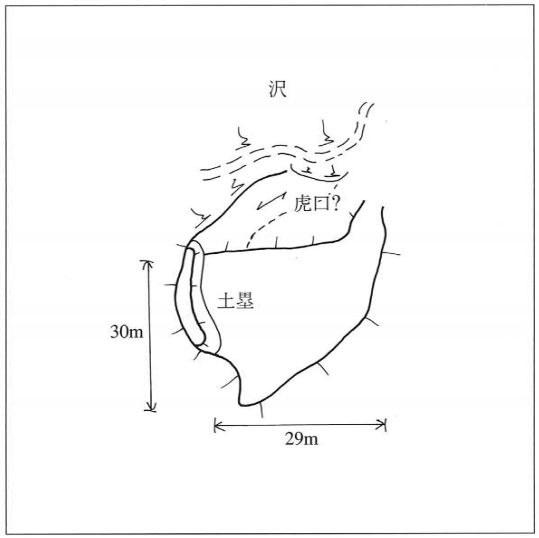
全景（東より）

全景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/28	中山

遺構番号
切通西側平場　平場4

地 区 名
御裏林

地区番号
D9

延　長
30m

高　さ(深さ)

幅
29m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・樹木、笹繁り見通しがきかない

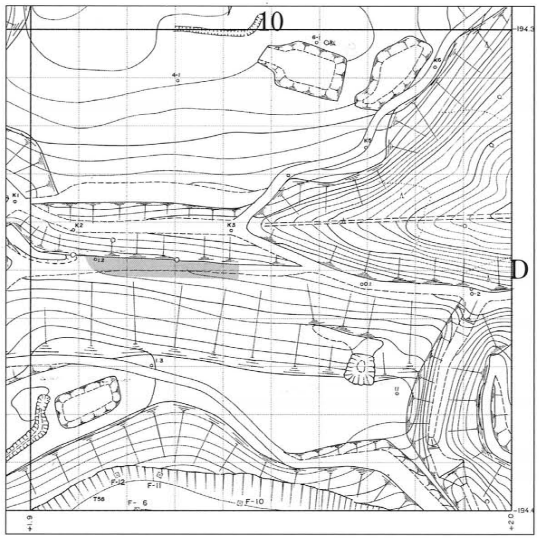
特記事項
・堀切2の東側にある平場
・平場西縁に土塁1がある
・北側が平場への虎口と考えられる

全景（西より）

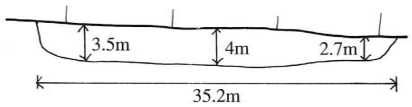
全景（西より）

平場の北側斜面（東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/06/05	中山・伊藤

遺構番号
平場5

地 区 名
御裏林

地区番号
D10

延　　長
35.2m

高　さ(深さ)

幅
2.7～4.0m

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

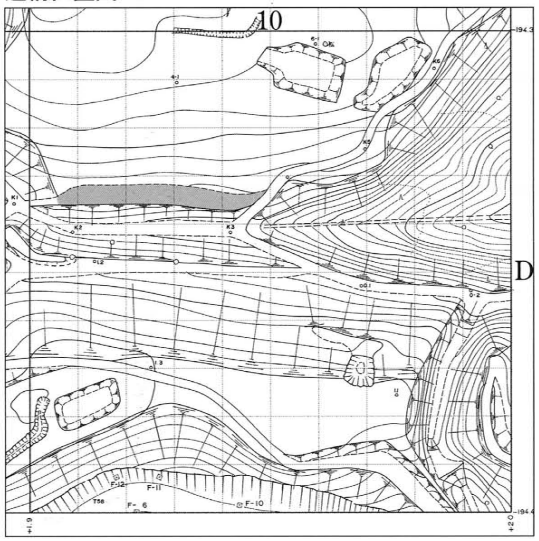
現　　状

特記事項

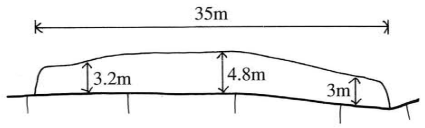
全景（東より）

全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/05	中山・伊藤

遺構番号
平場6

地 区 名
御裏林

地区番号
D10

延　長
35.0m

高　さ(深さ)

幅
3.0～4.8m

勾　配

石　材

積 み 方

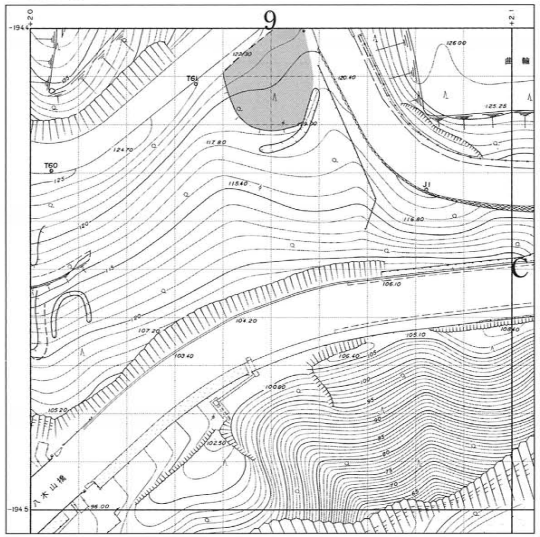
数　量

現　状

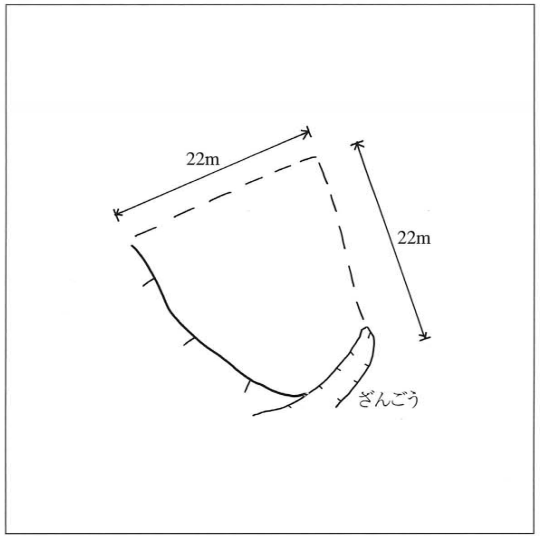
特記事項

全景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/06	渡部・中山

遺構番号
平場7

地 区 名
御裏林

地区番号
C9

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

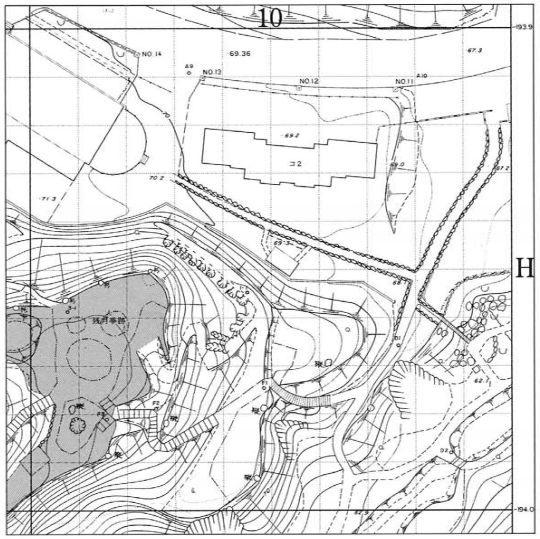
現　状

特記事項

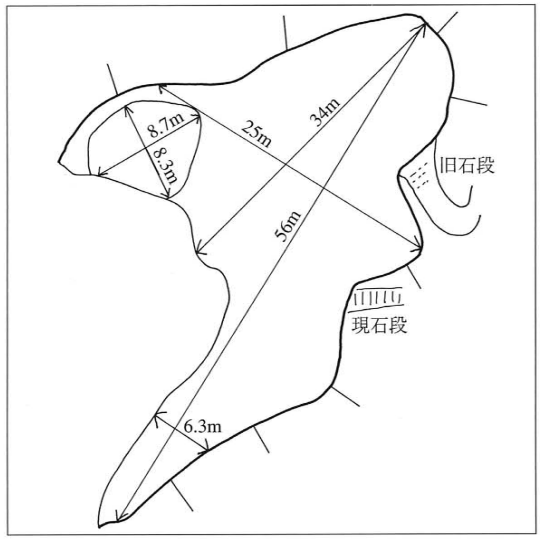
全景（西より）

全景（西より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/18	伊藤

遺構番号
残月亭推定地平場　平場8（1）

地 区 名
御裏林

地区番号
H10

延　長
56m

高　さ(深さ)

幅
25m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・良好

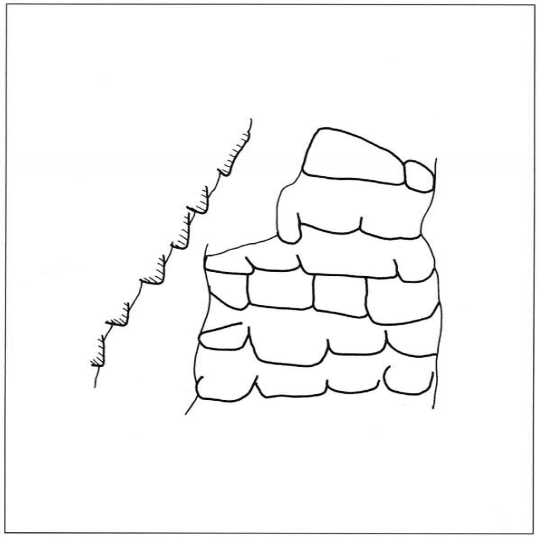
特記事項
・西側に径8cm程の円形の落ち込みあり(深さ不明・落ち葉、木片堆積のため)
・北岸に杉並木が現存
・中央部に植栽、南西部にあずまや

全景（南西より）

全景（北東より）

遺構位置図

略　図



調査年月

調 査 者

遺構番号
残月亭推定地平場　平場8（2）　石組階段

地 区 名
御裏林

地区番号
H10

延　長
1.9m

高　さ(深さ)
1.2m

幅
0.8～1.6m

勾　配
30°

石　材
自然石

積 み 方

数　量
21　6段

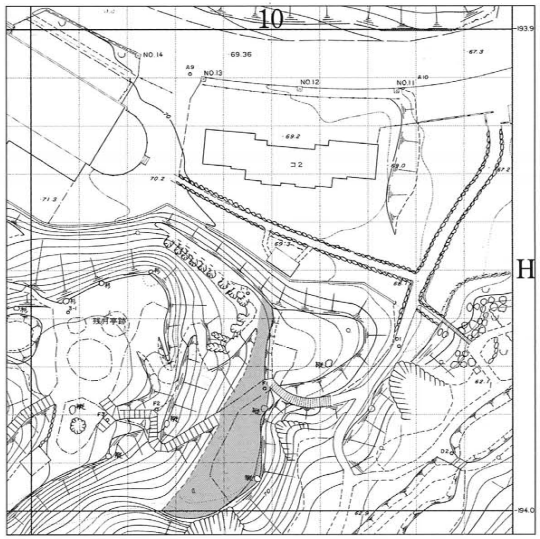
現　状

特記事項
・下部石材（4石）の更に下にも石材がある（ピンポールにて調査）

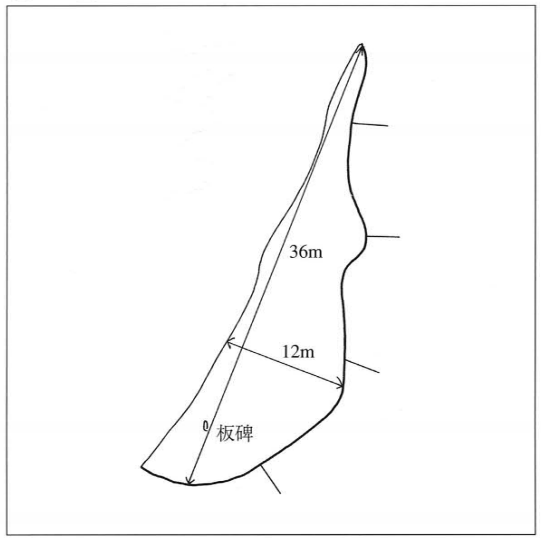
全景（南より）

全景（北より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/06/18	伊藤

遺構番号
平場9

地 区 名
御裏林

地区番号
H10

延　長
36m

高　さ(深さ)
12m

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状
・良好

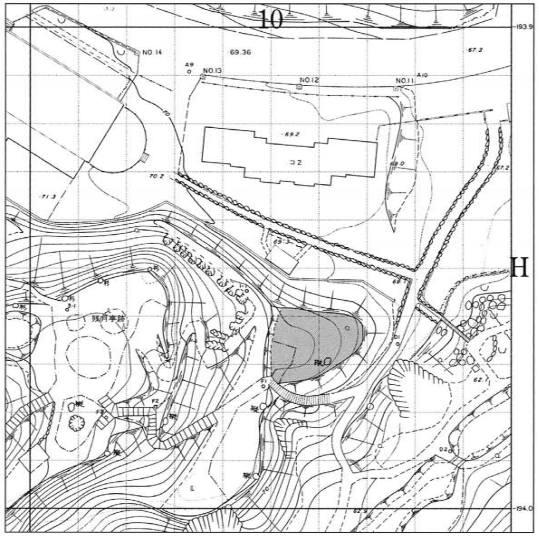
特記事項
・南側に板碑あり
・川内古碑群1号碑（正安4年〔1302〕銘）
・川内古碑群2号碑（弘安10年〔1287〕銘）
・東縁に杉並木現存

全景（北より）

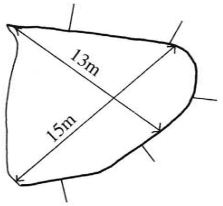
全景（南より）

板碑（北より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/06/18	伊藤

遺構番号
平場10

地 区 名
御裏林

地区番号
H10

延　　長
15m

高　さ(深さ)

幅
13m

勾　　配

石　　材

積 み 方

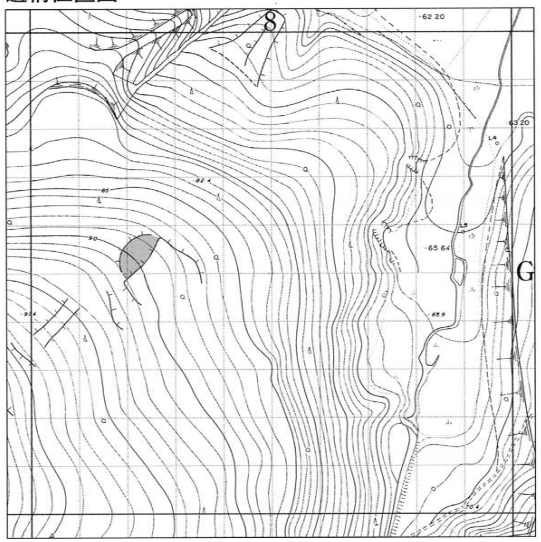
数　　量

現　　状
・良好

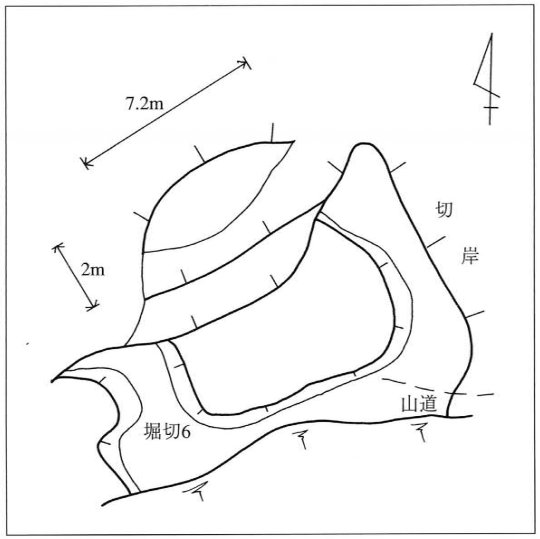
特記事項

全景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/07/02	渡部

遺構番号
平場11

地 区 名
御裏林

地区番号
G8

延　長
7.2m

高　さ(深さ)

幅
2m

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

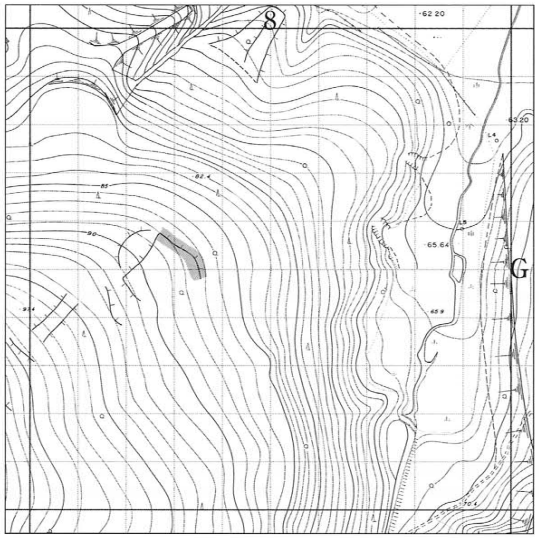
現　状
・草木繁る
・木が倒れている

特記事項
・半月状の小さな段
・上段より1.4m下がる

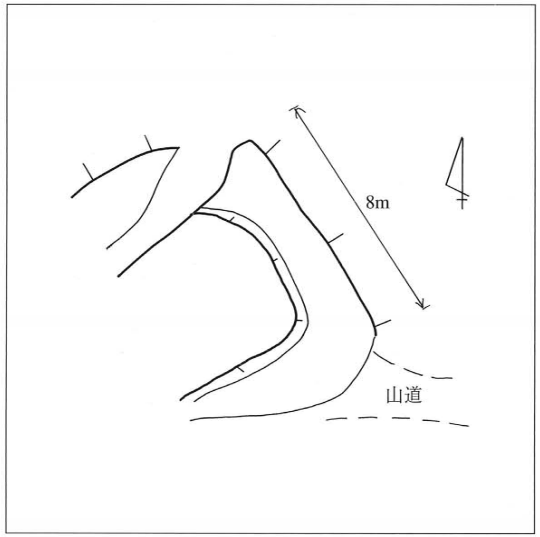
全景（南より）

全景（北東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/07/02	渡部

遺構番号
切岸1

地 区 名
御裏林

地区番号
G8

延　　長
8m

高　さ(深さ)

幅

勾　　配
43°

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

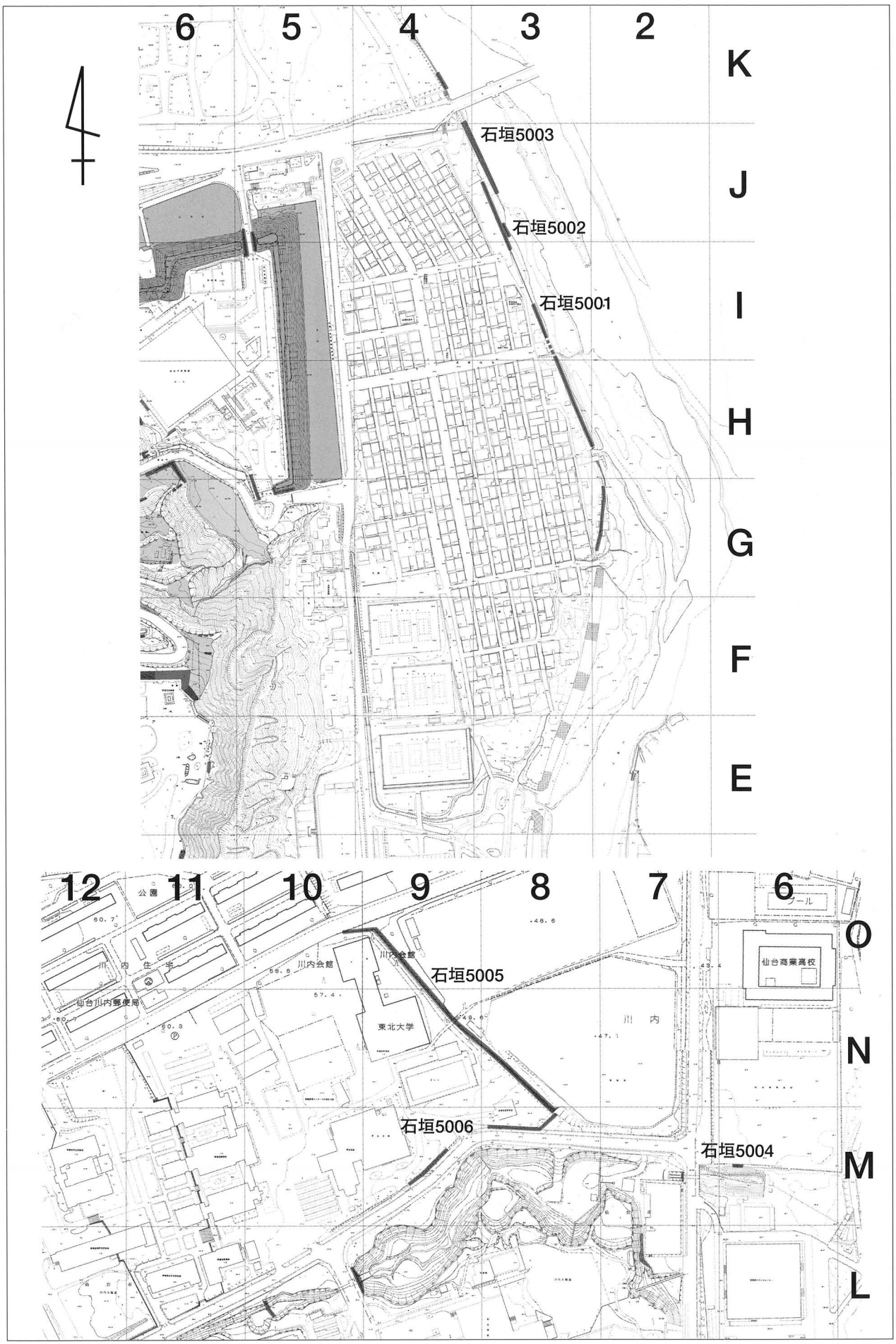
特記事項

・急な傾斜で落ちていく
・切岸上は幅1.5～2mの狭い平坦地がある

近景（南東より）

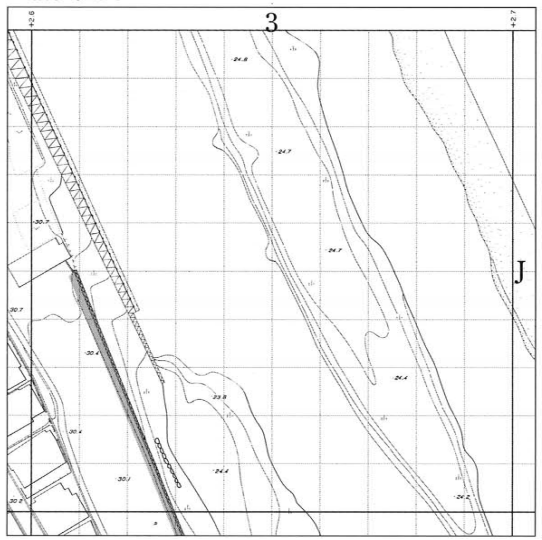
近景（南西より）

6　その他の地区

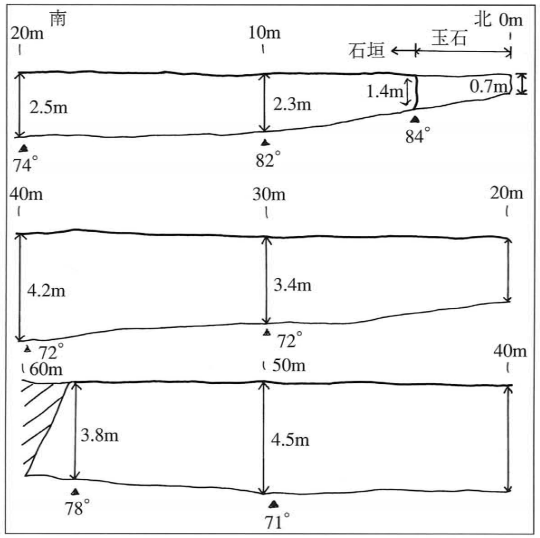


第８図　その他の地区の全体図

遺構位置図



略　図



調査年月

03/05/07

調 査 者

渡部・伊藤

遺構番号

広瀬川護岸石垣1　石垣5001(1)

地 区 名

その他

地区番号

G2、H3、I3、J3

延　長

260m

高　さ(深さ)

0.7～4.5m

幅

勾　配

71°～84°

石　材

自然石･割石

積 み 方

乱積み

数　量

現　状

・良好

特記事項

・矢穴あり
・一部に間知積み石垣

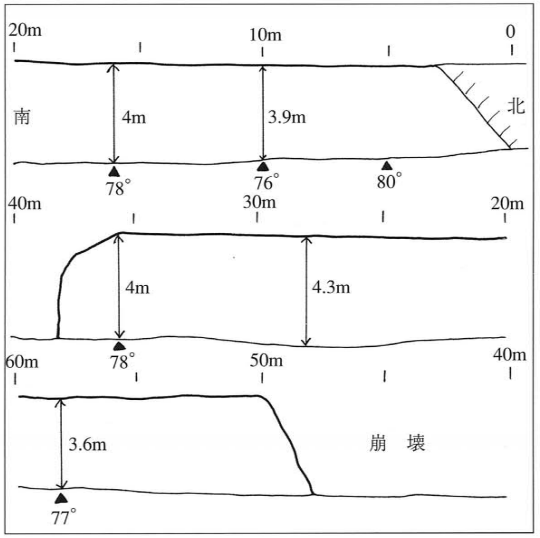
遠景（東より）

北端部近景（北東より）

北端部近景（南東より）

遺構位置図

略　図



調査年月	調 査 者
03/05/26	渡部

遺構番号

広瀬川護岸石垣１　石垣5001（2）

地 区 名

その他

地区番号

G2、H3、I3、J3

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

現　　状

・長さ約15mにわたり崩れている

特記事項

・崩れ部の北側の石垣に、矢穴で割られた石材が比較的多く見られる

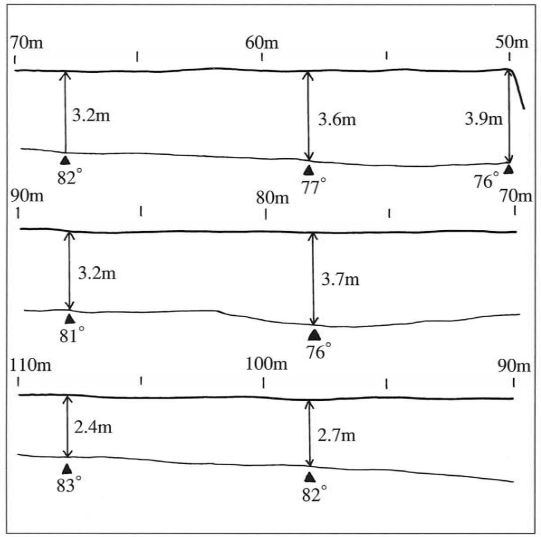
近景（東より）

矢穴のある石材（東より）

矢穴のある石材（東より）

遺構位置図

略　図



調査年月

03/05/26

調 査 者

渡部

遺構番号

広瀬川護岸石垣１　石垣5001（3）

地 区 名

その他

地区番号

G2、H3、I3、J3

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

0

現　　状

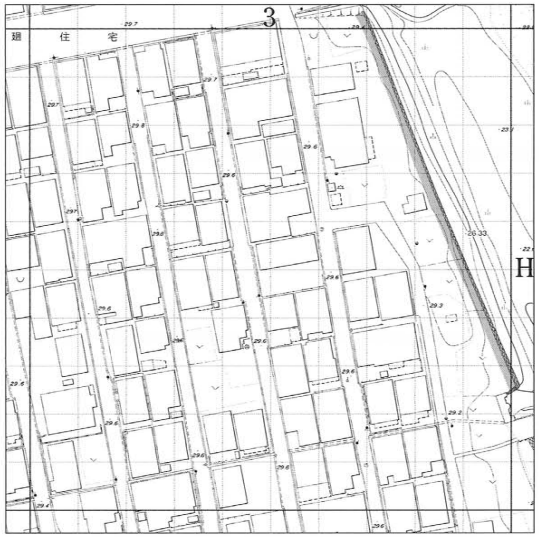
特記事項

崩れた部分（南東より）

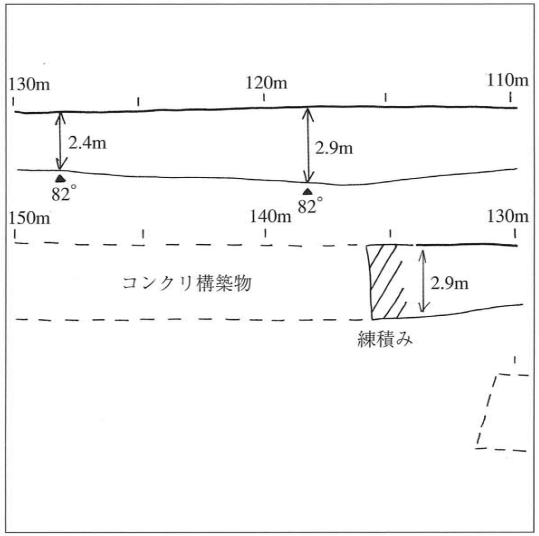
崩落石材（南東より）

崩れ部西脇の近景（北東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/26	渡部

遺構番号
広瀬川護岸石垣１　石垣5001（4）

地 区 名
その他

地区番号
G2、H3、I3、J3

延　長

高　さ(深さ)

幅

勾　配

石　材

積 み 方

数　量

現　状

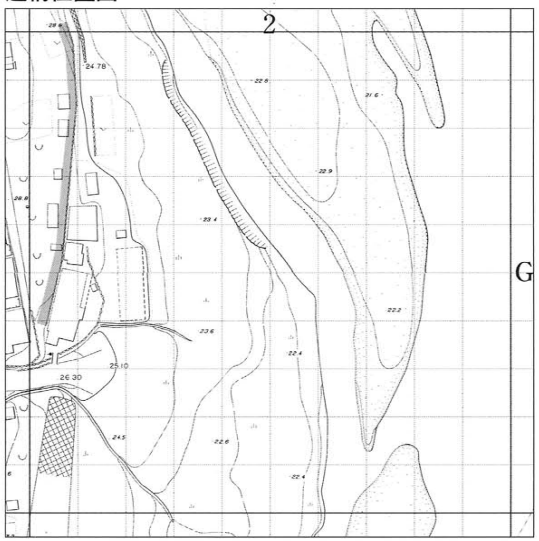
特記事項

近景（東より）

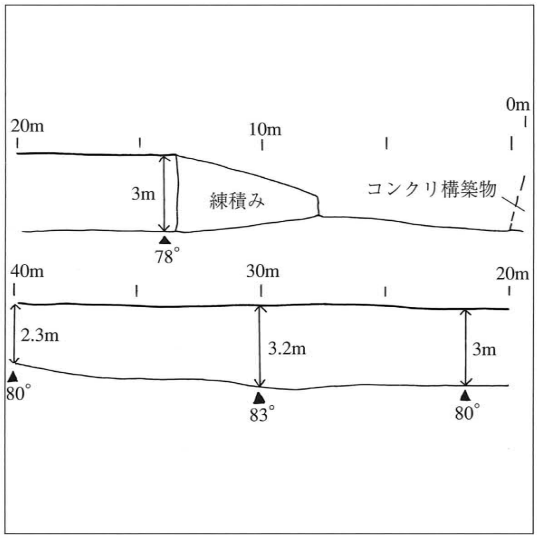
遠景（南東より）

コンクリート製構築物（北東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月	調 査 者
03/05/26	渡部

遺構番号
広瀬川護岸石垣１　石垣5001（5）

地 区 名
その他

地区番号
G2、H3、I3、J3

延　　長

高　さ(深さ)

幅

勾　　配

石　　材

積 み 方

数　　量

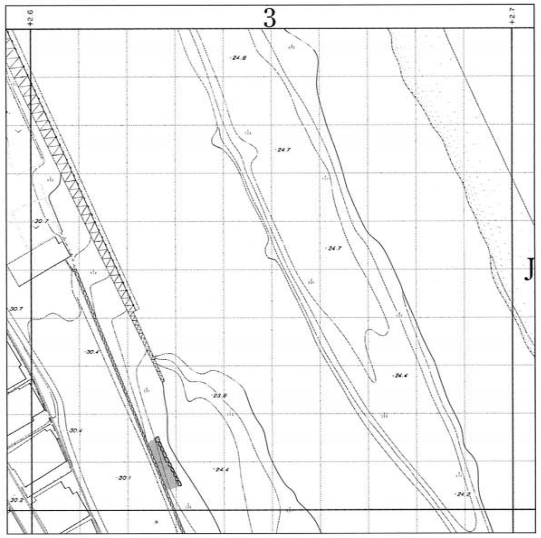
現　　状

特記事項
・南端は民家背後にあり、未調査

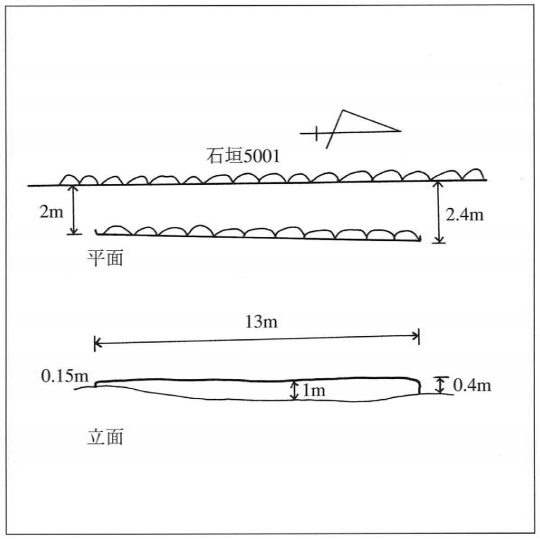
近景（東より）

近景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調査者
03/05/07	渡部・伊藤

遺構番号
広瀬川護岸石垣2　石垣5002

地区名
その他

地区番号
J3

延　長
13m

高　さ(深さ)
0.15～1m

幅

勾　配
76°

石　材
自然石

積み方
乱積み

数　量
３段

現　状
・良好

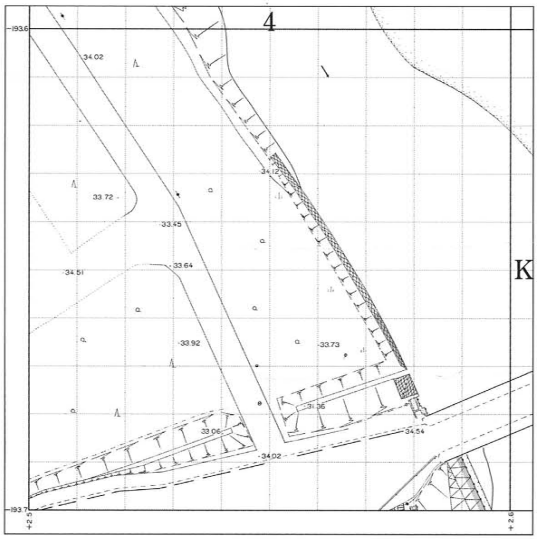
特記事項
・良好な部分で3段
・石垣5001の前面の低い石垣

全景（南東より）

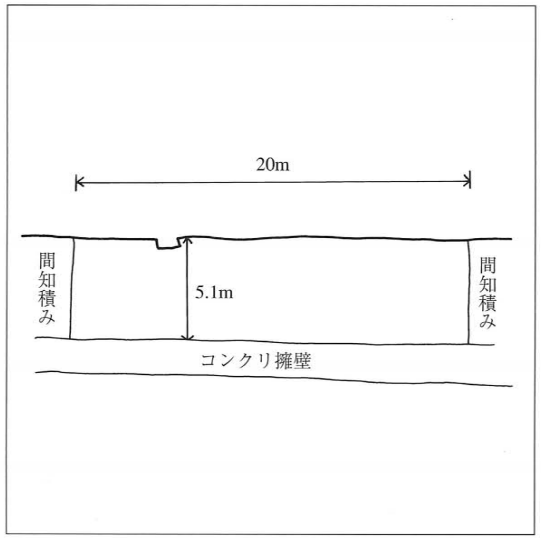
近景（東より）

近景（東より）

遺構位置図



略　　図



調査年月

03/05/08

調 査 者

渡部・中山

遺構番号

広瀬川護岸石垣3　石垣5003（1）北半

地 区 名

その他

地区番号

K4

延　　長

約200m

高　さ(深さ)

排水路部分で5.1m,さらに下にコンクリ

幅

勾　　配

不明（計測できず）

石　　材

切石

積 み 方

整層積み

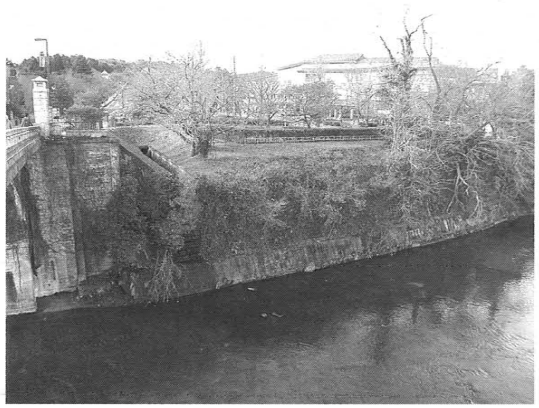
数　　量

現　　状

・良好

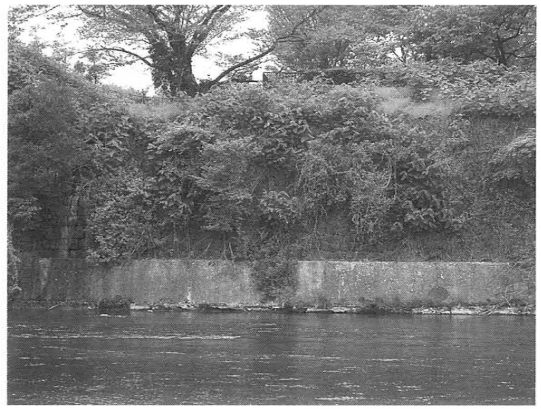
特記事項

・南端はっきり見えない
・北端は間知積み石垣に接する



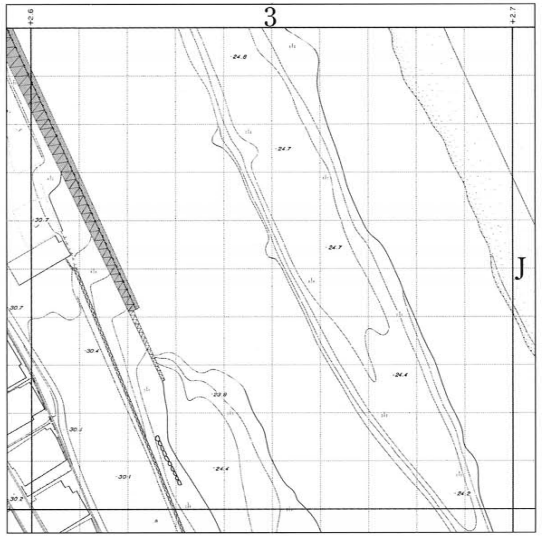
全景（東より）

全景（東より）

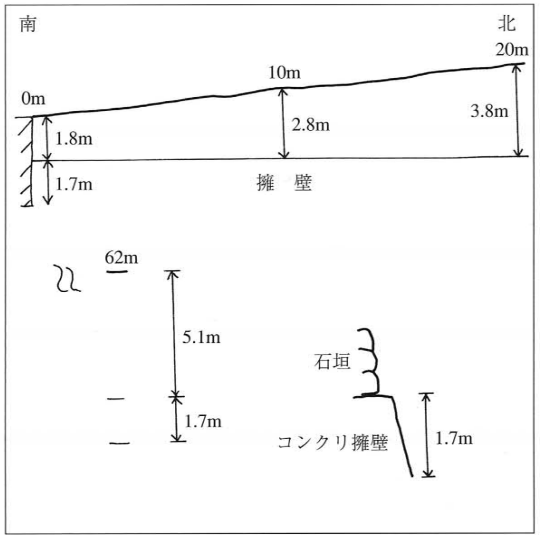


全景（東より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
03/05/08	渡部・中山

遺構番号
広瀬川護岸石垣3　石垣5003（2）南半

地 区 名
その他

地区番号
J3、J4

延　　長
約76m（大橋付近は不明瞭）

高　さ(深さ)
1.8～5.1m

幅

勾　　配
75°、76°

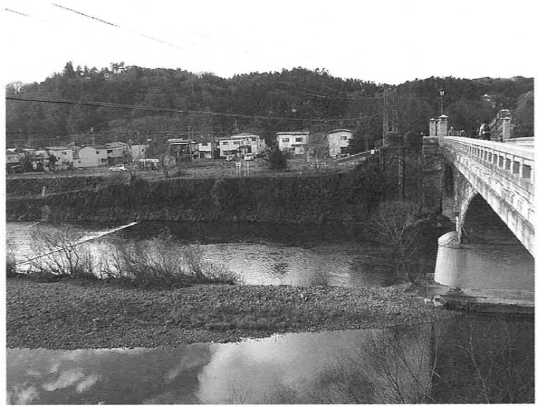
石　　材
切石

積 み 方
整層積み

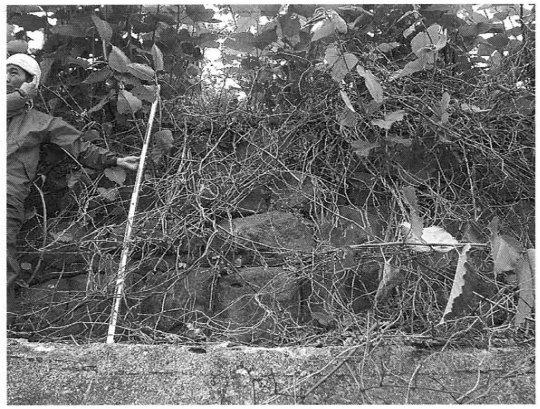
数　　量

現　　状
・良好

特記事項
・両端、間知積み石垣
・南端　3段
・石垣の下1.7mコンクリで覆われる

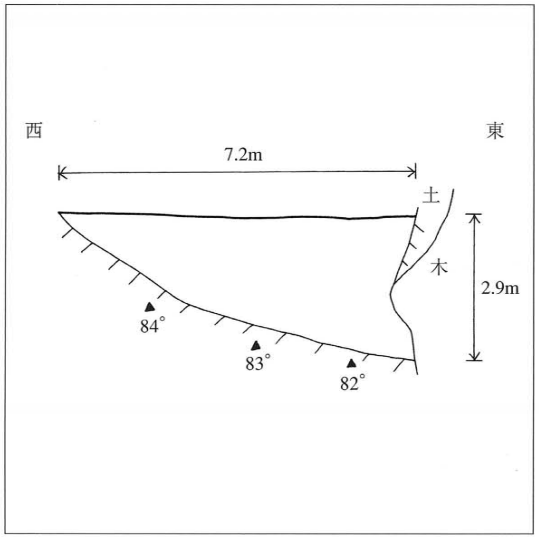

全景（東より）

近景（東より）


近景（東より）

遺構位置図

略　　図



調査年月	調 査 者
03/08/06	渡部・中山

遺構番号
筋違橋東方石垣　石垣5004

地 区 名
その他

地区番号
M6

延　　長
7.2m

高　さ(深さ)
M2.9m

幅

勾　　配
82°～84°

石　　材
自然石主体で割石まじる

積 み 方
乱積み、一部に落とし積み

数　　量
約150石

現　　状
・良好だが東端に大きな樹木があり、影響が懸念される

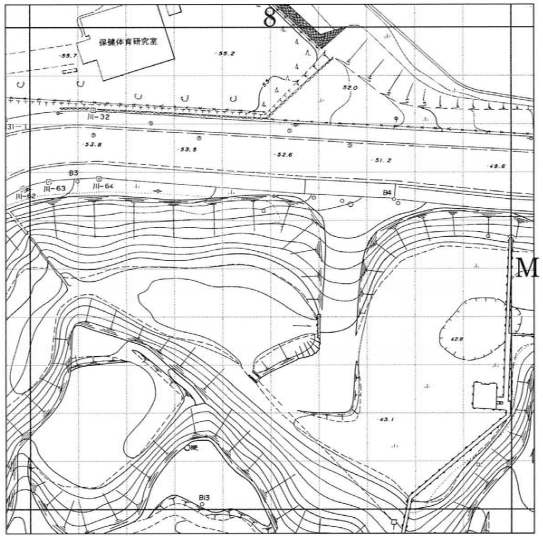
特記事項
・自然石を粗割し、割面を正面にむける
・自然石の一部を加工
・自然石
*以上、3種の石材を使用して積んでいる
・裏込めは玉石
・仙台城跡調査指導委員会の鈴木啓委員より、土橋を補強した石垣ではないかとのご教示を得ている

全景（南より）

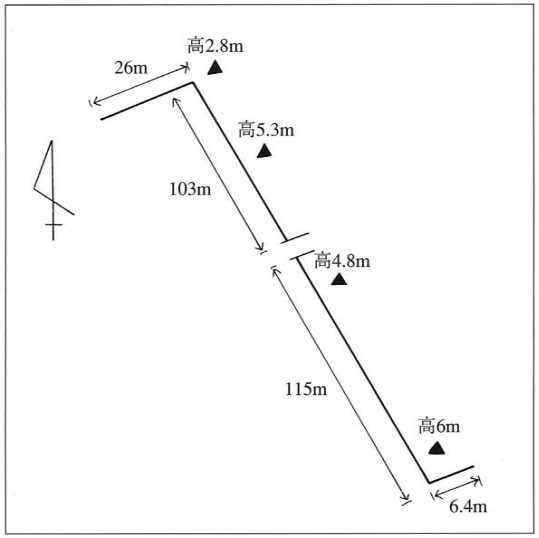
近景（南東より）

近景（南より）

遺構位置図



略　図



調査年月	調 査 者
	中山

遺構番号
北方武家屋敷石垣1　石垣5005

地 区 名
その他

地区番号
M8、N8、N9、09、010

延　長
222m

高　さ(深さ)
2.8～6.0m

幅

勾　配

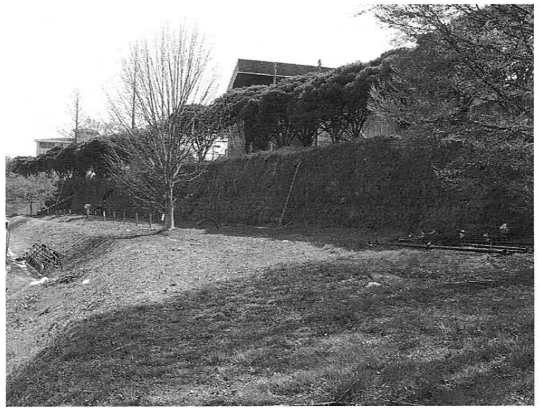
石　材
切石

積 み 方
整層積み

数　量

現　状
・良好

特記事項
・平成15年5月に一部崩落
・裏込めに玉石とコンクリート

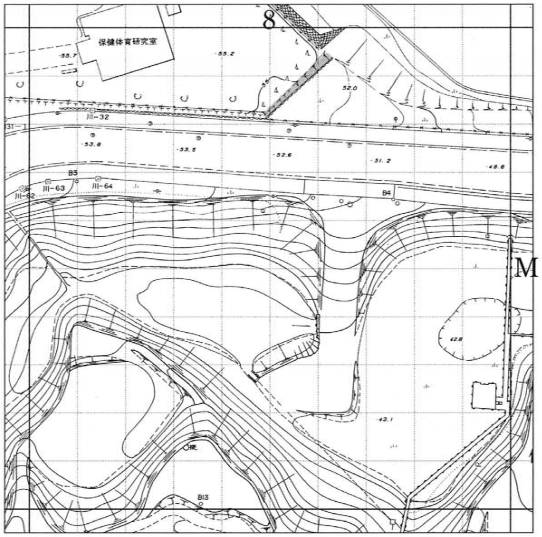


全景（北より）

近景（北東より）

近景（北東より）

遺構位置図



略　　図

調査年月

03/09/05

調 査 者

渡部

遺構番号

北方武家屋敷石垣2　石垣5006　A面

地 区 名

その他

地区番号

M8

延　　長

19.5m

高　さ(深さ)

1.2m

幅

勾　　配

77°

石　　材

切石

積 み 方

整層積み

数　　量

4段

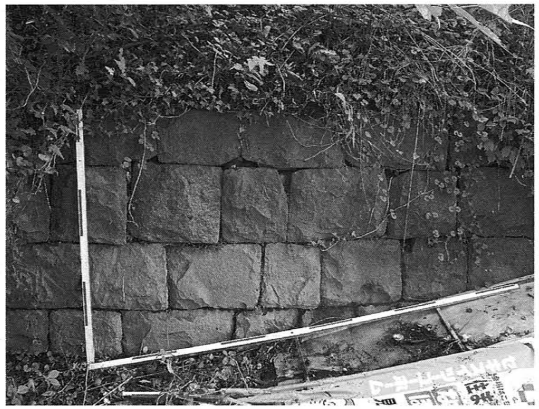
現　　状

・良好

特記事項

・裏込め不明
・近代以降の可能性が考えられる

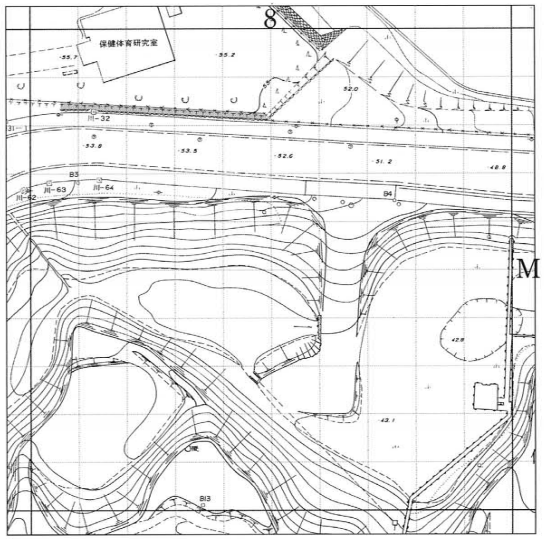
近景（北東より）



近景（北東より）

AB角部（南より）

遺構位置図



略　図

調査年月

03/09/05

調 査 者

渡部

遺構番号

北方武家屋敷石垣2　石垣5006　B面

地 区 名

その他

地区番号

M8

延　長

39m

高　さ(深さ)

0.4～1m

幅

勾　配

85°、86°

石　材

切石

積 み 方

整層積み

数　量

1～4段

現　状

・良好

特記事項

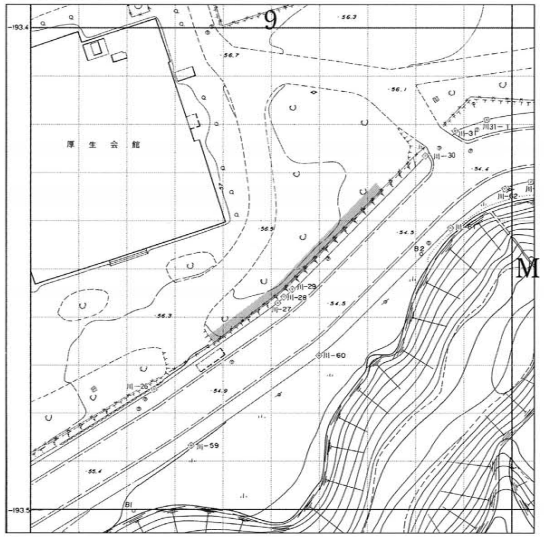
・裏込め不明
・AB角部は鈍角で、算木積み。稜は江戸切りであるが石垣5005や、護国神社周辺の石垣の加工に似ることから近代以降の構築の可能性が高い
・矢穴2ヶ所あり
①間口5cm×深4cm
②間口7cm×深5cm

全景（東より）

近景（南より）

矢穴（南より）

遺構位置図



略　図

調査年月

03/09/09

調 査 者

渡部

遺構番号

北方武家屋敷石垣3　石垣5007

地 区 名

その他

地区番号

M9

延　長

46.3m

高　さ(深さ)

3cm～38cm

幅

勾　配

石　材

切石

積 み 方

大部分は1段のみであり、わずかに下段がのぞく所もある

数　量

1段～2段

現　状

・土砂に埋まっている部分、石がズレている部分がある

特記事項

・両端に近い部分の石材の大きさ(高×幅：単位cm　25×32、27×38、27×35)
・矢穴1ヶ所、間口4cm、深不明
・背面構造は不明
・歩道面よりもさらに下がっている
・石垣5006と一連の流れのようであり近代以降の石垣の可能性が考えられる

全景（北東より）

近景（南東より）

矢穴（北東より）

Ⅳ まとめ

仙台城跡全域の遺構分布調査の結果をまとめたものが第10図である。ここには、今回は台帳を報告していないが平坦な地形がみとめられる範囲も平場として着色している。

(1) 本丸地区

北側、北西側に切石を使用した高石垣が存在する。東側の崖地に面して自然石や割石を使用した石垣が認められるが、自然崩壊が進み危険な状況である。南縁部には大番士土手（土塁1001）が築かれており、残存状況は良好である。なお、今回は史跡未指定の民有地である西半部の分布調査は行っていない。

(2) 二の丸地区

千貫橋跡、筋違橋跡に切石を使用した石垣が存在するが、一部改変を受けている。西縁の小石垣2001は、二の丸西縁を区画する塀跡の基礎の可能性が高い。

(3) 三の丸地区

子門跡、巽門跡の両側に石垣が存在する。曲輪西縁の土手下に自然石や割石を使用した石垣（石垣3004・3005）が存在するが、湧水があり保存状態は悪い。

(4) 登城路地区

巽門からの登城路周辺に石垣が存在する。いずれも自然石や割石を使用した石垣である。清水門石垣（4010）、沢門下石垣（4007）以外は保存状況が良好である。

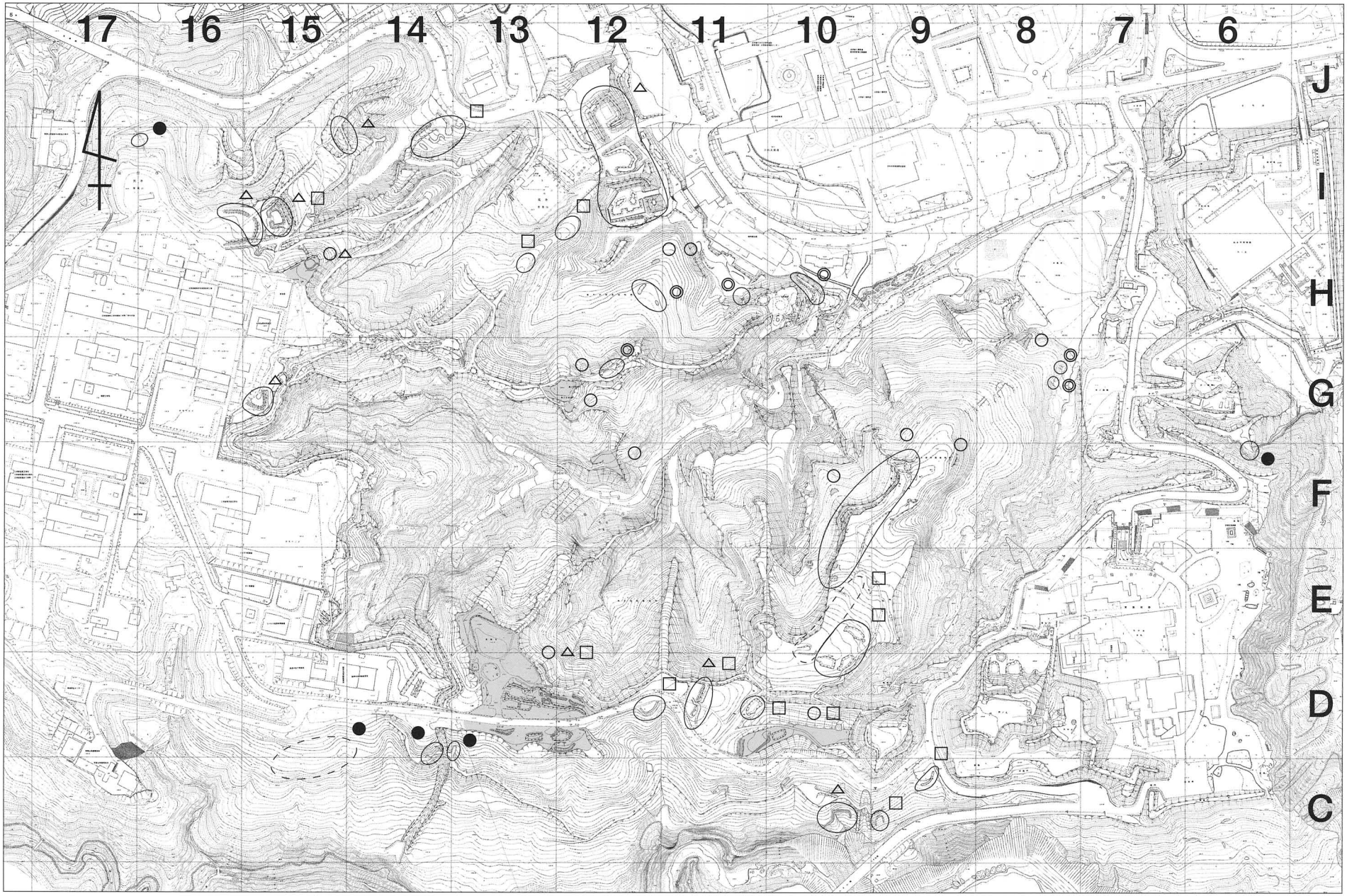
(5) 御裏林地区

本丸西側には堀切1、堀切2、堀切3の南北方向にのびる3条の堀切が存在するが、さらに東西方向の堀切4が存在する。御清水から中嶋池方向へのびる尾根上にある堀切5、堀切6、土塁8、平場8、切岸などの遺構群は、仙台城跡調査指導委員会の千田嘉博委員からは中世にさかのぼる砦遺構の可能性が高いとの指導をいただいた。

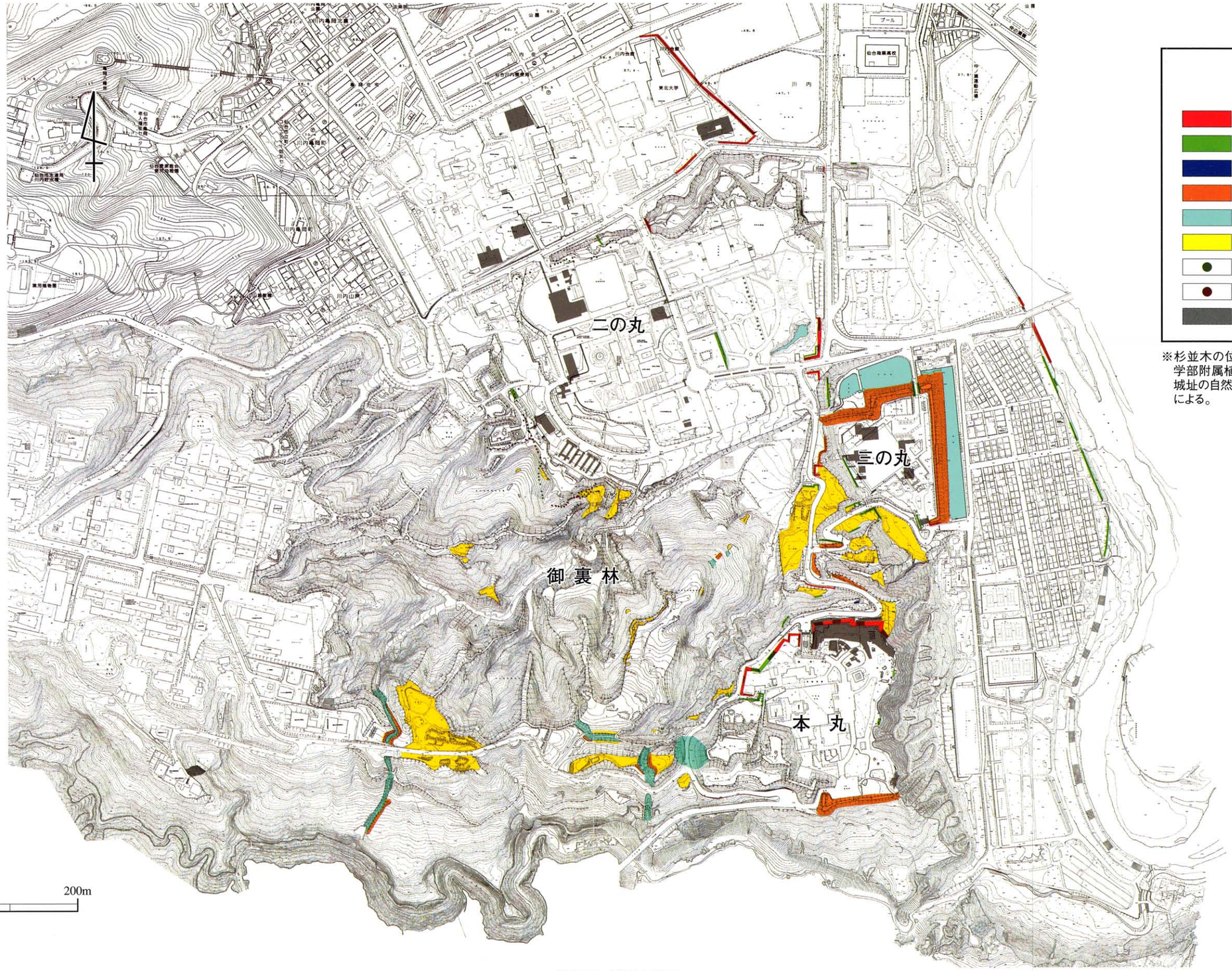
第9図には、塹壕と考えられる細長く屈曲する溝や、大きなくぼ地、亜炭坑と考えられる穴など、近代以降に構築された可能性のある遺構の位置を示した。アミで示した平場のなかには塹壕と考えられる溝や小規模な土塁を伴ったものがあり、第二師団期の工兵作業場であった頃に地形が改変された可能性も考えられるため、計測は行ったものの今回の報告では台帳を示さなかった。これらの遺構の所属時期等については古い地形図や絵図等の分析もあわせて今後とも検討していきたい。

(6) その他の地区

広瀬川西岸に位置する護岸石垣の規模を計測した。また今回は調査していないが、大橋北側の川底には、近世期の大橋の橋脚跡と考えられる穴が認められることから、渇水時に調査していく必要がある。筋違橋東側では、自然石や割石を使用した石垣が発見された。



第９図　近代以降の可能性が考えられる遺構　○平場　△土塁　□堀（塹壕）　◎防空壕？　●亜炭坑？



凡　例

- 石　垣(石材として切石を使用)
- 石　垣(石材として自然石・割石を使用)
- 石組側溝
- 土　塁
- 水堀・堀切
- 平　場
- 杉並木生存木
- 杉並木根痕
- 発掘調査区

※杉並木の位置は、遠田宏「東北大学理学部附属植物園内樹木の樹齢」『仙台城址の自然』(1990仙台市教育委員会)による。

第10図　遺構全体図

報告書抄録

ふりがな	せんだいじょうあと
書名	仙台城跡 4
副書名	－平成15年度　調査報告書－
巻次	4
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第271集
編著者名	渡部 紀　中山 純　伊藤 隆
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒980-8671　仙台市青葉区国分町3丁目7－1　TEL 022－214－8544
発行年月日	2004年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	調査地点	コード 市町村 04100 北緯	コード 遺跡番号 01033 東経	調査期間	調査面積	調査原因
せんだいじょうあと 仙台城跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわうち 青葉区川内ほか		38°15′01″	140°51′35″	2003.05.07 ～ 2003.08.08	約145ha	重要遺跡の遺構確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仙台城跡	城館跡	江戸時代	石垣、土塁 堀切、平場		分布調査を行い、石垣、堀切などの遺構の所在を確認し、記録した。

教育局文化財課

仙台市文化財調査報告書第271集

仙　台　城　跡　4

— 平成15年度　調査報告書 —

2004年3月

発 行　仙台市教育委員会
仙台市青葉区国分町三丁目７－１
文化財課 022(214)8544

印 刷　株式会社 仙台紙工印刷
仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
TEL 022(231)2245